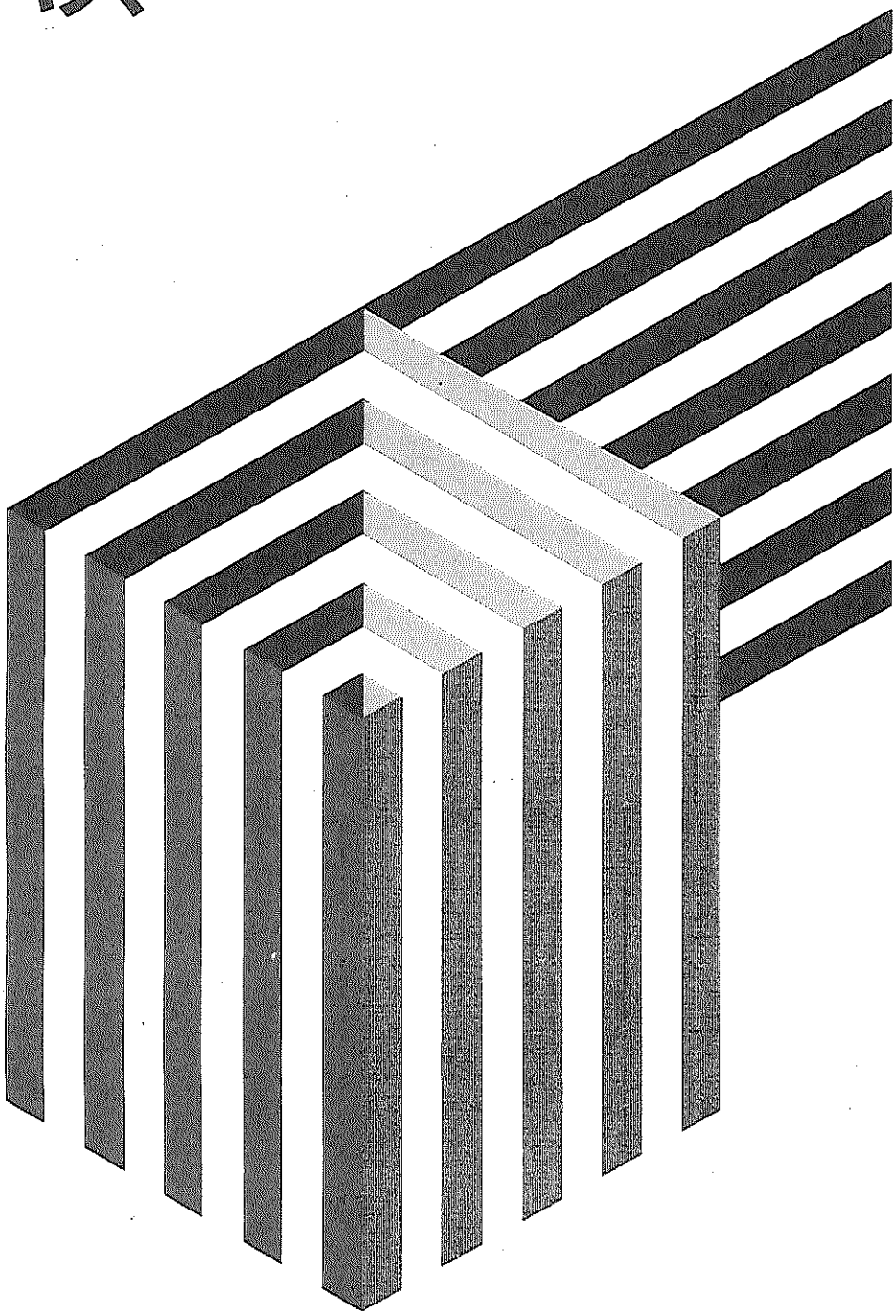
教養課程
シラバス



- 一般教育科目
- 保健体育講義
- 体育実技

（1993年度以前入学者に適用）

1994年度

獨協大学

教養課程シラバス

●一般教育科目

●保健体育講義

●体育実技

（1993年度以前入学者に適用）

1994年度

獨 協 大 学

目　　次

（１９９３年度以前入学者に適用）

一般教育科目

人文科学系列

哲　学	高尾由子	1
	谷口郁夫	3
	松丸壽雄	5
倫理学	市川達人	7
日本語学	桂　千佳子	9
	小島幸枝	11
国　語	飯島一彦	13
	北村　進	15
	黒澤寿子	17
	小島幸枝	19
	肥田野昌之	21
	宮澤康造	23
日本文学	飯島一彦	25
	肥田野昌之	27
外国文学	北澤滋久	29
	関　楠生	31
	松山恒見	33
	宮澤康造	35
日本史	新井孝重	37
	齊藤　博	39
東洋史	春日井　明	41

西洋史		高橋正男	43
	(前期)	小林登志子	45
	(後期)	古川堅治	
	(前期)	吉田泰子	47
	(後期)	古川堅治	
一般言語学		新里博樹	49
一般音声学		伊豆山敦子	51

社会科学系列

経済学(経済学部必修)	小尾惠一郎	53
	高橋房二	55
	益山光央・山本美樹子	59
	松本正信	63
	山越徳	67
経済学(外国語学部・法学部選択)	安藤登	69
	岡田博	71
政治学	小林正弥	73
	志摩園子	75
	深澤民司	77
法学(法学部必修)	明田川昌幸	79
	荒秀	81
	只木誠	83
	松田幹夫	85
法学(外国語学部・経済学部選択)	内藤光博	87
	広部和也	89
社会学	有吉広介	91
社会思想史	市川達人	93
	松丸壽雄	95
人文地理学	犬井正	97
	山本正三	99

自然科学系列

心理学	杉山憲司	101
	針生悦子	103
	三本茂	105
数学Ⅱ	福井尚生	107
数学概論	福井尚生	109
地学	福井尚生	111
生物学A	菅野徹	113
生物学B	菅野徹	115
人類学	井上兼行	117
自然科学概論	遠藤信	119
	福井尚生	121
コンピュータ概論	東孝博・高柳敏子・前田功雄	123

保健体育科目

保健体育講義1	伊藤弘人	125
	久松一恵	126
保健体育講義2	青柳多恵子	127
	梶野克之	128
	松原裕	129
体育実技Ⅱ（体育実技Ⅰを含む）		
（硬式テニス）	田中茂宏	131
（硬式テニス）	中沢克江	133
（硬式テニス）	檜山康	135
（硬式テニス）	和気秀文	137
（硬式テニス1）	小俣充	139
（硬式テニス2）	小俣充	141

（ゴ ル フ）　野口昭彦 …… 143
（ゴ ル フ）　吉田卓司 …… 145
（サッカー）　檜山　康 …… 147
（サッカー）　松本光弘 …… 149
（サッカー）　山中邦夫 …… 151
（サッカー）　和気秀文 …… 153
（ショートテニス・ミニサッカー）　小川又八朗 …… 155
（ソーシャルダンス）　青柳多恵子 …… 157
（ソフトボール）　池垣功一 …… 159
（ソフトボール）　小川又八朗 …… 161
（ソフトボール）　田代力也 …… 163
（ソフトボール）　萩野元祐 …… 165
（ソフトボール・ミニサッカー）　田代力也 …… 167
（卓　　球）　奥野忠枝 …… 169
（卓　　球）　野口和行 …… 171
（卓　　球）　本田稔祐 …… 173
（軟式野球）　萩野元祐 …… 175
（軟式野球）　檜山　康 …… 177
（ハンドボール）　野口和行 …… 179
（バスケットボール）　太田朝博 …… 181
（バスケットボール）　小川又八朗 …… 183
（バスケットボール）　勝瀬　武 …… 185
（バドミントン）　梶野克之 …… 187
（バレーボール）　小俣　充 …… 189
（フリスビー）　小俣　充 …… 191
（ローラーブレード）　加藤雅子 …… 193
（ローラーブレード）　和田　智 …… 195

［集中授業］

（アウトドアレクリエーション山岳型）　和田　智 …… 197
（スキートレーニング・スキー）　松原　裕 …… 199
（ソフトボール・スキー）　田代力也 …… 201
（フリスビー・ウィンドサーフィン）　和田　智 …… 203
（ローラーブレード・アウトドアレクリエーション海浜型）　和田　智 …… 205
（ローラーブレード・スケート）　和田　智 …… 207

哲　　学

担 当 者：高尾　由子

テキスト：

目　　標：「私」自身について、自分自身で理解することは、いろいろな意味で難しい。本講義では、自分自身を哲学的に考えることを目的に、哲学史上主要な著作をとりあげ、「自我」の問題を展開してゆく。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	前期は、主にプラトンの「ソクラテスの弁明」とデカルトの「方法叙説」を手がかりとして、自分自身を哲学的に考えるとはいかなることかを論じる。
	2	プラトン「ソクラテスの弁明」
	3	プラトン「ソクラテスの弁明」
	4	プラトン「ソクラテスの弁明」
	5	プラトン「ソクラテスの弁明」
	6	プラトン「ソクラテスの弁明」
	7	デカルト「方法叙説」
	8	デカルト「方法叙説」
	9	デカルト「方法叙説」
	10	デカルト「方法叙説」
	11	デカルト「方法叙説」
	12	前期のまとめとレポートについて
備考		

	週	内　　容
後期	1	後期は、カントの「純粋理性批判」第二版序言とヴィトゲンシュタインの「論理哲学論考」をとりあげる。
	2	カント「純粋理性批判」
	3	カント「純粋理性批判」
	4	カント「純粋理性批判」
	5	カント「純粋理性批判」
	6	カント「純粋理性批判」
	7	カント「純粋理性批判」
	8	ヴィトゲンシュタイン「論理哲学論考」
	9	ヴィトゲンシュタイン「論理哲学論考」
	10	ヴィトゲンシュタイン「論理哲学論考」
	11	講義全体のまとめ
	12	講義全体のまとめとレポートについて
備考		

参考文献：　講義中に指示する。

評価方法：　前後期各一回のレポートによって評価する。いずれも、試験期間中に(提出課題、試験等)提出すること。

哲　　学

担 当 者：谷口　郁夫

テキスト：なし

目　　標：哲学史をたどる形をとるが、それぞれの時代において何が問題となったかを考えることを通じて、「今」は何が問題とされるべきなのかも考えたい。従って、絶えず現代との関わりを念頭におきながら論ずることを課題とする。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	「哲学」とは何か
	2	ソクラテス以前の哲学者。問題となった事柄・方法的特徴などを中心に取り上げる。
	3	ソクラテスとプラトン〔1〕。ソクラテス以前とソクラテス以後の転回点について。
	4	ソクラテスとプラトン〔2〕。両者の分岐点。ソクラテスの方法と死刑・対話法・知行合一など。
	5	ソクラテスとプラトン〔3〕。プラトンの方法とイデア論。理想国家論。
	6	アリストテレス。形而上学を中心に取り上げる。
	7	ユダヤ教とキリスト教〔1〕。キリスト教の母胎となったユダヤ教の歴史と特質について。
	8	ユダヤ教とキリスト教〔2〕。歴史的イエスと原始キリスト教。
	9	ユダヤ教とキリスト教〔3〕。キリスト教の哲学に対する影響について。
	10	近代の始まり〔1〕。中世スコラ哲学とルネッサンス期の哲学について。
	11	近代の始まり〔2〕。宗教改革。ベーコンの経験論とデカルトの合理論。
	12	予備。前期試験。
備考		

	週	内　　容
後期	1	近代の哲学〔1〕。デカルトとパスカル。デカルトの方法論とパスカルにおける人間の偉大。
	2	近代の哲学〔2〕。ベーコン・ロックの経験論。なぜイギリスでは経験を重視する哲学が育ったのかを歴史的に吟味することも課題とする
	3	近代の哲学〔3〕。カント以前のドイツの思想家達。カントの哲学。
	4	近代の哲学〔4〕。ドイツとドイツ哲学の特徴。特にイギリス哲学と対照させて考える。
	5	現代の哲学へ〔1〕。ヘーゲル哲学とヘーゲル左派。
	6	現代の哲学へ〔2〕。ヘーゲル左派の思想家達。特に、フォイエルバッハとマルクスを取り上げ、現代とのつながりを考える。
	7	現代の哲学へ〔3〕。キルケゴールの思想。実存思想と呼ばれる彼の思想について。
	8	現代の哲学へ〔4〕。キルケゴールの思想。二十世紀の初頭に流行した実存哲学の淵源となった彼の思想を取り上げることで、時代と思想の関わりを考える。
	9	現代の哲学へ〔5〕。ドストエフスキーの文学作品とロシアの時代との関係について。
	10	現代の哲学へ〔6〕。ニーチェの思想。キリスト教との関わりを中心に、彼がなぜ価値転換を要求したのかについて考える。
	11	現代の哲学へ〔7〕。二十世紀の思想家達。
	12	予備。後期試験。
備考		

評価方法：前期・後期の学期末にそれぞれ一般常識レベルの試験を行ない、学年末に(提出課題、試験等)２０００字前後のレポートを提出してもらう。重点はレポートにおく。

哲　　学

担 当 者：松丸　壽雄　　研究室：［７２８］
テキスト：なし
目　　標：哲学とは何か。その理解を試みつつ、ディスカッションを通じて、現実の世界における生きる意味を探る。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	イントロダクション
	2	愛とは何かについての一般的考察
	3	愛の現実世界における意味を探る
	4	プラトンの愛についての講義一続き
	5	愛についての、他の哲学者の考え。
	6	ディスカッション 「愛」とはどのような意味を各人において持っているのか。
	7	ディスカッションに基づく、各班の考察と発表と全体での議論。
	8	自殺についての一般的考察。
	9	自殺とは単なる自己愛にもとづくものか、それとも別の意味をもつのか。
	10	自殺を認めることができるのか、についての考察
	11	ディスカッション 「自殺」とは各人はどう受けとめるべきかについて。
	12	ディスカッションに基づく、各班の考察と発表と全体での議論。
備考		

	週	内　　容
後期	1	死についての一般的考察
	2	死についての哲学者の考え－１－
	3	死についての哲学者の考え－２－
	4	現実世界において各人は死をどういう立場からとらえられるか。 「脳死」についての考察
	5	ディスカッション
	6	ディスカッションに基づく、各班の考察と発表と全体議論。
	7	「生きる」とはどういうことかについての一般的考察。
	8	「生きる」ことの現実的意味 生物学からの意味づけ
	9	「生きる」ことの現実的意味 物理学からの意味づけ
	10	「生きる」ことの哲学的諸考察
	11	ディスカッション
	12	ディスカッションに基づく、各班の考察と発表と全体議論
備考		

評価方法：各ディスカッションの報告をまとめる形で、前期２回、後期は１回を出し、
(提出課題、試験等)最終的に、更に同上の報告を総てまとめるなり、自分の意見をはっきり出す
しかたで、もう一回、計４回の報告書を出すこと。

倫　理　学

担 当 者：市川　達人

テキスト：使わない。

目　　標：前半は倫理についての理論的理解がなぜ必要なのかを考えながら、倫理学の基礎カテゴリーの理解を、後半は生命倫理という具体的問題への取り組みを課題とする。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	一年間の予定。講義の予備知識（倫理学と哲学、倫理学の対象と課題）
	2	教養としての倫理の意義。
	3	倫理についての常識的観念と学問的接近 倫理への敬遠意識と近代における脱倫理化現象
	4	規範としての倫理(1) 動機――行為――結果の連関
	5	規範としての倫理(2) 倫理と法――権力、正当性
	6	規範としての倫理(3) 倫理と法――順法精神、価値合理性と目的合理性
	7	規範としての倫理(4) 倫理と習俗
	8	価値としての倫理(1) 欲求構造と価値
	9	価値としての倫理(2) 事実と価値
	10	価値としての倫理(3) 価値の普遍性と主体性
	11	価値としての倫理(4) 倫理的価値尺度としての人間性、自己実現か自己解放か
	12	倫理的問題状況(1) 倫理学の発生と倫理的問題状況
備考		

	週	内　　容
後期	1	倫理的問題状況(2) 現代の倫理的問題状況の構図（個人と社会）
	2	モラルの立場　モラリストと個人道徳（倫理の一身化）
	3	倫理と科学（科学からの倫理批判と、倫理からの科学批判）
	4	生命倫理(1) 生命をめぐる倫理的問題状況 脳死と臓器移植、安楽死、ターミナル・ケア、インフォームド・コンセント
	5	生命倫理(2) 身体は誰のものか
	6	生命倫理(3) 身体に関する機械論的モデル
	7	生命倫理(4) 身体に関する共同論的モデル
	8	生命倫理(5) 身体に関するエコロジー的モデル
	9	生命倫理(6) 生命の質をめぐって
	10	生命倫理(7) 生命倫理に関する功利主義的解決の問題
	11	生命倫理(8) 同上
	12	生命倫理(9) まとめ
備考		

参考文献：講義で適宜指示

評価方法：成績評価は授業への出席度、レポートによって行なう。また場合によっては(提出課題、試験等)討論を組むが、これへの参加も評価の対象とする。

日　本　語　学

担 当 者：桂　千佳子

テキスト：特になし

目　　標：前期：言葉を客観的に捉え、その機能や構造に自分なりに疑問を持って考え各自がオリジナルな言語観を持つことを目標とする。後期：近代以降の国語学者の文法論を学び、その理論がどう展開されてきたのかを理解する。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	第１回目の授業では、(1) 講義の概要、方針について触れ、(2) なぜ言葉が通じるのかについて考える。
	2	第２回目の授業では、言葉を客観的に捉える手はじめとして、日本語学習者の誤用例の分析を行なってもらう。
	3	第３回目の授業では、中学以来の文法知識を整理し問題提起をしていくためにいくつかの語の品詞分けを行なう。
	4	第４回目の授業から４回にわたり、日本語の文の成り立ちについて考える。その①－文を理解するとはどういうことか。
	5	第５回目の授業は、日本語の文の成り立ちその②－コトの類型。
	6	第６回目の授業は、日本語の文の成り立ちその③－格文法、依存文法、結合価文法。
	7	第７回目の授業は、日本語の文の成り立ちその④－文より大きな単位。
	8	第８回目の授業では、言語構造と文法観との関係をとりあげ、日本語の特徴について考える。
	9	第９回目の授業では、日本語の述語の活用をとりあげる。
	10	第10回目の授業では、述語に接続する各成分をとりあげ、その機能について考える。
	11	第11回目の授業では、日本語の単文の構造のまとめを行う。
	12	第12回目の授業では、前期の授業内容を中心としたテストを行う。
備考		

	週	内　　容
後期	1	第１回目の授業では、日本語の単文の構造を、その階層性から考えてみる。
	2	第２回目の授業から、５回にわたり「陳述論争」をとりあげる。その①－山田孝雄の文法論。
	3	第３回目の授業は、「陳述論争」その②－三宅武郎、三尾砂、時枝誠記の文法論。
	4	第４回目の授業は、「陳述論争」その③－大野晋、永野賢、阪倉篤義、金田一春彦、芳賀綜等の指摘。
	5	第５回目の授業は、「陳述論争」その④－渡辺実の文法論。
	6	第６回目の授業は、「陳述論争」その⑤－林四郎、南不二夫の文の構造。
	7	第７回目の授業から、４回にわたり「ハ」と「ガ」の問題をとりあげる。その①－「ハ」をめぐる論争。山田孝雄、松下大三郎、佐久間鼎の理論。
	8	第８回目の授業は、「ハ」と「ガ」その②－三上章の主語抹殺論。
	9	第９回目の授業は、「ハ」と「ガ」その③－文レベルにおける「ハ」と「ガ」の機能。
	10	第10回目の授業は、「ハ」と「ガ」その④－文章、談話レベルにおける「ハ」と「ガ」の機能。
	11	第11回目の授業では、研究性かの社会的意義について考える。具体的には、語学教育の変遷をとりあげる。
	12	第12回目の授業では、主に後期の授業で扱った問題をテーマとしたテストを行う。
備考		

参考文献：　その都度指示。

評価方法：（提出課題、試験等）　評価は、授業への貢献度と、前・後期各一回の試験の結果によって行なう。試験は論述を中心とし、テーマについてはできる限り事前に説明するので単なる感想文であったり、知識の披瀝に終らぬよう各自、自分なりの視点から考えを煮つめておくこと。

日　本　語　学

担 当 者：小島　幸枝　　研究室：［７０９］

テキスト：国語史資料集――図録と解説――（武蔵野書院）

目　　標：日本語の音声・音韻・文字・語法について、資料（写真）に基づいて概説する。古辞書（慶長以前）を実際に活用して、日本人の生活を知りたい。（日本語の本質とその変遷を学ぶことを目的とする）

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	世界の言語からみた日本語の特徴と特質を学習する
	2	日本語の系統論各種とそのポイントを知る
	3	国語学とはどのような学問か。国語学の研究分野および研究法について
	4	音声と音韻について。古代日本語の音韻の実態。（上代特殊仮名遣とその特質）その１（イ段とエ段の乙類）
	5	同上その２（オ段乙類について）
	6	音韻史（中世国語音の文化的背景について）
	7	いろは歌の意義と日本語における位置づけ
	8	いろは歌の背景とその影響
	9	五十音図の意義と日本語における位置
	10	五十音図の歴史
	11	四つ仮名と開合　その１
	12	同上その２
備考		

	週	内　　容
後期	1	日本語のアクセント ――類聚名義抄について
	2	日本語のアクセント ――京阪式アクセントと東京式アクセントおよび一型アクセントについて
	3	日本の文字とその歴史（万葉仮名、片仮名、平仮名、ローマ字、日文）その歴史と意義
	4	定家かなづかいについて（文字と音韻との関係）
	5	行書体を読む（実習）
	6	契沖かなづかい（歴史的仮名遣）の意義とその現代的意味
	7	漢字のよみとその歴史（呉音、漢音、宋音）
	8	文法と文法論、各学説の特徴
	9	文、文節、単語と品詞分解
	10	文の構成と種類、文法史の概要
	11	係結びの原理、その現代的意味（助詞の機能）
	12	動詞の活用の変遷と方向性
備考		

参考文献：前期開講時に紹介する

評価方法：前後期に各１本ずつ、レポート提出。テストは原則としてしない。
（提出課題、試験等）

国　　語

担 当 者：飯島　一彦　　研究室：［７３０］

テキスト：テキストは特に用いない。

目　　標：表現の基礎からトレーニングを始め、口頭表現を中心に、文章表現もふくめて表現意図と一致した表現を体得することを目指す。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	表現とは何か？日本語で表現するとはどういうことか、等についての講義。授業の進め方。
	2	表現＝コミュニケーションのサイクルについて。講義と実践。
	3	自己紹介について。
	4	自己紹介について。――自分のキャッチフレーズ
	5	自分とは何か。表現意図の根幹。
	6	自分の意思――本当にイイタイコト
	7	相手を受け止める。相手に受け入れてもらう。
	8	表現のキャッチボール①
	9	表現のキャッチボール②
	10	表現のくせ、思わずやっていること。
	11	言いたいことを言う。
	12	前期総合、講義と実践。
備考	以上の項目について必要な講義と、学生諸君の実践を行なう。尚、毎週課題を出しそれに基いて実践も行なう。尚、学生諸君の実力に応じて、上記通には進まない。	

週		内　　容
後期	1	現在の自分・相手、それに基づく表現。
	2	他者との関わりとの中での自分、それにもとづく表現。
	3	多数の聴衆を前にするスピーチ①
	4	スピーチ②
	5	演説の表現と文章語。
	6	自らの解釈と表現のギャップ。
	7	他人の表現を自分のものにする①
	8	他人の表現を自分のものにする②
	9	私は○○です。――自己認識の表現
	10	私は○○になりたい。――意志の表現
	11	総合表現①
	12	総合表現②
備考	前期と同様。進度に応じて、必ずしもこの通り進むとは限らない。	

評価方法：毎週の課題提出状況と、毎時間の作業の結果で評価。いわゆる平常点のみ。
（提出課題、試験等）

国　　語

担 当 者：北村　進

テキスト：丸野弥高、古関吉雄他『新修　日本叙情詩歌』（株）おうふう

目　　標：和歌・短歌の表現を通して日本語の美しさを学ぶとともに、実作によって表現の仕方を身につける。多くのすぐれた作品に触れ、それらを覚えることは教養の一つであり、美しい日本語を身につける手段でもある。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	『万葉集』から現代短歌まで、和歌の歴史の概略を解説し、それぞれの時代の代表的な歌集及び歌人について解説する。
	2	『万葉集』の歌を四回にわたって取り上げ、その表現の特質について考察する。第一回目は初期万葉の歌を取り上げる。
	3	第二回目は宮廷歌人の歌を取り上げる。具体的には柿本人麻呂・山部赤人・笠金村などの歌人の歌が中心となる。
	4	第三回目は中国文学の影響を色濃く漂わせている大伴旅人・山上憶良を中心にいわゆる貴族文人の歌を取り上げる。
	5	第四回目は近代的憂愁を并せ持った大伴家持の歌を取り上げる。更に東歌・防人の歌・作者未詳の歌も取り上げたい。
	6	『古今集』の歌を取り上げる。とりわけ人口に膾炙した名歌を中心に、『古今集』の表現の特質について考察する。
	7	小野小町・和泉式部・伊勢等女流歌人の歌、及び当時としては異端であった曽祢好忠の歌を取り上げて考察を加える。
	8	『新古今集』の代表的歌人の歌を取り上げ、『新古今集』の歌風について考察する。
	9	西行・実朝の歌を取り上げ、それぞれの歌人の歌の特質について考える。実朝については『万葉集』からの影響についても考える。
	10	『玉葉集』『風雅集』の中から京極為兼・永福門院等の歌人の歌を取り上げ、歌風の変遷について考察する。
	11	二回にわたって歌謡を取り上げる。第一回目は『梁塵秘抄』の中から、よく知られた歌謡のいくつかを取り上げ解説する。
	12	第二回目は、『閑吟集』『隆達小歌』『松の葉』『山家鳥虫歌』の歌謡を取り上げ、現代の流行歌と比較してみたい。
備考		

週		内　　容
後期	1	近世の和歌を取り上げる。賀茂真淵は万葉調の歌を詠み、これに異を唱えた香川景樹は古今的なしらべを重んじた。この二人を中心に考察する。
	2	近世末期に登場した歌人たち、当時は景樹の桂園派が主流であったが、これに属さず独自の立場を守った良寛・大隈言道・橘曙覧の歌を取り上げる。
	3	正岡子規らの和歌改良論及びその歌を取り上げ、和歌が近代的な短歌に脱皮してゆく過程について考察する。
	4	明星派の歌人たちを二回にわたって取り上げる。第一回目は、与謝野鉄寛・与謝野晶子・山川登美子の歌を取り上げ、与えた影響について考える。
	5	第二回目は窪田空穂・石川啄木・北原白秋など後世に名を残した人たちの歌を取り上げ、その魅力をさぐってみる。
	6	伊藤左千夫・島木赤彦・斎藤茂吉などアララギ派の歌人たちの歌を取り上げ、歌の特徴について考察し、この派の息の長さについて考える。
	7	この時期に活躍したその他の歌人たち－佐佐木信綱・釈迢空・若山牧水・会津八一などの歌人の歌を取り上げる。
	8	近代女流歌人の歌を取り上げ、その生き様と歌について考察する。石上露子・原阿佐緒・今井邦子など。
	9	二回にわたって詩を取り上げる。第一回目は島崎藤村の一連の詩、及び上田敏の訳詩集『海潮音』、堀口大学の訳詩集『月下の一群』など。
	10	第二回目は室生犀星・佐藤春夫・宮沢賢治・三好達治・立原道造などの詩を取り上げて考察する。
	11	戦後から今日までの短歌について、第二芸術論なども紹介しながら、取り上げる。寺山修司・俵万智の歌も対象とする。
	12	現代歌謡を取り上げる。演歌・ポップス・ニューミュージック・フォークなどあらゆるジャンルの歌を考察の対象とする。
備考		

参考文献：必要なものについてはその都度指示する。

評価方法：出席を重視する。

(提出課題、試験等)前期はレポート提出。後期については未定。

国　　語

担 当 者：黒澤　寿子

テキスト：プリント配布

目　　標：自分の思っていること、伝えたいことを過不足なく他者に伝えられるような文章力、表現力をつけることを目標とする。話す、聞く、読む、書く全てにバランスの取れた能力をつけていきたい。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	“国語についての思い”を織りこみつつ各自、三分間スピーチを試みる。
	2	ある商品のイメージを各自が浮かべつつ、それについての広告文を作成してみる。制限字数内で効果的な文章が作れるようにする。（商品は水枕等何でも）
	3	前時の広告文を使って、各自売込論戦を展開してみる。そしてそれに敵対する人間を置くことで、相手の意見を聞きつつ自分の主張を打ち出すやり方を会得する。
	4	
	5	手紙の書き方の規範と、それにのっとりつつも心のこもった手紙の書き方について学ぶ。――実作。
	6	前時の作品をもとに、推敲のし方について学びつつ、いろいろな表現のし方があることを知る。
	7	「着られない」が「着れない」など、いわゆるら抜き言葉は既に市民権を得つつある。先日の答申もそれを物語り、又この言い方は既に明治の頃から一部ではみられていたことなどを紹介した上で、美しい表現とは、正確な表現とは望ましい表現とは、など、種々の角度から言葉を考えてみたい。
	8	
	9	敬語について考える。昔と今も比較してみたい。例えば古典に出てくる自敬表現は現代にあるのかないのか、最高敬語はどうか、二重敬語は、など。
	10	
	11	わらべうたのうちの“まじないうた”“となえうた”をよむことを通して、言葉の持つ力について考えた上で、実作してみる。
	12	
備考		

	週	内　　容
後期	1	怪談は、最も文章力を要するとも言われている。そのような見地から、まず古典的な怪談をしばらく読み進めて表現力を学んだ上で、実際に怪談を各自が作ってみる。
	2	
	3	
	4	
	5	故事成語について考える。また自分の気に入っている格言等を自由にイラスト化してみる。
	6	文化と言葉について考える。例えば国によって“花”といってもイメージするものは違っている。それらのことについて幅広く柔軟に考えてみたい。
	7	
	8	ユーモアについて書かれたエッセイ及びそれに対する反論をよみ、ユーモアとは何か考える。
	9	ユーモアが含まれたエッセイを１つ書く。
	10	自分史を書き、相互批評を試みる。
	11	
	12	
備考		

評価方法：授業時における積極的参加及び前後期数回にわたる作品で評価する。

国　　語

担 当 者：小島　幸枝　　研究室：［７０９］

テキスト：文章構成法　森岡健二編著（東海大学出版会）

目　　標：現代の動勢の中で自らの意見を、正確で品位のある日本語で表現する力の養成。実用文が難なく書けるようになることを目標とするが、各自、十分な漢字力をつけ語彙量を増強する訓練を怠らないことを前提としたい。

年間予定　　）

	週	
前期	1	表現者（送り手）と理解者（受け手）のことばにおけるメカニズムを概説
	2	音声言語について。文字言語との差異および特徴を認識する
	3	音声言語の種々相
	4	日本語の基礎知識――日本語の音韻、アクセントの特徴
	5	美しいことばの条件。正確さと品格をどのように獲得するか
	6	スピーチ（演習）　ひとのスピーチをきいて評価、および自己評価をする
	7	反省とまとめ　（次週ディベートの予告）
	8	ディベート
	9	反省とまとめ
	10	敬語について。日本の敬語の歴史と特徴（上代～中世）
	11	同上（中世末～現代）
	12	漢字テスト
備考		

	週	内　　容
後期	1	文字言語――文章を書く手順、材料のあつめ方
	2	文章を書く――自由文又は意見文
	3	交換、添削しあう
	4	手紙を書く――型のある文章、敬語
	5	材料の収集と選択、配列――説明文、報告文を書く
	6	文献、資料を用いて文章を補強する
	7	漢字テスト
	8	アウトラインの作り方――効率よく文章を書くために
	9	評論を書く
	10	段落とトピックセンテンスのきめ方――書評を書く
	11	交換、批評しあう
	12	推敲のポイントを学ぶ。まとめ
備考	前期は、読解と実作を習慣づけるために宿題形式で①社説要約（週１作）②読書報告（月１本）③作文（週１作）を課すが後期は短時間で実作する習慣をつけるために作文は授業中に完成する。従って③の課題はない。	

評価方法：平常の提出物で評価する。試験はしない。
（提出課題、試験等）

国　　語

（国語表現と国語・国文）

担 当 者：肥田野　昌之　　研究室：［７０７］

テキスト：『新しい常用漢字の書き表し方』

目　　標：　日本語への関心を深め、日本語による表現を豊にしようとするものである。また常用漢字の練習や日本語・日本文学の基本的な知識の学習を通して大学生としての教養を深めたいと思う。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	国語表現についての意義と一年間の講義概要を説明する。
	2	現代社会における文章の機能についての考察とともに文章上達法について考える。
	3	「文は人なり」について考えるとともに文章と文体についても言及する。
	4	文章表現のプロセスとして、文章の目的・主題の選定・主題の限定などについて説明する。
	5	文章表現のプロセスとして、材料の意義・材料の源泉などについて説明する。
	6	文章表現のプロセスとして、材料の順序と構成やアウトラインについて説明する。
	7	豊かな内容とは――物の見方や読書などについて考える。
	8	国語表記の問題――段落の分け方や送りがなどについても言及する。
	9	作文を書く（添削と採点）
	10	作品を返還して、感想や注意事項を述べる。誤字の問題、常体・敬体の混在など。
	11	原稿用紙の使い方や校正などについても説明する。
	12	学生が黒板に出て、漢字かなつけ・漢字書き取りを行う。
備考		

	週	内　　容
後期	1	教養として能・狂言の入門――熊野・附子など――
	2	教養としての歌舞伎入門――勧進帳・与話情浮名横櫛など――
	3	文字について――特に「漢字御廃止之儀」から常用漢字までを概説する。
	4	仮名づかいについて――仮名づかいの歴史特に歴史かなづかいと現代かなづかいに力点をおいて説明する。
	5	標準語と方言について説明し、女房詞や忌詞などについてもふれる。
	6	文章のさまざま――実用性の濃い文章と芸術性の濃い文章など――
	7	手紙の書き方――手紙の形式を中心にして説明する――
	8	課題作文を書く（添削と採点）
	9	作品を返還し、感想や注意事項を述べる。
	10	学生が黒板に出て、四字句の完成などを行う。
	11	まとめとしてプリント二枚を配り、年度末試験についての傾向と対策を説明する。
	12	ことばと社会について――ことばの乱れや敬語法について考える。
備考		

評価方法：評価は、授業への出席と実作および年度末の試験によって決定する。
（提出課題、試験等）

国　　語

担 当 者：宮澤　康造

テキスト：①『文章の書き方』（文化庁）　②『作家・文学碑の旅』（宮澤康造）

目　　標：国語表現には言語と文字（文章）による二つがある。本講座は文字表現を主として展開し、その基本を身につけると共に、実作と作家の文章の考察により文章力を高める。また応用として新聞・雑誌の編集についても広く学ぶ。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	年間講座要項、国語表現参考書目（プリント）により、年間の講座の概要を示す。また文章の姿、上達のための要件について講話。
	2	手紙について――文章に習熟する近道は、手紙と日記を書くことである。まず手紙についての知識から身につけるようにする。実習――封筒の書き方
	3	手紙の実習と諸注意――手紙についての具体的留意事項を葉書・封書・往復葉書・海外郵便等で学ぶ。
	4	作家の手紙の考察――藤村・漱石はじめ作家の書簡から学ぶ。 詩から散文へ――藤村の小諸時代の手紙。資料としての手紙。
	5	文章の書き方――テキスト①座談会の要約をメモしながら、文章の要点を学ぶ。メモのとり方と実習。記録というものの力。持続は力なりということ。
	6	原稿用紙の書き方――文章における段落というものの理解、原稿用紙の正しい表記に慣れる。
	7	文題と内容――一般題と特殊的文題の理解、題材とその構成のしかたについて学ぶ。テキスト①文章の技術
	8	漢字の学習――誤り易い漢字や熟語、身につけたい１６０の漢字、漢字の字源、構成を学ぶ。
	9	文章の書き方――望ましい文章とは何か、機能的な文章への関心を深める。文章の種類とそれに応じた書き方を学ぶ。
	10	文章論に学ぶ――作家の文章読本・文章論を通じて、文章のあるべき姿を知る。書き出しの工夫、結びの要領を学ぶ。
	11	文学碑のことば――作家の文学碑に刻まれたことばや文章を通じて、ことばの力を考える。それぞれの作家の特色の理解。テキスト②
	12	埼玉県の文学碑――文学碑一覧により、学園近辺の文学を理解する。とくに芭蕉と草加などレポートのまとめ方、夏休みの自主レポートを計画する。
備考		夏休みを利用して、国語表現にかかわる学習を進める。その参考題目を挙げ、その中より自主レポートして進んでまとめることを心がける。

	週	内　　容
後期	1	前期答案の返却と概評。「ことしの夏を語る」感想発表またはメモ。題材となるものをどのように列べるか考える。　実作――「ことしの夏」
	2	作家の文章の考察――一短編を選び、その主題を考察する。さらにその書き出しと結筆の工夫を考える。
	3	かな（カナ）文字について――「あいうえお」五十音、「いろは歌」四十七文字の由来、かな・カタカナの由来、変体仮名について学ぶ。
	4	作家と文章――好きな作家を選び、その文章の特色を考え、文章の道を学ぶ作家とエッセイ（随筆集）、作家のペンネームの由来を知る。テキスト②
	5	外来語――新聞・雑誌に登場するカタカナ語・外来語の理解と文章中での生かし方。キーワードについて。　実習――カタカナ語の収録
	6	新聞に学ぶ――日刊新聞を通じて、新聞のあるべき姿、その概要を知る。見出しと内容について。社説、コラムの文章について。実習――新聞記事切抜き
	7	新聞に学ぶ――新聞・雑誌の編集について。割付けということ。作家・文人の投稿の文章、コラム欄に学ぶ。
	8	作家の文章論に学ぶ――作家の文章読本、文章論を通じて文章のあり方を考える。丸谷才一「名文を読め」ということ。（前期の展開）
	9	短詩型文学について――日本の韻文として、和歌、俳句、川柳、詩等のさまざまの短詩型文学を理解する。　実作――俳句を作る
	10	レポート、論文のまとめ方――資料を生かしていかに整った文章に構成するかを学ぶ。　実作――「大学生活とは」
	11	自分史のまとめ――現在迄の年譜の作成。その中の一時代の文章化を試みるその積み重ねで自分史をまとめる。　実作――「～のころ」
	12	情報や資料の生かし方――溢れる情報洪水の中から、いかに資料を収集し、生かすかを学ぶ。スクラップの作り方。
備考	プリント資料の綴じ込み作成	

参考文献：前期第１時の「国語表現参考書目」（プリント）で提示。

評価方法：次の五つの観点から総合評価する。

（提出課題、試験等）　①出席を重視する。その都度のノート・プリントの整理、累加記録はできているか。文章の上達は持続的努力という観点から。

②前後２回のテストの成績。

③作文のまとめと提出状況。

④小テスト、自主レポートなどへの参加。

⑤学生の自己評価表。

日　本　文　学

担 当 者：飯島　一彦　　研究室：［７３０］
テキスト：小学館「完訳日本の古典」御伽草子集
目　　標：日本のお伽話の代表である御伽草子の中から数篇を読み解くことで、日本人の庶民の持ち続ける文芸伝統を再発見する。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	「お伽草子」とは
	2	「お伽草子」に見るお伽話
	3	お伽話の数々と、文芸伝統
	4	一寸法師①
	5	一寸法師②
	6	一寸法師③
	7	一寸法師④
	8	浦島太郎①
	9	浦島太郎②
	10	浦島太郎③
	11	浦島太郎④
	12	浦島太郎⑤
備考	前期は一寸法師と浦島太郎を読み解くが、単に読むのではなく、過去にも未来にも拡大する日本文学の話をおりまぜて講義する。	

	週	内　　容
後期	1	御曹子島渡①
	2	御曹子島渡②
	3	御曹子島渡③
	4	御曹子島渡④
	5	御曹子島渡⑤
	6	和泉式部　①
	7	和泉式部　②
	8	和泉式部　③
	9	和泉式部　④
	10	和泉式部　⑤
	11	まとめ①
	12	まとめ②
備考	前期と同じ。ただし夏休みのレポートのでき自体によって、個人発表でやることも考える。	

参考文献：教室で指示。

評価方法：夏冬のレポートと平常点。

（提出課題、試験等）

日　本　文　学

（万葉集入門）

担 当 者：肥田野　昌之　　研究室：［７０７］

テキスト：小野　寛校註『万葉集抄』　笠間書院

目　　標：　日本の代表的な古典である万葉集を講読する。主として作品の背景をなす万葉の時代・万葉人の生活・歴史的事件などについて解説し、教養人として必要な「万葉集入門」となるような講義をしたいと思う。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	一年間の講義概要の説明。『万葉集』について名義・成立・注釈書などを概説する。
	2	巻一国歌大鑑１番・雄略天皇の歌について考える。
	3	中大兄の三山歌について、いろいろな角度から考察する。
	4	額田王とその歌についての説明と鑑賞。
	5	柿本人麻呂とその長歌を中心にして読む。
	6	大津皇子・大伯皇女について、謀反事件を考察しながら、それらの歌を読む。
	7	穂積皇子と但馬皇女の悲恋と歌物語について。
	8	有間皇子の謀反と歌について、日本書紀を参考にして考える。
	9	再び柿本人麻呂の短歌とその終焉について考える。
	10	山部赤人「不尽山を望くる歌」を中心にして読む。
	11	前期のまとめとしてプリント二枚を配って、前期試験の傾向と対策について説明する。
	12	大宰帥大伴旅人「酒を讃むる歌」を中心にして読む。
備考		

	週	内　　容
後期	1	真間娘子について――赤人と虫麻呂――
	2	山上憶良とその歌――貧窮問答歌を中心にして――
	3	万葉集の歌体について、特に旋頭歌を中心にしての歌と説明。
	4	高橋虫麻呂の伝説歌について――浦島子・菟原処女など――
	5	寄物陳思・正述心緒――巻十一の歌を読む。
	6	万葉集の用字法――特に義訓・戯訓など――
	7	東歌についての説明と歌。
	8	中臣宅守と狭野弟上娘子の贈答を中心にして購読する。
	9	巻十六有由縁并雑歌を中心にして読む。
	10	大伴家持とその歌について講読する。
	11	後期のまとめとしてプリント二枚を配り、後期試験の傾向と対策について説明する。
	12	防人歌についての説明と歌。上代特殊仮名遣についての説明する。
備考		

評価方法：評価は、授業への出席と前・後試験によって決定する。
（提出課題、試験等）

外　国　文　学

（英米文学に観る人間像）

担 当 者：北澤　滋久　　研究室：［５０２］

テキスト：

目　　標：英米文学中の古典・傑作を、いくつかのトピックスに大別して、１講義、１作家、１作品を原則に、定説を踏まえながらも担当者独自の観点から解説することにより、文学の楽しさを伝え、併せて教養豊な国際人をめざすものの人間形成の一助とすることを主たる目的とする。テクストは特に定めない。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	登録のよすがに：本講義の内容と目標、そして受講者に願うこと
	2	開講の辞：言語・文学・芸術、そして言語芸術としての文学
	3	Ⅰ　現代文明下のアメリカの少年たち 『ハックルベリィの冒険』：インノセントな魂 THE ADVENTURES OF HUCKLEBERRY FINN　by Mark Twain
	4	『ブラック・ボーイ』：人種差別に抗って BLACK BOY　by Richard Wright
	5	『ライ麦畑でつかまえて』：現代社会に生きることの苦悩 THE CATCHER IN THE RYE　by J.D.Salinger
	6	Ⅱ　１９世紀、イギリスの娘たち 『テス』：汚された？純潔　TESS OF THE D'URBERVILLES　by Thomas Hardy
	7	『フロス河畔の水車場』：新しい女性の生きざまを求めて THE MILL ON THE FLOSS　by George Eliot
	8	『ジェーン・エア』：自立する女性 JANE EYRE　by Charlotte Brontë
	9	Ⅲ　１９世紀、英米文学の驚異 『嵐が丘』：天国と地獄のﾊﾟﾗﾄﾞｯｸｽ　WUTHERING HEIGHTS　By Emily Brontë
	10	『白鯨』：近代的英雄の悲劇 MOBY-DICk　by Herman Melville
	11	Ⅳ　英雄不在の２０世紀の英雄たち 『ロード・ジム』：英雄ならざる英雄の悲劇 LORD JIM　by Joseph Conrad
	12	『老人と海』：一老漁師にみる英雄的雄姿 THE OLD MAN AND THE SEA　by Ernest Hemingway
備考		

	週	内　　容
後期	1	Ⅴ　海洋（冒険）小説の諸相 『ロビンソン・クルーソー』：孤島に生きる近代人 THE ADVENTURES OF ROBINSON CRUSOE　by Daniel Defoe
	2	『ガリヴァ旅行記』：人間嫌悪の結晶 GULIVER´S TRAVELLS　by Jonathan Swift
	3	Ⅵ　近代芸術観の極致 『月と六ペンス』：芸術家の狂気 THE MOON AND SIXPENCE　by William Somerset Maugham
	4	『アッシャー館の崩壊』他：至上の美を求めて THE FALL OF THE HOUSE OF USHER　by Edgar Allan Poe
	5	『ドリアン・グレイの肖像』：耽美の世界に踏み入って THE PICTURE OF DORIAN GRAY　by Oscar Wilde
	6	Ⅶ　父なるもの、母なるものの原像 『ハムレット』：青年の母への愛憎　HAMLET　by Wiliam Shakespeare
	7	『息子たち、恋人たち』：母と息子の絆 SONS AND LOVERS　by D.H.Lawrence
	8	『若い芸術家の肖像』：父なるものを求めて A PORTRAIT OF THE ARTIST AS A YOUNG MAN　by James Joyce
	9	Ⅷ　倫理と欲望の狭間 『ねじの回転』：女性家庭教師のみた幻想 THE TURN OF THE SCREW　by Henry James
	10	『事件の核心』：信仰と不倫に揺れて THE HEART OF THE MATTAER　by Graham Greene
	12	『緋文字』：姦通と復讐の贖い THE SCARLET LETTER　by Nathaniel Hawthorne
備考	授業時間の関係から、内容に多少の変更、増減があり得ることを予め承知ねがいたい。	

参考文献：　別途目録を作成して配布する。

評価方法：（提出課題、試験等）　前期の講義で扱った小説の中から、任意の一作品を読んで（翻訳可）その感想文を夏休み後に提出してもらう。これと後期試験期間中のクイズ・テストにより評価する。

外 国 文 学

担 当 者：関　楠生　　研究室：［５１５］

テキスト：

目　　標：本講義では中世から現代に至るまでのドイツ文学の流れを、名作として知られ、わが国でも翻訳されている作品を年代順に取り上げ、文学的な潮流の変化をあいだに挟んで、一貫して理解できるようにする。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	第１回目の授業では(1) １年間の講義概要の説明と(2) ドイツ中世文学の代表的な作品というべき叙事詩「ニーベルンゲンの歌」について講義する。
	2	第２回目の授業では「ニーベルンゲンの歌」と関係の深いニーベルンゲン伝説について述べると共に、これを題材とするワーグナー作品にも触れる。
	3	第３回目の授業では中世の武勲詩「ローランの歌」を「ニーベルンゲンの歌」との関連において講義する。
	4	第４回目の授業ではトリスタン伝説に取材して書かれた複数の詩人による詩を、ゴットフリート・フォン・シュトラースブルクの作を中心に講義する。
	5	第５目回の授業では今なお恋愛小説の白眉として読まれるゲーテの「若きウェルテルの悩み」について講義する。
	6	第６回目の授業では前回のつづきとして同じゲーテの代表作というべき「ファウスト」について、その難解さを説き明かしつつ述べてゆく。
	7	第７回目の授業ではゲーテとならぶドイツの大詩人・劇作家であるシラーの作品を、ヴィルヘルム・テルを中心に講義する。
	8	第８回目の授業では童話集で有名なグリム兄弟の業績に触れつつ、童話の中でも最もよく知られている「赤ずきん」について、詳しく述べてゆく。
	9	第９回目の授業では前回に引きつづき、これも有名な「ヘンゼルとグレーテル」について、フランスのペロー作品との異同を主に考える。
	10	第10回目の授業ではドイツ・ロマン派の解説とともに、その代表的な作品の一つであるフケーの「ウンディーネ」について講義する。
	11	第11回目の授業では前回に引きつづき、後期ロマン派のもう一つの秀作「影をなくした男」（シャミッソー作）のテーマ、影について考える。
	12	第12回目の授業では「ローレライ」によって知られるハイネの短詩を解釈し、上田敏の訳と現代の訳とを比較して詩の翻訳の問題を考える。
備考		

	週	内　　容
後期	1	第１回目の授業ではドイツ人なら誰しも子供のときに親しみ、大きな影響を今日なお与えつづけているハインリヒ・ホフマンの「ペーター」について。
	2	第２回目の授業では日本の青年男女に愛読されて影響の大きかったシュトルムの抒情的な小説「みずうみ」の内容とその影響について述べる。
	3	第３回目の授業では翻訳、絵本、アニメーションその他で世界各国に親しまれているヨハンナ・シュピーリの「ハイジ」を批判的に見てゆく。
	4	第４回目の授業では戦後実存主義者の再評価によって有名になったチェコのユダヤ人作家カフカの代表的な小説「変身」をとりあげる。
	5	第５回目の授業ではかつて築地小劇場での上演によって知られるが、本国ではほとんど知る人もないという戯曲「アルトハイデルベルク」についての講義。
	6	第６回目の授業では詰め込み教育を批判して多大の反響を呼んだヘルマン・ヘッセの「車輪の下」を取り上げて、改めて教育の問題を考える。
	7	第７回目の授業ではドイツの近代詩では最もすぐれた業績を残したリルケの、唯一の長編小説「マルテの手記」について作者とマルテの同一性を検証する。
	8	第８回目の授業ではトーマス・マンの「魔の山」を取り上げる。スイスのダヴォスにある結核療養所を舞台にした一種の教養小説ともいえる傑作である。
	9	第９回目の授業では同じくマンの「ヴェニスに死す」について論ずる。観光都市ヴェニスを襲った死神の手に大作家アッシェンバハはつかまれて死ぬ。
	10	第10回目の授業では「凱旋門」などで知られるレマルクの戦争小説「西部戦線異状なし」がどういうことでナチに嫌われ作者が亡命したのかを考える。
	11	第11回目の授業ではナチに追われて亡命生活を送りながら、近代演劇史上に大きな足跡を残したブレヒトの代表作「三文オペラ」を考究する。
	12	第12回目の授業では「ベルサイユのバラ」で有名になったシュテファン・ツヴァイクの「マリー・アントワネット」によりユダヤ人作家の問題を考える。
備考		

参考文献：手塚富雄著『ドイツ文学案内』（岩波書店）

評価方法：評価は前後期各１回のテストと出席状況によって決定する。
（提出課題、試験等）

外　国　文　学

担 当 者：松山　恒見　　研究室：［４１０］

テキスト：　なし。

目　　標：　読書の愉しみと、それによってもたらされる教養の基盤がいかに大きいかを知らせること。なお、この講義は他の外国文学の講座に、英米、独があるためフランスを中心とするが、特にそれにこだわるわけではない。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	読書について――文学とは何か。自国文学を知るためにも、外国文学を知ろう。
	2	ヨーロッパ文学の源泉（1）古代ギリシャ・ローマ文明、とくにその文学。
	3	ヨーロッパ文学の源泉（2）聖書、キリスト教。
	4	中世文学――ロランの歌、トリスタンとイズー、狐物語、ヴィヨン。
	5	十六世紀（ルネッサンス）――モンテーニュとラブレー。
	6	十七世紀――古典主義、コルネィユ、ラシーヌ、モリエール。
	7	十七世紀（2）ラ・フォンテーヌ、デカルト、パスカル、モラリスト、ラファイエット夫人（クレーヴの奥方）。
	8	十八世紀――啓蒙主義、ヴォルテール、ディドロ。（課題図書発表）
	9	十八世紀（2）――ルソオ、「危険な関係」、「ポールとヴィルジニー」、「マノン・レスコー」。
	10	フランス革命をめぐって。アナトール・フランスの「神々は渇く」。
	11	十九世紀――ロマンチスム。シャトーブリアン、スタール夫人。（附）コンスタンの「アドルフ」。
	12	十九～二十世紀文学の展望。（進度調節）
備考		

	週	内　　容
後期	1	ロマンチスムの四大詩人。ユーゴー。
	2	スタンダールの「ラシーヌとシェイクスピア」をめぐって。
	3	ジョルジュ・サンド、バルザック。
	4	スタンダール、メリメ。
	5	フロベール、モーパッサン。
	6	ボードレール、ヴェルレーヌ、ランボー、マラルメ。（象徴主義）
	7	十九世紀のその他の作品。
	8	ゾラ、自然主義。（課題図書発表）
	9	アンドレ・ジイド、ヴァレリー、プルースト。
	10	コクトー、ロマン・ロラン、マルタン・デュガール、その他。
	11	サルトル、ボーヴァール、カミュ、モーリャック。
	12	現代文学。ルイ・アラゴンからミシェル・トゥルニェまで。
備考		

参考文献：　多岐にわたるのでその都度指示する。

評価方法：（提出課題、試験等）　前・後期とも、課題図書を定め、その読後観を書いてもらうことで、評価の５０％とする。残る５０％は、通常の試験と同様で、講義内容の理解度と、記憶とを見る出題による。

外　国　文　学

（漢文学演習）

担 当 者：宮澤　康造

テキスト：詩文選・故事成語考（御牧貞風編）

目　　標：訓読漢文を通じて、中国古典の学習を身につける。とくにわが国の古典に大きな影響を及ぼした唐代の詩文について学ぶ。あわせて現代に生きる漢文故事成語の原典に当り、また広く故事成語を理解する。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	漢文学の学習について――日本文学と中国古典との関連にふれ、漢文学習の重要性を知る。まず身近かな故事成語から学ぶ。年間講座要項の説明。
	2	漢文の基礎――漢文訓読の方法について学ぶ。現代に生きる漢文故事成語にどんなものがあるか。その原典は。初め三回はプリントによる考究。
	3	漢文の基礎――漢文の字源（成り立ち）、中国の歴史概略、中国文学の日本文学への影響、日本所在漢文・漢詩碑について。森鴎外撰文の碑の通読。
	4	訓読基礎編――「他山之石」「五十歩百歩」（テキスト１頁） 読解（指名読・範読・斉読・語釈・通解・・以下共通）日本のことわざと比較
	5	「矛盾」「朝三暮四」「借虎威」（テキスト２～３頁）読解。
	6	「蛇足」「四面楚歌」「塞翁馬」「推敲」（テキスト４～６頁）読解。
	7	漢文故事成語考　（テキスト２７～５４頁）の学習。故事成語をどのように理解するか。その出典との関係を考える。
	8	年令の異称・名数についての理解。（テキスト５５～６０頁）
	9	演習編　陶潜「飲酒」の読解。陶潜の生涯とその文学について。
	10	「帰園田居」の読解。古詩の押韻について。
	11	「帰去来辞」「五柳先生伝」の読解。中国の文章の種類について。
	12	全国漢詩碑についての考察。夏休みの自主レポートのこと。
備考		夏休みの余暇に、漢文や漢詩の碑を探訪して、その読解を試みる。（参照――全国漢詩碑）読めないところは、後期の質問として解明していく。

	週	内　　容
後期	1	前期の答案返却と概評。王維の詩「送元二使安西」の読解。「唱渭城」とは唐代の詩の概説――主なる詩人とその作品について――
	2	劉希夷「代悲白頭翁」（白頭吟）の読解。対句的表現の妙について。
	3	李白と杜甫について――プリントにより対比考察。李白と「子夜呉歌」「子夜呉歌」読解。楽府について解説。
	4	李白の詩を学ぶ――テキスト六編の中より好きな一詩をとくに考究して、暗誦できるまで学習する。六詩の通解。
	5	李白の詩を学ぶ――テキスト六編の中から好きな一詩を選び、暗誦できるまで学習する。「貧交行」～「月夜」の五詩通解。
	6	杜甫の詩「兵車行」の考究。設問（プリント）の解答。杜甫の詩の特色についてまとめる。
	7	白居易について――その生涯と作品について――「慈烏夜啼」読解。
	8	「長恨歌」を学ぶ。――長編の詩の通読、表現上の特色について知る。段落と押韻について考究。第一段の読解。
	9	「長恨歌」を学ぶ。――第二・三段の読解。設問（プリント）の解答。
	10	「長恨歌」を学ぶ。――長恨歌伝、長恨歌の背景について解説。
	11	「長恨歌」と日本古典――源氏物語をはじめ、わが国古典に及ぼした影響を考究、さらに中国古典と日本文学との関係を学ぶ。
	12	故事成語学習のまとめ――故事成語の原典の通読（テキスト２７～５４頁）現代の新聞にあらわれた故事成語について。
備考		

参考文献：プリントにより解説　①漢文学習のための辞典　②漢文学習のための参考書

評価方法：①出席状況を重視する。日常の訓読演習への参加は学習向上の鍵。

（提出課題、試験等）②前後期末２回のテストの成績

③学生各自の自己評価表

④自主レポート

以上の四点より総合評価する。

日　本　史

担 当 者：新井　孝重　　研究室：［９２７］

テキスト：新井孝重『中世悪党の研究』

目　　標：　13世紀中頃から畿内を中心にあらわれる盗賊武士団＝悪党を、鎌倉時代の体制がもつ矛盾と関連づけて観察し、彼らの活動が客観的にはたした歴史的意味をさぐる。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	寺社に現われる悪党。これまで荘園を支配し、悪党に対峙する存在をして考えられてきた寺院や神社内部から悪党が発生している事実に注目する。
	2	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(1) 寺院内部の構造としくみを観るとくに僧房という私的空間に僧の武装慣行のはじまった事実を注目。
	3	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(2) 寺院の全体意志の形成原理、実現の様式を注目し、それとの対抗的存在と行動を「悪僧」にみる。
	4	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(3) 寺院「悪僧」と農村武士悪党とのつながりを観察する。
	5	荘園制下の在地構造はいかなるものか(1) 中世成立期荘園制の概容をながめる
	6	荘園制下の在地構造はいかなるものか(2) 鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに名主と名田に対する権力の統制装置を「没官」を通じて考える。
	7	荘園制下の在地構造はいかなるものか(3) 鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに下司・公文など荘官層のかかえもつ矛盾を剔出する。
	8	荘園制下の在地構造はいかなるものか(4) 鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに〈荘園領主〉を構成する寺院権力の在地とのかかわり方をみる。
	9	幕府権力の動態(1) 鎌倉幕府の成立と将軍専制のありようを概観する。また、地方の行政権力としての守護、地頭を発生の経路と役割の面からみる。
	10	幕府権力の動態(2) 鎌倉幕府の内部における執権と評定制にみられる権力の安定性と、武家政治の充実をみる。
	11	幕府権力の動態(3) 鎌倉幕府の内部における得宗家の専制化と権力の不安定化を、モンゴル襲来、御家人窮乏、霜月騒動を通じてながめる。
	12	悪党の跳梁は、鎌倉時代政治史に何をもたらしたか。前期授業の総括を兼ねて北条時宗専制と公家、寺社の伝統的・門閥的支配に反抗する悪党を観る。
備考		

	週	内　　容
後期	1	南北朝内乱期悪党の群像(1) 伊賀国黒田荘悪党金王兵衛盛俊の動きを追う。
	2	南北朝内乱期悪党の群像(2) 伯耆の土豪・武装商人であった名和長年の動きを追う。
	3	南北朝内乱期悪党の群像(3) 河内の土豪・武装芸能民であった楠木正成の動きを追う。
	4	建武政権の崩壊(1) 後醍醐天皇はいかなる権力の樹立をめざしたか、理念と現実をみる。
	5	建武政権の崩壊(2) 政権を崩壊にみちびいた足利尊氏・直義の動きを観察する東国足利荘を基盤として成長した豪族領主足利氏を観る。
6		建武政権の崩壊(3) 南北両朝の大分裂、足利族内抗争（観応の擾乱）の政治過程を通観する。
	7	内乱を通じて何が変わったか。(1) 変わる戦争の形態、騎馬から徒歩立の戦闘悪党の傭兵化、足軽の発生。
	8	内乱を通じて何が変わったか。(2) 変わる村の生活、旧名体制がくずれて、新たな小百姓らをふくむ惣村が形成された。
	9	内乱を通じて何が変わったか。(3) 民衆の発言力の増大、荘園にくらす農民たちは、みずからの結合組織をバックに、さまざまな戦いを開始する。
	10	バサラと芸能(1)　内乱期の文化表現にバサラというのがある。バサラ大名の佐々木道誉、土岐頼遠の行動様式を通してバサラについて考える。
	11	バサラと芸能(2)　中世を貫徹する「狂」の表現（バサラをも通底する）を、“悪”なるものを基礎にして考える。寺院大衆の延年、猿楽などを観察。
	12	中世の終焉。もっとも中世的な世界を、地侍の一揆体制という形で実現していたかつての悪党の巣窟伊賀国は、近世の先駆的権力織田信長に滅ぼされた。
備考		

参考文献：佐藤進一『南北朝の動乱』　中央公論　日本の歴史（文庫になっている）

評価方法：評価は、後期の試験成績をもって行う。

（提出課題、試験等）

日　本　史

担 当 者：齊藤　博　　研究室：［８０５］

テキスト：齊藤　博『歴史の精神』（学文社）・齊藤　博『民衆史の構造』（新評論）

目　　標：地域民衆史や全体史としての社会史の立場から、日本および日本人のトータルな課題に迫る。思想・人物・地域の三視点から日本人像に照射を加えたい。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	日本および日本人について。日本史の特徴と日本人が日本史を学ぶ困難性。風土と歴史、歴史論
	2	日本史の特徴Ⅱ、日本史研究者像、日本史研究史
	3	日本史研究者像Ⅱ、津田左右吉、和辻哲郎、柳田国男、喜田貞吉、服部之総羽仁五郎
	4	日本史研究者像Ⅲ、瀧川政次郎
	5	日本史研究者像Ⅳ、芳賀登、色川大吉、井上幸治
	6	地域民衆史の視座と方法
	7	「日本的なもの」を考える
	8	「天への想い」　Ⅰ、日中歴史学の比較と対照、東洋的歴史像の構築
	9	「天への想い」　Ⅱ
	10	アジア的共同体論について　Ⅰ
	11	アジア的共同体論について　Ⅱ
	12	「我が家の歴史」をどう記録するか
備考		

	週	内　　容
後期	1	近世史と近代史の問題点　Ⅰ
	2	近世史と近代史の問題点　Ⅱ
	3	明治維新論　Ⅰ
	4	明治維新論　Ⅱ
	5	高杉晋作の漢詩集を読む、教育精神の系譜から（獨協精神）、吉田松陰論、品川弥二郎論
	6	同上Ⅱ、幕末維新論　Ⅰ（日本資本主義発展史の視座から）
	7	同上Ⅲ、幕末維新論　Ⅱ
	8	同上Ⅳ、幕末維新論　Ⅲ
	9	同上Ⅴ、幕末維新論　Ⅳ
	10	同上Ⅵ、幕末維新論　Ⅴ
	11	同上Ⅶ、近代化論をどう考えるか。
	12	まとめ（総括）
備考	出席が良好でないと理解できにくい内容・傾向・水準にある。日本史だから日本人にはよくわかる、ということはない。	

参考文献：講義の間に、１２冊以上を紹介する。そのうち２～３冊は是非とも通読して

評価方法：もらいたい。読書を通じての思索によってしか、歴史的なものの見方は身に

(提出課題、試験等)つかない。「若者の感性」やマスメディアの多数派思考やＣＭ的流行ムード、あるいは国民的多数のマインドによって、歴史学を水に薄めるわけには行かないのである。きちんとした専門書、あるいはしっかりした啓蒙書を読むことが、歴史学の学習には求められている。

前期と後期にペーパーテスト（論文形式）がある。

リポートは、「我が家の歴史」を通して夏期休業中に祖父母、家業、家系についての聴き取り調査、文献文書の報告書（400 字詰縦書き5 枚以上）を提出（9 月第1 週目授業まで）する。

東　洋　史

担 当 者：春日井　明

テキスト：西嶋定生『日本歴史の国際環境』　東京大学出版会

目　　標：東洋史の名で呼ばれる歴史地理学的領域というのはとてつもなく広い。そこで本講義では、東アジアを中心として行なう。そして東アジア世界の中の一員として日本の歴史が育まれてきたことを理解して欲しいと思う。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	アジアの諸古代文明の誕生とユーラシア大陸の地理。 ４大文明の存在は周知のことであろうが、特に黄河文明をとりあげる。
	2	殷王朝と甲骨文字。 占卜の文化をとりあげる。
	3	中国史の展開（一） 春秋・戦国時代を中心として
	4	中国史の展開（二） 秦・漢帝国の成立
	5	倭国の形成とその国際的契機（一） 国際社会の中に倭国はどのように登場してきたか
	6	倭国の形成とその国際的契機（二） 漢字文化圏の形成と「冊封体制」
	7	卑弥乎の鏡 いわゆる「三角緑神獣鏡」について
	8	謎の４世紀から「倭の五王」の世紀へ 「倭の五王」と東アジアの情勢をめぐって。「治天下大王」について。
	9	７～８世紀の東アジアと日本（一） 日本の対隋・唐外交をめぐる諸問題。
	10	７～８世紀の東アジアと日本（二） 東アジア世界の動乱と日本。
	11	遣唐使に関する諸疑問 日本の枠内を越えて、東アジアの国際関係の中で遣唐使を見るとどうなるか
	12	東アジア世界の変貌と日本。 唐帝国の衰亡と東アジアの民族文化の出現。
備考		

	週	内　　容
後期	1	古代東アジア世界の解体と東アジア交易圏の形成（一） 政治史の側面から、中国史の大変化をとりあげる。
	2	古代東アジア世界の解体と東アジア交易圏の形成（二） 経済史の側面から、東アジアの国際的経済圏の成立を述べる。
	3	モンゴル帝国の出現と東アジアの変動 １３世紀の東アジアの国際情勢を中心として
	4	蒙古襲来の歴史的意味について。
	5	東アジア世界の再編と日本（一） 倭寇について
	6	東アジア世界の再編と日本（二） 勘合貿易について
	7	１６世紀の東アジアの経済圏の変化について（一） 木綿と銀の話
	8	１６世紀の東アジアの経済圏の変化について（二） 東アジア交易圏と世界的経済圏
	9	秀吉の朝鮮侵略は何故起きたか。 日本の武将の国際的政治感覚のもたらしたもの
	10	鎖国と江戸時代の文化。
	11	江戸時代と朝鮮通信使。
	12	東アジア世界の終焉。
備考		

参考文献：　必要な史料は講義中にプリントにして配布する。

評価方法：　前・後期に各１回のレポートを提出する予定。テーマはその時期に指示。
（提出課題、試験等）　年度末に試験を行う。

西　洋　史

担 当 者：高橋　正男　　研究室：［７１２］

テキスト：高橋正男著『年表　古代オリエント史』時事通信社, 1993年,

Ｄ＝バハト著（高橋正男訳）『図説　イェルサレムの歴史』東京書籍, 1993 年

目　　標：近年我々はユーラシア大陸の大半を占める西欧、東欧・ロシア、中東で起こった政治情勢の変転に再会し、人間生活の過去を構築する歴史学への興味をかきたてられている。本年度は文明の発生から現代に至るまでの政治・社会史に重点をおいた西洋史の大勢をｲｪﾙｻﾚﾑを基点に世界史的な連関のもとに概観し、あわせて受講生とともに西洋史を現代国際関係から見直し２１世紀を展望してみたい。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	歴史とは何か
	2	先史時代・歴史時代
	3	文明の発生
	4	古代オリエント史の推移（1）
	5	古代オリエント史の推移（2）
	6	族長時代から王国成立まで（1）
	7	族長時代から王国成立まで（2）
	8	第一神殿時代　－前５８６年まで－　（1）
	9	第一神殿時代（2）
	10	バビロニア捕囚時代
	11	第二神殿時代　－前５３８～後７０年－
	12	第二神殿時代（2） まとめ
備考	必読文献：高橋正男著『旧約聖書の世界』　時事通信社	

	週	内　　容
後期	1	ローマ時代　－７０～３３０年－
	2	ビザンツ時代　－３３０～６３８年－
	3	初期ムスリム時代　－６３８～１０９９年－
	4	十字軍時代　－１０９９～１１８７年－
	5	アイユーブ朝およびマムルーク朝時代　－１１８７～１５１７年－
	6	オスマン・トルコ時代　－１５１７～１９１７年－
	7	イギリス委任統治時代　－１９１７～１９４８年－
	8	イェルサレムの東西分断　－１９４８～１９６７年－
	9	イェルサレム再統合　－１９６７年以降
	10	第二次世界大戦後の中東情勢
	11	現代歴史学の諸問題
	12	後期のまとめ・ＶＩＤＥＯ
備考		

参考文献：その都度紹介する。

評価方法：前期・後期の筆記試験による。

(擬似課題、試験等)講義資料は出席者のみに配布する。

西　洋　史

担 当 者：小林　登志子

テキスト：高橋正男著『古代オリエント史講義案　改訂』（蒼文社）、1975年

目　　標：西洋文明の精神的支柱であるヘブライズム及びヘレニズムがいかに成立したかを学ぶ、同時に日本人としての視点をふまえ、国際人としての教養を養う。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	西洋古代史を学ぶ意味、西洋史の流れ、紀年法について講義する。
	2	世界最古の文明、古代オリエント文明の持つ意味について考える。近代における帝国主義政策と聖書考古学の関連についても触れる。
	3	新石器革命。人類はいかなる理由により農耕牧畜をはじめたかを考える。
	4	都市革命。文明の成立について考える。
	5	古代エジプト史１：古王国及び中王国時代の歴史を講義する。
	6	古代エジプト史２：新王国時代をアマルナ革命中心に講義をする。
	7	古代メソポタミア史１：シュメール、アッカド時代を中心に講義する。
	8	古代メソポタミア史２：バビロン第１王朝の歴史をハンムラビ法典を中心に考える。
	9	古代メソポタミア史３：アッシリア帝国。世界帝国の支配構造について、アケメネス朝ペルシア他と比較しながら考える。
	10	エーゲ文明。ミノア文明及びミケーネ文明について考える。古代オリエント文明と関連させて講義する。また神話学と歴史学の関連についても考える。
	11	ポリス社会の成立。都市国家の構造に触れ、ポリス市民について考える。
	12	アレクサンドロス大王の帝国。ヘレニズムの成立について考える。
備考		

担 当 者：古川　堅治　　研究室：［７１８］

テキスト：特になし。参考文献をその都度紹介する。

目　　標：「ヨーロッパで考えた現代史」と題して、アテネに１年間滞在して見たり、聞いたり、考えたりした現代世界の諸問題をアップ・トゥ・デイトにとりあげ議論する。

	週	内　　容
後期	1	「大学で歴史を学ぶことの意味」（序にかえて）――大学で歴史を学ぶことの意味と歴史学の諸課題を問題提起のかたちで提示する。（今村仁司編『格闘する現代思想』）
	2	「歴史における民族の問題Ⅰ」――民族とは何か、民族意識の形成について論じる。
	3	「歴史における民族の問題Ⅱ」――現代世界の民族問題の諸相を具体例で紹介し、それぞれの本質的課題を探る。（以上、西島建男『民族問題とは何か』）
	4	「歴史における民族の問題Ⅲ」――現代日本における民族の問題、国家と民族の関係、今後の展望について論じる。（山内昌之『民族と国家』）
	5	「歴史における他者のイメージⅠ」――他者認識の視点、他者としての外国人を歴史的に把える。（J.クリスティヴァ/池田和子訳『外国人―我らの内なるもの』）
	6	「歴史における他者のイメージⅡ」――外国人労働者の問題をとりあげ、他者との共生の可能性を探る。（仲井斌『ヨーロッパの外国人問題』）
	7	ＶＩＤＥＯⅠ――「歴史における民族の問題」について、映像によりその実態を観察する。
	8	ＶＩＤＥＯⅡ――「歴史における他者のイメージ」について、外国人労働者の実態を映像により観察する。
	9	「歴史と自然」――歴史において人間は自然についてどのように考え、またどのように対処してきたかを探り、現代の環境問題の展望を考えていく。（池上　俊一『動物裁判』）
	10	「歴史におけるマイノリティーの問題Ⅰ」――女性、子供の歴史的諸相を提示
	11	「歴史におけるマイノリティーの問題Ⅰ」――差別、同化、共生のあり方を探る。（以上、P.アリエス/森田・中内訳『<教育>の誕生』）
	12	「現代世界の構想と歴史的展望」（終章）――現代の世界の構造を歴史的に総括し、その展望を大胆に提示。（I.ウォーラスティン/川北訳『史的システムとしての資本主義』）
備考		

参考文献：（前期）高橋正男著『年表古代オリエント史』時事通信社、1993年

（後期）各授業毎に提示（上掲）。できるだけ多く読むこと。

評価方法：（前期）出席をとる。試験を行う。

（提出課題、試験等）（後期）レポート提出と授業への積極的参加度（質問、議論など）により決定する。

課題、締切日、枚数、提出先については最後の授業日に提示する。

西　洋　史

担 当 者：吉田　泰子

テキスト：E．オットー／吉成薫訳『エジプト文化入門』（弥呂久出版、1993年）

目　　標：最古の文明の一つである古代エジプト文明について、以下に示した幾つかのテーマに沿って考察し、その特質を明らかにすることを目的としている。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	第１回「序論：古代エジプト史研究の方法と現状」
	2	第２回「エジプト史概説（１）」（テキスト第１章）
	3	第３回「エジプト史概説（２）」
	4	第４回「エジプトの王権」（テキスト第２章１、２；第３章）　参考文献：屋形禎亮編『西洋史（１）古代オリエント』（有斐閣新書、1980年）第３章
	5	第５回「エジプトの国家と社会（１）」（テキスト第２章３、４）
	6	第６回「エジプトの国家と社会（２）」
	7	第７回「エジプトの宗教」（テキスト第４章）　参考文献：J．チェルニー／吉成薫・美登里訳『エジプトの神々』（弥呂久出版、1993年）
	8	第８回「エジプトの芸術と文学」（テキスト第５章）
	9	第９回　ビデオ
	10	第10回「エジプト人の生活と思想」　参考文献：三笠宮崇仁編『生活の世界歴史１、古代オリエントの生活』（河出書房新社、1976年）169 －310 頁
	11	第11回「古代エジプトと現代」
	12	第12回　予備日
備考		

担 当 者：古川　堅治　　研究室：［７１８］

テキスト：特になし。参考文献をその都度紹介する。

目　　標：「ヨーロッパで考えた現代史」と題して、アテネに１年間滞在して見たり、聞いたり、考えたりした現代世界の諸問題をアップ・トゥ・デイトにとりあげ議論する。

	週	内　　容
後期	1	「大学で歴史を学ぶことの意味」（序にかえて）――大学で歴史を学ぶことの意味と歴史学の諸課題を問題提起のかたちで提示する。（今村仁司編『格闘する現代思想』）
	2	「歴史における民族の問題Ⅰ」――民族とは何か、民族意識の形成について論じる。
	3	「歴史における民族の問題Ⅱ」――現代世界の民族問題の諸相を具体例で紹介し、それぞれの本質的課題を探る。（以上、西島建男『民族問題とは何か』）
	4	「歴史における民族の問題Ⅲ」――現代日本における民族の問題、国家と民族の関係、今後の展望について論じる。（山内昌之『民族と国家』）
	5	「歴史における他者のイメージⅠ」――他者認識の視点、他者としての外国人を歴史的に把える。（J.クリスティヴァ/池田和子訳『外国人―我らの内なるもの』）
	6	「歴史における他者のイメージⅡ」――外国人労働者の問題をとりあげ、他者との共生の可能性を探る。（仲井斌『ヨーロッパの外国人問題』）
	7	ＶＩＤＥＯⅠ――「歴史における民族の問題」について、映像によりその実態を観察する。
	8	ＶＩＤＥＯⅡ――「歴史における他者のイメージ」について、外国人労働者の実態を映像により観察する。
	9	「歴史と自然」――歴史において人間は自然についてどのように考え、またどのように対処してきたかを探り、現代の環境問題の展望を考えていく。（池上　俊一『動物裁判』）
	10	「歴史におけるマイノリティーの問題Ⅰ」――女性、子供の歴史的諸相を提示
	11	「歴史におけるマイノリティーの問題Ⅰ」――差別、同化、共生のあり方を探る。（以上、P.アリエス/森田・中内訳『<教育>の誕生』）
	12	「現代世界の構想と歴史的展望」（終章）――現代の世界の構造を歴史的に総括し、その展望を大胆に提示。（I.ウォーラスティン/川北訳『史的システムとしての資本主義』）
備考		

参考文献：（後期）各授業毎に提示（上掲）。できるだけ多く読むこと。

評価方法：（前期）成績評価はレポートで行なう。レポートのテーマは最後の授業で
（提出課題、試験等）　発表する。授業に際しては、テキストの該当箇所を読んでおくこと。
参考文献についても、読んでおくことが望ましい。

（後期）レポート提出と授業への積極的参加度（質問、議論など）により決定する。
課題、締切日、枚数、提出先については最後の授業日に提示する。

一 般 言 語 学

担 当 者：新里　博樹

テキスト：『言語学入門』／田中春美・五十嵐康男他著／大修館書店

目　　標：本講義では、言語の一般的特性を探る研究法を研究史の流れに沿って概観するとともに、その研究成果として得られた一般的特性の諸点、および言語観を解説する。予習は必要としないが、真剣な思考と活発な論議とを求める。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	ガイダンスとして、年間の講義概要の解説、および、評価の方法と基準の説明を行い、導入として、「言語学とはどういう学問か」について論じる。
	2	言語学の領域と方法／言語学にはどのような研究分野があるかということ、および、その方法を概観し、隣接領域との関わりについて概説する。
	3	言語学の歴史と発展（第１回）／「言語学以前」 人間の言語に対する関心の在り方と言語観を始源の段階について考察する。
	4	言語学の歴史と発展（第２回）／「古代の言語研究Ⅰ」 古代における言語研究を、ギリシャ・ローマについて概観する。
	5	言語学の歴史と発展（第３回）／「古代の言語研究Ⅱ」 古代における言語研究を、インド・中国について概観する。
	6	言語学の歴史と発展（第４回）／「中世の言語研究Ⅰ」 中世前期（ルネッサンス以前）における言語研究を概観する。
	7	言語学の歴史と発展（第５回）／「中世の言語研究Ⅱ」 中世後期（ルネッサンス以後）における言語研究を概観する。
	8	言語学の歴史と発展（第６回）／「近代の言語研究Ⅰ」 近代前期（１７～１８世紀）の言語研究を「言語起源論」を中心に概観する。
	9	言語学の歴史と発展（第７回）／「近代の言語研究Ⅱ」 近代後期（１９世紀）の言語研究を「比較・歴史言語学」を中心に概観する。
	10	ソシュールの言語理論Ⅰ／「現代言語学の夜明け」 通時論と共時論・ラングとパロール・記号観など基礎的な概念を解説する。
	11	ソシュールの言語理論Ⅱ／「記号論的言語研究」 言語の記号としての特質についてソシュールの理論を整理し、理解を深める。
	12	前期の総括と後期の展望 前期のレポート提出
備考	前期は、主として講義形式で行われる。参考文献は入手しやすいものを、その都度提示・紹介するので、できるかぎり目を通して、講義内容の理解に役立てて欲しい。	

	週	内　　容
後期	1	前期レポートの返却と講評 後期の予定の確認
	2	ソシュールの言語理論Ⅲ／「ソシュールの位置と影響」 ソシュールの言語理論の背景とその後への影響について整理し理解を深める。
	3	言語の一般的特性（第１回）／記号性・体系性etc． 前期のソシュールの言語理論Ⅱをもとに、言語の一般的特性を考察する。
	4	言語の一般的特性（第２回）／言語の単位とその構造etc． 構造主義言語学の立場から見た、言語の一般的特性を考察する。
	5	言語の一般的特性（第３回）／言語の生産性と定型性ｅｔｃ． 生成論（変形文法）の立場から見た、言語の一般的特性を考察する。
	6	言語の機能Ⅰ／言語における伝達機能 言語の機能のうち、直接、伝達に関わる働きの種々相について論議する。
	7	言語の機能Ⅱ／言語における非伝達機能 言語の機能のうち、直接には伝達に関わらない働きの種々相について考える。
	8	言語の機能Ⅲ／言語における認識機能 言語の機能のうち、認識に関わる働きの種々相について討議する。
	9	言語と生活 言語の一般的特性・機能を生活という観点から把え直し、討議する。
	10	言語と社会 言語と社会との関わりについて、その基本的な問題を整理し、討議する。
	11	言語と文化 言語と文化との関わりについて、その基本的な問題を整理し、討議する。
	12	総括／年間の講義・論議を振り返り、まとめる。 後期レポート提出
備考	後期は、討論形式を取り入れ、考える授業を目指す。真剣な思考と活発な発言とを求めたい。	

参考文献：話題が多岐にわたるので、その都度、提示紹介する。

評価方法：前期・後期のレポートが中心となるが、出席状況も考慮する。ただし、出席(提出課題、試験等)すればよいということではなく、授業への参加（質問や発言など）の度合いを加味する。提出レポートについては下記のとおり。

課　題：前期――「言語学の近代化とソシュール」について論じよ。

後期――「言語の一般的特性と機能」について、各自自由にテーマを設定し、論じよ。

提出時・提出先：前・後期の最終授業時に、担当教員に直接提出する

提出要領：用紙は各自自由、表紙を付し、綴じた形で提出する。なお、後期レポート返却希望者は、返送用封筒を添えて提出のこと。

一 般 音 声 学

担 当 者：伊豆山　敦子

テキスト：服部四郎著「音声学」岩波書店によるプリント・テープ

目　　標：　人間の言語音の調音機構とその聴取について学ぶ。人は誰でも自国語の音声面については無意識なものだが、この講義と訓練により言語音声に対する客観的な認識が得られることを期待する。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	言語音を意識するということ。一般音声学と個別音声学。
	2	テキストの説明。言語音の研究方法。
	3	音声器官の説明と確認
	4	「声」をいうこと。有声・無声の別。声門音。
	5	音。楽音・噪音。単音。持続部とわたり。
	6	音声記号と国際音声字母。
	7	母音の分類と基本母音。
	8	両唇閉鎖音・鼻音。
	9	両唇摩擦音。
	10	有気音・無気音。両唇ふるえ音。
	11	唇歯音。
	12	聴取テスト。
備考		

	週	内　　容
後期	1	前期聴取テスト講評。復習。
	2	歯（茎）閉鎖音。
	3	歯（茎）摩擦音および被擦音。
	4	側面接近音・側面摩擦音。
	5	舌尖ふるえ音。弾き音。
	6	そり舌音。
	7	硬口蓋及び軟口蓋閉鎖音。
	8	口蓋垂閉鎖音。口蓋垂ふるえ音。
	9	口蓋の摩擦音。
	10	母音における舌。舌のはり・ゆるみ。
	11	鼻母音。
	12	試験。
備考		

評価方法：　随時行う聴取小テスト、前期・後期各一回行う単音の聴取テスト、学年末(提出課題、試験等)に行う筆記テストの総合による。

経　済　学

担 当 者：小尾　惠一郎　　研究室：［７１１］

１）経済の仕組みに関するイメージ．（入門的考察）
（４月上～中旬）
物とサービス、需要と供給のイメージを的確にとらえること．
経済理論はけっきょく価格と数量の問題である．
政府の経済政策に対する経済の営みの影響．
経済の数量的分析を行う意味はどこにあるか．

２）世界では大別して先進国と発展途上国がある．両者の関連の入門的考察．
（４月中～下旬）
一人当たり生産量の大小．
人口規模の大小の仕組み．
資源の使い方．
環境問題の解明―先進国と発展途上国の関係．
「先進国」も始めから〈先進的〉ではなかった．経済発展の条件と結果．

３）市場とは－生産、資本、労働の各市場がある．その仕組みと影響．
（５月上～中旬）
三市場の需要と供給の仕組みと数値例－統計資料の入門－
市場に関する考察がなぜ重要か．
物とサービス－その重要な相違点．
貨幣と価格．

４）発展国と途上国の特徴的な諸点．
（６月上～７月中旬）
発展の可能性と条件についての理論的考察．
－古典派理論と新古典派理論－
経済発展の歴史－日本の事例とその特性．

5）経済の仕組みの理論と資料の読み方を整理していくこと．消費と生産に対する影響をどう読みとっていくか．

（9月中～１０月上旬）

経済循環の観測資料の読み方．（円、ドル単位で示す方法とその役割）

投入産出表－産業連関表－資料の読み方．（円、ドル単位で示す方法とその役割）

国民所得統計資料の厳密な読み方－その必要性－（経済理論のためになぜ必要か）

6）経済の理論構成をなぜ知る必要があるか．

（１１月上～１月中旬）

企業理論入門．生産と投資．数量と価格．

消費の仕組み．消費のスケールと生産のスケールの影響と関係．

家計理論の入門．

7）ケインズ的所得理論　－生産水準決定の第一次近似モデル－

（１１月上～１月中旬）

8）成長の条件と経済理論．

（１１月上～１月中旬）

労働条件と経済理論．雇用（賃金格差に影響する仕組み）

教科書・参考文献

必要に応じて文献を示す．

経　済　学

担 当 者：高橋　房二　　研究室：［８０９］

1．

本講においては入門的な経済学一般が講義される。経済学部生としてさきゆきどのような方向に進むとしてもその基礎として初歩的であるが重要な主として理論的側面が取り扱われる。その際、現実経済との関連を顧慮しつつ講義が展開される予定である。

2．

「経済学」という学問，経済学の分析ツール，資本主義の形成と発展，経済学の発展に貢献した若干の経済学者，経済の動きと長期的傾向，需要と供給に関する基礎理論，主な国民所得の基礎概念，消費理論，投資理論，総需要と総供給，貨幣とその需要，金融政策，マネタリズム，インフレーション，市場のダイナミズム，市場の失敗，外部性，生産と費用の理論，独占と寡占，失業の問題，貿易利益，為替レート，通常の講義形態

3．

マクロ経済学，ミクロ経済学，資本主義，市場経済，競争，混合経済，経済成長，生産性，均衡価格，需要と供給，国民所得，国内総生産，貯蓄と投資の均衡，生産可能性フロンティア，消費関数，平均消費性向と限界消費性向，投資の限界効率，貨幣，貨幣数量説，流動性選好，財政赤字，資源配分，平均生産物と限界生産物，限界費用，限界収入，完全競争，独占，独占価格と競争価格，寡占，市場占拠率，貿易差額，比較優位，為替レート

4．

第１週．．．講義の内容とその展開についての概要の説明

第２週．．．資本主義経済とその特質

第３週．．．経済学と若干の経済学者

A.スミス，K.マルクス，J.M.ケインズ等

第４週．．．経済分析における行動仮説，制約条件

第５週．．．経済学における分析手法
関数関係，恒等関係，図と表，図解的分析，数学的分析

第６週．．．経済の各部門
家計部門，企業部門，政府部門

第７週．．．経済の長期的トレンド（Ⅰ）
経済成長，経済成長の要因，経済成長率の概念

第８週．．．経済の長期的トレンド（Ⅱ）
労働生産性の傾向，所得分配の推移，企業の動向，政府の動向

第９週．．．需要と供給（Ⅰ）
価格と行動，需要，需要曲線，需要法則，限界効用，消費者余剰

第10週．．．需要と供給（Ⅱ）
供給，供給曲線，需要と供給のバランス，均衡価格の成立とその特徴

第11週．．．需要と供給（Ⅲ）
超過需要，超過供給，安定均衡，需要曲線と供給曲線のシフト，
長期と短期における関係

第12週．．．国民所得（Ⅰ）
国内総生産，国内純生産，個人可処分所得，分配国民所得，生産，貯蓄，
投資，最終消費，政府支出，純輸出

第13週．．．国民所得（Ⅱ）
貯蓄，投資の均衡，貯蓄曲線と投資曲線，均衡国民所得

第14週．．．公共支出と赤字財政
公共部門，財政赤字，財政赤字の危険

第15週．．．家計の消費行動
消費の一般的性格，可処分所得，消費・所得の単純な関係，平均消費性向，
限界消費性向，消費関数

第16週．．．企業の投資行動

投資の一般的性格，投資需要，加速度原理，予想，資本の限界効率，投資の誘因

第17週．．．財の生産

投入・産出の関係，資本，労働，技術進歩，生産関数，生産可能性フロンティア，投入物の最適結合

第18週．．．貨幣と経済システム（Ⅰ）

貨幣，貨幣数量説とそのバラェティ

第19週．．．貨幣と経済システム（Ⅱ）

ケインズの貨幣需要論，ケインズの貨幣需要論と貨幣数量説

第20週．．．インフレーション（Ⅰ）

インフレーション，スタグフレーション，ディマンドプルインフレ，コストプッシュインフレ

第21週．．．インフレーション（Ⅱ）

インフレーションの危険，インフレーションのコントロール

第22週．．．市場システム（Ⅰ）

価格と配分，価格以外の割当て

第23週．．．市場システム（Ⅱ）

需要の価格弾力性，価格弾力性と総収入，代替財，補完財

第24週．．．市場の失敗

公共財，外部性

第25週．．．競争的企業（Ⅰ）

純粋競争，経済的利潤，企業者の合理的行動

第26週．．．競争的企業（Ⅱ）

短期費用，固定費用，可変費用，平均費用，限界費用

第27週．．．競争的企業（Ⅲ）
平均生産物，限界生産物，限界生産物逓減の法則

第28週．．．競争的企業（Ⅳ）
総収入，平均収入，限界収入，短期における利潤極大化

第29週．．．独占と寡占
純粋独占，独占価格，独占利潤，寡占，複占

第30週．．．貿易
貿易利益，比較優位，為替レート

5．
必修，出席状況をみる，定期試験（２回），ミニテスト

6．
サロー，ハイルブローナ，ガルブレイス著
「現代経済学」上，下，ＴＢＳブリタニカ
その他

経　済　学

担 当 者：益山　光央・山本　美樹子　　研究室：[819][701]

基本的な要求

経済学部の学生にとって経済学は重要な講義科目です。本講義では前期はミクロ経済学、後期はマクロ経済学を扱います。その内容は以下の通りですが、かなりの量を消化しなければなりません。また、教科書は下記の英文テキストであるので、受講生諸氏には十分な予習、復習を要求します。また、一般基礎科目、数学の履修を強く要請します。教科書は原書を使用し、カバーする範囲も広いので、受講生にとって「楽な仕事」ではありません。しかし真面目に取り組めば「より広い世界」への入口になることは保証します。

講義の目的と方針

経済学はこれから経済学部で４年間の基礎となる講義です。２年次、３年次と進級するにつれて、例えば、経済原論のような、より高度な専門分野への準備となる講義を心掛けます。本講義では、さまざまな応用分野で役立つと思われる諸概念を修めます。「深く、厳密に講義します。」

講義内容

第１部　ミクロ経済学

第Ⅰ章．．．．．イントロダクション

１）経済学履修上の注意

２）試験、レポート提出に関する注意

３）ミクロ経済学とマクロ経済学の簡単なアウトライン

第Ⅱ章．．．．．消費者行動の理論

１）選好

２）効用関数・無差別曲線

３）予算制約

４）消費者均衡点

５）個人の需要曲線の導出

６）市場需要曲線

７）生産要素供給曲線

第Ⅲ章．．．．．生産者行動の理論

1）費用曲線による生産者行動の分析

2）生産関数による生産者行動の分析

3）個別企業の供給曲線

4）市場供給曲線

5）生産要素需要曲線

第Ⅳ章．．．．．競争的市場とパレート最適

1）ワルラス的調整過程

2）マーシャル的調整過程

3）パレート最適

第２部　マクロ経済学

第Ⅴ章．．．．．国民所得の諸概念

1）ＧＮＰ，ＮＮＰ，ＮＩ

2）粗概念と純概念

3）市場価格表示と要素費用表示

第Ⅵ章．．．．．所得決定メカニズム

1）消費関数

2）所得決定の４５線グラフ

3）投資関数

4）国際貿易と国民所得

第Ⅶ章．．．．．利子率決定メカニズム

1）貨幣需要

取引動機

予備的動機

投機的動機

2）貨幣供給

ハイパワードマネー（マネタリーベース）

公定歩合

公開市場操作

法定準備率

第Ⅷ章．．．．．財市場と貨幣市場の同時均衡

1）ＩＳ曲線

2）ＬＭ曲線

3）財政・金融政策

第Ⅸ章．．．．．所得，実質賃金および物価の同時決定

1）総需要曲線

2）総供給曲線

3）一般物価水準

教 科 書

S. Fischer, R. Dornbusch & R. Schmalensee, *Economics*, 2nd. Edition, 1988

参考文献

井上正『現代ミクロ経済学』八千代出版，1983

今井賢一・宇沢弘文・小宮隆太郎・根岸隆・村上泰亮『価格理論Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ』岩波書店，1971，1971，1972

奥野正寛・鈴村興太郎『ミクロ経済学Ⅰ，Ⅱ』岩波書店，1985，1988

福岡正夫『ゼミナール経済学入門』日本経済新聞社，1986

J. Quirk & R. Saposnik, *Introduction to Genreal Equilibrium Theory and Welfare*, McGraw-Hill, 1968

P. Layard & A. Walters, *Microeconomic Theory*, McGraw-Hill, 1978

A. Deaton & J. Muellbauer, *Economics and Consumer Behavior*, Cambridge University. Press, 1980

E. Silberberg, *The Structure of Economics: A Mathematical Analysis*, 2nd Edition, McGraw-Hill, 1981

David M. Kreps, *A Course in Microeconomic Theory*, Harvester Wheatsheaf, 1990

南部鶴彦・辰巳憲一訳『価格の理論』有斐閣，1991

西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社，1990

西村和雄『ミクロ経済学入門』岩波書店，1986

武隈慎一『ミクロ経済学』新世社，1989

Hal R. Varian，佐藤隆三・三野和雄訳『ミクロ経済分析（第２版）』勁草書房，1986

小泉進『マクロ経済学』有斐閣

小泉進・建元正弘『所得分析』岩波書店，1972

新保生二編『ゼミナールマクロ経済学入門』日本経済新聞社，1991

Robert J. Barro, *Macroeconomics*, John Wiley & Sons, 1984

B. Felderer & S. Homburg, *Macroeconomics and New Macroeconomics*, 2nd Edition, Springer-Verlag

R. J. Gordon, *Macroeconomics*, fifth Edition, Harper Collins, 1990

奥口孝二『経済分析の数学基礎』マグロウヒル好学社, 1977

Michael D. Intriligator, *Mathematical Optimization and Economic Theory*, Prentice-Hall, 1971

経　済　学

担 当 者：松本　正信　　研究室：［８０３］

○序章（プロローグ）

経済学と経済系，現代経済の問題：南北問題と環境問題（地球系と人間系），人類の経済発展：とりわけ産業革命前と後，ならびに経済思想の変遷（アダム・スミス，リカード，マルサス，マルクス，シュンペータ，ケインズ等々），資本主義経済の変遷（とりわけ第二次世界戦争前と後の移り変わり），現代の経済思想。

○第１部　ミクロ経済学（価格分析）

１　需要の理論

（狙いは「需要の法則」の背後にある経済的意義ならびにそれを導き出す過程を理解すること。）

消費者行動の理論，消費選好理論み基づく解説；消費者の均衡点，価格・消費曲線，個別および社会需要曲線，所得効果と代替効果，代替財（競争財）と補完財，需要の価格（所得）弾力性，消費者余剰。

１章の最後にいたっては、工業製品と農産物の需要の違い，特質を考えてみよう。昨今、ガット・多角的貿易交渉（ウルグアイラウンド）において日本の米の輸入自由化問題が宣伝されているのでこの問題も考えてみよう。

２　生産の理論

（狙いは「供給の法則」の背後にある経済的意義ならびにそれを導き出す過程を理解すること。）

生産とは、企業（生産者）行動の理論，費用分析，平均費用と限界費用，損益分岐点と操業中止点，個別および社会供給曲線，短期および長期供給曲線，技術進歩の供給曲線に与える影響，大都市集中の問題。

３　市場；マーケット（交換の理論）

市場と取引：その形態，市場における均衡と不均衡，市場機構（マーケット・メカニズム）の果たす役割，とその効率性，価格の媒介機能(Parametric function of price)，部分均衡と一般均衡，マーシャル調整とワルラス調整，くもの巣の理論（農産物価格の形成過程）

4　競争の問題

競争市場と自由市場，完全競争市場の定義，不完全競争市場の諸形態，独占の問題；ここでは売手独占について考える，独占均衡と，独占利潤，完全競争均衡との相違（短期・長期），市場の効率性と資源の最適配分ならびに消費者主権との関連，生産者余剰と社会的余剰；その完全競争者と独占者の相違，社会的余剰の独占による死重的損失，最後にアメリカの生産者が日本の輸出品に対してしばしばなされるダンピング（廉価販売）提訴について考えてみたい。消費者がとるべき態度，消費者教育の問題も考えよう。

5　市場の限界と失敗・欠落

市場には大なり小なり不完全，ただその程度が問題だ。非価格競争，品質競争，アフター・サービスはよいとして、ビホアー・サービス（ワイロ），談合・慣れ合いはかつてアメリカにもあった。日本でも建設業界ばかりではない。もともと、市場での取引にそぐわない財貨・サービスが増大しているのも現代社会の特質。ゴミをだれが金をだして買いますか。負の価格の意見するもの，一般通路で通行料金を徴収するか税では賄うかどちらかが効意的か火を見るより明らか。

外部経済・不経済，公共財（公共サービス），パブリック・ユーティリティ，公的独占と公共料金，投票と納税，パレート最適と社会的厚生。

○　第Ⅱ部　マクロ経済学（所得分析）

6　国民所得の分析

マクロ経済学の生成と意義，大恐慌後とケインズ思想，修正資本主義と混合経済，第二次世界戦争後の自由主義圏工業先進諸国の経済成長と現代経済思想。
マクロ的経済循環，国民所得の諸概念，総需要・総供給（総生産）あるいは集計需要・集計供給，消費とマクロ消費関数，貯蓄と投資の意義，その行動主体と動機の違い，投資の変動性；投資の限界効率；投資対象の価値，将来の期待収益と割引利子率，貯蓄と投資の不均等による均衡国民所得水準の変動，乗数過程，節倹のパラドックス，政府部門と外国貿易を加えた乗数理論。国民所得水準と労働雇用水準との関係。

7　貨幣・金融市場

金本位制と管理通貨制度；その歴史的意義と機能の違い，銀行のはじまりと近代銀行制度，金融市場における銀行の信用創造過程と貨幣供給，ケインズの流動性選好説と貨幣需要，金融市場の均衡利子率いわゆる市場利子率

8　中央銀行の機能と役割：金融政策

現金通貨の発行と通貨価値の維持；その社会的意義と責任，その歴史的・現代的素描，中央銀行の金融政策の主たる手段，とりわけ公定歩合操作，公開市場操作とその金融市場に与える効果。

9　政府の経済的役割：財政政策

政府の経済的役割すなわち経済政策には大きくいって２つ；その１つは将来の国民経済の構造をどのような方向に誘導するか，例えば福祉政策，年金制度，農業問題，租税制度，社会基盤整備等々である。もう１つは、いわゆる景気の変動に対する調整的機能としてのマクロ経済政策である。ここでは後者の役割を狭義の財政政策（フィスカル・ポリシイ）として考える。

その見本は1930年代前半のアメリカのニュー・ディール政策（当時のルーズベルト大統領による）に見ることができる。政府は財政が赤字の時は減税もしくは歳出を増大して短期的には益々赤字が拡大するように，黒字の時には財源があるからといって減税などしないで増税もしくは歳出を削減して益々黒字が拡大するように行動するのが、現代のマクロ経済学の原理なのである。

政府も１つの主体，その主体の行動としては不合理である。しかし、社会全体，国民経済にとっては合理的なのである。これはひいては政府にとっても長期的には合理的であるはずだ。逆もまた真パラドックスなる由縁である。

分析：政府財政支出と減税の国民所得水準に与える影響，租税体系の変更と国民所得，ラッファアー曲線，完全雇用政策と物価水準安定（貨幣価値の維持），フィリップ曲線

10　財政・金融政策とヒックス＝ハンセン

総合（IS-LM 曲線）

ポリシー・ミックスについて，国民生産物資市場と貨幣・金融市場の相互作用，これまでのマクロ経済理論の再論とまとめ；IS-LM 分析，古典派の理論；セーの販路法則と完全雇用理論およびその時代的背景，ケインズの有効需要原理と不完全雇用理論，ならびにその時代的背景，現代マネタリストの思想と理論；修正型貨幣数量説，集計供給からみたポスト・ケインズ学派との違い，付論：サプライサイド経済学派とネオ・ケインジアン，景気循環と民主政治，政策のタイム・ラグ。

○終　章（エピローグ）－結びにかえて－

人間社会と経済と政治と価値観と，経済発展と自然環境，国際貿易；古典派リカードの比較生産費説と現代のオーリン・ヘクシャー理論，現代の貿易不均衡問題，技術移転と資本移動，長期的有効需要の拡大と世界規模化

以上，序・終章含めて１２の章を２～３回の講義で進展させる積りである。

経　済　学

担 当 者：山越　徳　　研究室：［８２１］

講義内容・目的

経済学を初めて学ぶ人にとって、経済学を身近に感じ、理解が進められ、さらに深く入っていくための分野での基礎づくりを目指す。経済学はどの様な学問分野であり、どの様な考え方をするのかを、それぞれの経済理論を扱いながら用語や概念とともに理解していく。そしてそれらの理論が現実の経済とどの様に結びついているのか、どこまでを説明しているのかを、理論モデル、統計データ、実証分析結果を関連させながら見ていくことにする。それにより日本経済の大きさや構造、その動向にも理解を高めていく。

講義スケジュール

１～２週目　経済学とは

社会科学としての経済学，経済学の考え方，経済合理性，前提，対象，
ミクロとマクロ，経済主体，経験法則，理論と実証，経済学の流れ

２～３週目　市場均衡，価格決定

需要と供給，競争

４～７週目　消費者均衡，需要理論，消費理論

需要曲線，効用理論，限界概念，無差別曲線，経済要素，需要関数，弾力性，
価格と取得財と費目，指数と集計，指標，消費仮説

７～10週目　国民所得，日本経済の規模と変動

国民経済勘定体系，ＧＮＰ，三面等価の原則，国民所得の決定，乗数理論，
有効需要理論，消費性向，投資，政府と財政，貿易，産業連関論

11～13週目　日本経済の成長

産業の活動，産業構造，成長の要因，産業の相互依存関係
経済成長理論，国際化と依存関係

14～17週目　供給者均衡・生産理論

供給曲線，コスト曲線，利潤極大，限界生産力命題，生産関数，生産要素，
資本と労働分配，生産性，代替性，規模の経済，技術変化

18～21週目　労働市場

労働市場理論，賃金理論，失業，日本の労働市場，産業と職業，年齢と性別，学歴地域，終身雇用と年功制，定年制，雇用調整

22～週目　　一般均衡モデル

一般均衡と部分均衡，マクロ計量モデル

テキスト

○「経済学（第３版）」西川俊作著　東洋経済新報社

参考文献

○経済学一般としては上記テキストの他に

「現代経済学」（上・下）レスター・Ｃ・サロー，ジェームス・Ｋ・ガルブレイス
ロバート・Ｌ・ハイルブローナー著　ＴＢＳブリタニカ

など

○経済と経済学については

「選択の自由」自立社会への挑戦　Ｍ＆Ｒフリードマン著　西山千明訳
日本経済新聞社

「マネー」その歴史と展開　ジョン・Ｋ・ガルブレイス著都留重人監訳

「新しい現実」P.F.ドラッカー著　上田惇生，佐々木実智男訳　ダイヤモンド社

○実証分析については

「経済統計入門（第二版）」中村隆英，美添泰人，新家健精，豊田敬
東京大学出版会

「実証経済学入門」黒田昌裕著　日本評論社

○現実の経済の姿や動向については

「日本経済講義」篠原三代平編著　東洋経済新報社

各種白書，要覧，図会，統計など

この他の参考書および各項目に関する参考書は講義の中で紹介する。

経　済　学

担 当 者：安藤　登　　研究室：［８０８］

目　　標：いろいろのメディアを通じて時々刻々、内外経済の話題がとりあげられ、報道されている。しかも株価、為替レート、金や石油の価格市場利子率などの情報は、昔とちがって毎定時のニュースで茶の間に届けられている。急速に変りつつあるこの経済社会－情報化、国際化、高齢化の キー・ワードで括れるか否かは別として－の中で生起する種々の経済問題を把握し、分析し、解決してゆくためにはそのための理論と分析用具が必要である。「経済学入門」にあたる本講義では、まず先人たちが築いて通説となっている基礎的経済理論を学ぶことから始める。しかし単なる暗記で終わってはならない。理論とわれわれを取りまく現実との照合を試みることを通して、自分の頭で経済問題が考えられる学力を養ってゆくことを目指すのである。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1 2 3	経済と経済学の課題 キー・ワード：稀少性、経済問題、混合経済、資源配分、経済成長、生産可能曲線、機会費用、技術進歩 講義の主たる内容：１．経済と経済学の課題　２．基本的経済問題　３．経済体制　４．時代背景と経済学　５．経済政策の目標
	4 5 6 7	市場と需要供給の法則 キー・ワード：市場、需要量、需要曲線、需要法則、供給量、供給曲線、供給法則、価格弾力性、限界費用、代替効果、所得効果、市場均衡、消費者主権生産者主権、完全競争、独占、寡占、外部経済、外部不経済、市場の失敗 講義の主たる内容：１．需要量、需要曲線、需要法則　２．供給量、供給曲線、供給法則　３．市場均衡と市場均衡価格　４．市場機構
	8 9 10 11	経済の枠組と国民所得 キー・ワード：三面等価の原則、産業連関表、国民総生産と国内総生産、帰属計算、名目と実質、ＧＮＰデフレータ、粗投資と純投資、経済経常海外余剰 講義の主たる内容：１．フロー・ダイアグラム　２．産業連関表　３．国民所得の基礎概念　４．国民総支出の構成
	12	国民所得決定理論と乗数 キーワード：セイの原則、潜在的ＧＮＰ、４５°線、限界（平均）消費性向、消費関数、均衡ＧＮＰ、乗数理論、財政政策、デフレーション・ギャップ、インフレーション・ギャップ 講義の主たる内容：１．ケインズ『一般理論』の歴史的背景　２．ケインズ型消費関数（絶対所得仮説）３．３大消費関数仮説
備考		

	週	内　　容
後期	1 2	4．国民所得の決定理論 5．財政政策
	3	金融政策 キーワード：金融政策、貨幣、流動性、中央銀行、マネー・サプライ・貨幣市場、貸出市場、公定歩合、法定準備率、公開市場操作、貸出限度額適用、窓口規制 講義の主たる内容：1．貨幣　2．銀行制度と貨幣市場　3．金融政策の目的と手段
	4 5	景気循環過程 キーワード：景気循環、ジュグラー・サイクル、キッチン・サイクル、コンドラチェフ・サイクル、革新、加速度原理、ストック調整原理 講義の主たる内容：1．景気循環過程　2．景気循環の3つの態様　3．日本の景気循環　4．投資の決定要因　5．加速度原理　6．ストック調整原理
	6 7	景気安定化政策 キーワード：景気安定化政策、認知ラグ、行政上のラグ、実行上のラグ、自動安定化装置、マネタリストの見解 講義の主たる内容：1．政策上のラグ　2．自動安定化装置　3．M．フリードマンの批判と対案
	8 9 10	フィリップス曲線とスタフグレーション キーワード：一般物価、消費者物価指数、卸売物価指数、GNPデフレーター、総供給曲線、総需要曲線、インフレーション、インフレーション、ディマンドプル・インフレーション、コストプッシュ・インフレーション、セクター・インフレーション、フィリップ曲線、合理的期待形成 講義の主たる内容：1．一般物価水準　2．総供給曲線と総需要曲線　3．インフレーションの種類　4．フィリップ曲線とスタフグレーション
	11 12	国際貿易と交際通貨体制 キーワード：交易条件、絶対的優位、比較優位、外国為替市場、国際通貨体制、金本位制、金為替本位制、固定相場制、変動相場制 講義の主たる内容：1．国際貿易　2．絶対的優位　3．比較優位　4．外国為替市場　5．国際通貨体制

参考文献：　幸村千佳良『経済学事始』第2版　多賀出版
参考文献は必要に応じて板書する。

評価方法：（提出課題、試験等）　授業に出席して学習に努めることが学生の本文であり、その結果が前後期の定試の成績に反映されるものと考えて評価を定める。出席は状況に応じてとることにする。

経　済　学

担 当 者：岡田　博　　研究室：［８０１］

テキスト：未定

目　　標：経済学の入門書をテキストに使用して、経済学の基礎理論を講義する。講義では経済学の基礎知識の修得とともに、現実の経済にも関心を深めその動きを洞察する力が少しでも涵養されるように意を用いたい。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	経済学とはどのような学問か：経済問題の根源と経済学、経済学の定義、ミクロ経済学、マクロ経済学
	2	経済体制についてⅠ：経済体制とは、経済体制の共通課題
	3	経済体制についてⅡ：体制分類の視点、資産の所有制度、経営管理のあり方、経済活動の調整機構、経済的成果の比較
	4	資本主義市場経済の特徴：経済主体とその行動、市場の役割
	5	混合資本主義体制における政府の役割：所有権と契約の保護、経済政策
	6	経済循環：生産から消費への財・サービスの流れの概観
	7	国民所得の概念：ＧＮＰ，ＮＮＰ等々、わが国の国民所得
	8	国民所得の決定：有効需要の原理、消費関数と乗数理論
	9	国民所得の変動：景気循環、インフレーション
	10	貨幣と金融Ⅰ：貨幣の形態・機能、資金と金融市場
	11	貨幣と金融Ⅱ：貨幣創出の機構、信用創造
	12	貨幣と金融Ⅲ：金融政策
備考	前期試験を行う場合がある。	

	週	内　　容
後期	1	財政Ⅰ：政府の経済的機能の拡大、予算制度、わが国の予算
	2	財政Ⅱ：租税、わが国の税制
	3	財政政策Ⅰ：財政政策の目標
	4	財政政策Ⅱ：資源配分と財政政策、所得再配分と財政政策、経済安定と財政政策
	5	消費の理論Ⅰ：消費者と効用、消費者の合理的選択
	6	消費の理論Ⅱ：序数的効用理論と消費者均衡
	7	生産の理論Ⅰ：供給と費用
	8	生産の理論Ⅱ：利潤極大の条件、生産関数
	9	市場価格の決定Ⅰ：需要と供給
	10	市場価格の決定Ⅱ：市場構造
	11	国際経済：国際収支、為替相場、貿易と開発
	12	おわりに
備考		

参考文献：川口他：「経済学入門」　有斐閣、他。

評価方法：学年末定期試験の結果で評価する。場合によっては前期試験を行う。また(提出課題、試験等)出席も時々とり、これも評価の参考にする。

政　治　学

担 当 者：小林　正弥

テキスト：高畠　通敏『増補新版　政治学への道案内』（三一書房、1976年）

目　　標：今日のような激動の時代には、政治学もまたその理論の再検討を迫られる。そこで、本講では古典政治学と現代政治学とを統合した「本来の政治学」への道案内を行うこととし、基本概念に考察を加えつつ、現代政治を説明する。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	Ⅰ政治学　　年間の講義概要の説明を行った後、政治学の歴史を概観し、「本来の政治学」の基本的な姿勢を説明する。（教科書：Ⅰ）
	2	上に同じ。
	3	Ⅱ政治　　政治概念の考察。（教科書：Ⅱ）
	4	上に同じ。
	5	Ⅲ権力　　権力概念の考察。（教科書：Ⅳ）
	6	上に同じ。
	7	Ⅳ権威　　権威概念の考察。（教科書：Ⅳ）
	8	上に同じ。
	9	Ⅴ国家　　国家概念の考察。（教科書：Ⅲ）
	10	上に同じ。
	11	Ⅵリーダーシップ　　リーダーシップ概念の考察。（教科書：Ⅴ）
	12	上に同じ。
備考	以上の概念を説明しつつ、適宜現代政治の諸側面に言及することによって、具体的な分析ないし（概念の）適用を例示する。予定の変更については、後期に同じ。	

	週	内　　容
後期	1	Ⅷ人間　　政治学における人間観の考察。（教科書　Ⅵ・Ⅶ）
	2	上に同じ。
	3	上に同じ。
	4	Ⅷ民主主義　　民主主義及び議会主義についての考察。（教科書　Ⅷ・Ⅸ）
	5	上に同じ。
	6	Ⅸ政治体制論　　全体主義、ファシズム、コーポラティズムなど、様々な政治体制論の紹介。（教科書　Ⅺ）
	7	上に同じ。
	8	Ⅹ政治運動　　政治運動についての考察。（教科書　Ⅹ）
	9	上に同じ。
	10	Ⅺ日本の政治　　日本政治についての概説。（教科書　Ⅻ）
	11	上に同じ。
	12	Ⅻ政治の未来　　今後の政治の動向についての見通し。
備考	前期に比して、より具体的な諸問題を扱う。なお、事情により、以上の予定は適宜変更されることがありうる。	

参考文献：佐々木毅編『現代政治学の名著』（中公新書，１９８９年）

評価方法：後期に年間の理解度を調べる学年末試験を行う予定。
（提出課題、試験等）

政　治　学

担 当 者：志摩　園子
テキスト：阿部斎『概説現代政治の理論』
目　　標：現代政治を理解するのに必要な理論的枠組を紹介、説明する。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	政治と統治
	2	権力と権威
	3	国家と政府
	4	現代の国家観
	5	エリートの理論
	6	大衆社会の理論
	7	政治指導の理論
	8	投票行動の理論
	9	政治参加の理論
	10	集団行動の理論
	11	ゲームの理論
	12	多数決の逆説
備考		

	週	内　　容
後期	1	漸変主義の理論
	2	公共の本源的意味
	3	近代社会における公共性
	4	公共の存在条件
	5	政治体制の理論
	6	政治システムの理論
	7	自由主義の理論
	8	民主主義の理論
	9	平等主義の理論
	10	社会主義の理論
	11	政治行動論の限界
	12	政治の復権
備考		

参考文献：　必要に応じて指示。

評価方法：　レポート、詳細は授業で。
（提出課題、試験等）

政　治　学

担 当 者：深澤　民司

テキスト：使用しません。

目　　標：本講義の目的は政治の世界を包括的に理解し、それをヴィヴィッドに感じとるための素地を作ることにあります。そこで全体像を把握することに重点をおき、それと具体的事象との連関にも配慮しつつ講義を進めるつもりです。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	1年間の講義概要の詳しい説明をした後、政治に対する見方と政治学の特性について考えます。
	2	Ⅰ．政治学の基礎概念－1．政治とは何か－（1）政治の意味、（2）政治の所在
	3	Ⅰ．政治学の基礎概念－2．権力と権威－（1）権力
	4	Ⅰ．政治学の基礎概念－2．権力と権威－（2）権威と支配
	5	Ⅰ．政治学の基礎概念－3．国家－（1）国家の意味、（2）主権
	6	Ⅱ．社会と国家の歴史的展開－1．前近代－（1）前近代社会、（2）前近代国家
	7	Ⅱ．社会と国家の歴史的展開－2．近代－（1）近代社会、（2）近代精神
	8	Ⅱ．社会と国家の歴史的展開－2．近代－（2）近代精神［続き］，（3）近代国家
	9	Ⅱ．社会と国家の歴史的展開－3．現代－（1）現代社会、（2）現代国家
	10	Ⅲ．近代政治原理－1．民主主義－（1）J．J．ルソー、（2）民主主義の論理と問題
	11	Ⅲ．近代政治原理－2．自由主義－（1）J．ロック、（2）自由主義の展開
	12	Ⅲ．近代政治原理－3．保守主義－（1）フランス革命の衝撃、（2）E．バーク、（3）保守主義の展開
備考	重要な時事的問題が生じた場合は、それについての考察を講義のなかで行いますので、予定が若干変更になる場合もあります。	

	週	内　　容
後期	1	Ⅲ．近代政治原理－４．近代政治思想の展開
	2	Ⅳ．現代政治機構－１．政治機構の諸形態、２．議会－（１）議会の歴史、（２）近代議会主義
	3	Ⅳ．現代政治機構－２．議会－（３）二院制、・官僚制－（１）官僚制の特性と歴史、（２）官僚制と民主政
	4	Ⅴ．現代政治過程－２．選挙－（１）選挙制度、（２）日本の選挙
	5	Ⅴ．現代政治過程－３．政党－（１）政党の歴史、（２）日本の政党政治
	6	Ⅴ．現代政治過程－４．利益集団－（１）利益集団の役割、（２）日本の利益集団
	7	Ⅵ．現代日本の政治－１．日本の立法過程
	8	Ⅵ．現代日本の政治－２．権力構造、３．金権政治
	9	Ⅶ．国際政治の歴史的展開－１．ﾊﾟﾜｰ・ﾎﾟﾘﾃｨｸｽの成立と展開－（１）絶対主義時代、（２）市民革命時代、（３）帝国主義時代、（４）２つの世界大戦
	10	Ⅶ．国際政治の歴史的展開－２．冷戦とその後－（１）冷戦体制の成立、（２）デタントと多極化、（３）新冷戦から協調へ
	11	Ⅶ．国際政治の歴史的展開－２．冷戦とその後－（４）ポスト冷戦の世界
	12	特別講義として、時事的な政治問題をひとつ取り上げ、それを政治学的に考えてみます。
備考	重要な時事的問題が生じた場合は、それについての考察を講義のなかで行ないますので、予定が若干変更になる場合もあります。	

参考文献：高畠通敏『政治学への道案内』三一書房。他は講義のなかで紹介します。

評価方法：後期定期試験のときに試験を行いますが、前期に関しては未定です。

（提出課題、試験等）

法　　学

担 当 者：明田川　昌幸
テキスト：未定
目　　標：個々の法分野の講義を理解するために必要な基礎的知識を身につける。

	週	主　要　テ　ー　マ
前期	1	講義についての説明
	2	制定法の種類・効力
	3	制定法の解釈
	4	六法のつかい方
	5	司法制度について
	6	法律家について
	7	判例について　その1
	8	判例について　その2
	9	判例集の読み方　その1
	10	判例集の読み方　その2
	11	前期のまとめ
	12	予備

	週	主　要　テ　ー　マ
後期	1	民法入門　その１
	2	民法入門　その２
	3	商法入門　その１
	4	商法入門　その２
	5	民事訴訟法入門
	6	刑法入門
	7	刑事訴訟法入門
	8	憲法入門
	9	行政法入門
	10	労働法入門
	11	国際法入門
	12	まとめ

評価方法（提出課題、試験等）：論述式の試験を行う。

参考文献：なし

備　　考：講義の順序や内容は予定であり、変更や入れ替えがあるかもしれない。

法　　学

担 当 者：荒　　秀
テキスト：『法学通論』
目　　標：法の基礎概念と実定法の基礎知識を得させる。

	週	主　要　テ　ー　マ	
前期	1	法とは何か	
	2	法の内容	
	3	法の基礎づけと他の社会規範	
	4	法　源（1）	成文法
	5	〃　（2）	
	6	〃　（3）	
	7	〃　（4）	不文法
	8	〃　（5）	条約と条例
	9	法の分類（1）	
	10	〃　（2）	
	11	〃　（3）	
	12	法の効力	

	週	主　要　テ　ー　マ
後期	1	法の変更および廃止
	2	法の適用
	3	法の解釈（1）
	4	〃　（2）
	5	権利義務とその主体
	6	権　利
	7	義　務
	8	公法概論（1）
	9	〃　（2）
	10	〃　（3）
	11	私法概論（1）
	12	〃　（2）

評価方法（提出課題、試験等）：試験

参考文献：なし

法　　学

担 当 者：只木　誠

テキスト：伊藤正己・加藤一郎『現代法学入門』有斐閣

目　　標：法学・法律学を学ぶ上での基礎として、社会規範あるいは紛争処理方法とも呼ばれる「法」の基本的概念についての理解と「法」的な思考の習得を目的とする。

	週	主　要　テ　ー　マ
前期	1	＜導入＞法学とは何か――法・法学・法律学の意義と目的
	2	＜法の下の平等＞尊属殺と法の下の平等――尊属殺人違憲判決
	3	＜人身の自由・刑事裁判手続の保障＞死刑と残虐な刑罰――死刑合憲判決
	4	＜人身の自由・刑事裁判手続の保障＞死刑の存廃論
	5	＜人身の自由・刑事裁判手続の保障＞死刑選択の許される基準――永山判決
	6	＜自由権・社会権＞政教分離――津地鎮祭訴訟
	7	＜自由権・社会権＞表現の自由と猥褻――チャタレー事件・四畳半襖の下張事件
	8	＜自由権・社会権＞公務員の政治的活動の制限――猿払事件判決・名古屋中郵事件
	9	＜自由権・社会権＞生存権――朝日訴訟・堀木訴訟、公的扶助
	10	＜自由権・社会権＞労働基本権――男女差別定年制の違法性――日産自動車事件
	11	＜自由権・社会権＞労働基本権――採用内定の取消――大日本印刷事件
	12	＜法学入門＞現代社会と法――法と常識

	週	主　要　テ　ー　マ
後期	1	＜法学入門＞法とは何か――社会生活と法、法と道徳、法と強制
	2	＜法学入門＞法とは何か――法の目的、権利と義務
	3	＜法学入門＞法の適用――法と裁判（裁判制度、訴訟手続上の諸原則）
	4	＜法学入門＞法の適用――裁判の基準となるもの（法源）
	5	＜法学入門＞法の適用――法の解釈（事実認定と法の解釈、法解釈と性質、法解釈の方法）
	6	＜法学入門＞法の体系――法の分類（国家と法、犯罪と法、労働と法、国際社会と法）
	7	＜法学入門＞法の体系――法の分類（家族生活と法、財産関係と法）
	8	＜法学入門＞法の発展――法の発展と社会の発展、自然法と歴史主義、近代法の成立
	9	＜法学入門＞法の発展――近代法の発展、日本の近代法
	10	＜総括＞――法学とは何か（再論）――法学の課題（冤罪、安楽死、脳死、性と犯罪、犯罪報道、汚職、人格権、不法行為など）
	11	調整日
	12	調整日

評価方法（提出課題、試験等）：試験は前期と後期の試験期間中に筆記試験にて行う。参照物不可。
なお、各種レポートなどを課題とする。

参考文献：団藤重光『法学入門』築間書房
山田卓生『私事と自己決定』日本評論社
西村健一郎他『判例法学』有斐閣
寺澤一編『法学の基礎』青林書院
その他の参考書については、開講時に指示する。

法　　学

担 当 者：松田　幹夫
テキスト：山田　晟『法学（新版）』東大出版会
目　　標：リーガル・マインドに向かって

	週	主　要　テ　ー　マ
前期	1	参考書の紹介――日米法学教育の違い――日常的な「契約」
	2	マックス・ウェーバーと大塚久雄――遺言の解釈――ハンス・ケルゼンの法段階説
	3	「社会あれば法あり」――SeinとSollen――複数の行為規範――唯物史観とシュタムラー説
	4	ヘロドトス以来の国家論――イェリネック『一般国家学』――国家法人説と天皇機関説――永世中立国
	5	ケルゼンの「強制規範」――行為法と道徳との差異――「強制」の意味
	6	法と道徳との関係――法と宗教――法と礼儀――社会法則の蓋然性と自然法則の必然性
	7	前期前半知識の整理
	8	古代の法学――グロチウス説――ホッブス説――ロック説――プーフェンドルフ説――ルソー説――憲法前文
	9	ティボー対ザヴィニー――ロマニステンとゲルマニステン――イギリスの歴史法学――『ベニスの商人』批判
	10	「法源」の意味――「憲法」の意味――「法律」の意味――「条約」の意味
	11	成文法主義と判例法主義の比較――レイシオ・デシデンダイ――硬性憲法と軟性憲法――憲法上位説対条約上位説
	12	前期後半知識の整理

	週	主　要　テ　ー　マ
後期	1	公法と私法を区別する基準――強行法と任意法――日本における法の継受――英米法の人権保障的性格
	2	ピタゴラス学派の正義論――アリストテレスの正義の分類――ラートブルフ説
	3	政治の弁証法的性格――指導者原理――「数の政治」から「理の政治」へ――マルクスの国家観――ヘーゲルとナチス
	4	「解釈」の意味――民法８５条は有権解釈の例――論理解釈の諸技術
	5	目的論的解釈――条約の場合は立法者変思説――法律学は科学か？
	6	法の適用と事実認定――軍法会議が設置されない理由――警察予備隊違憲訴訟――民事訴訟と刑事訴訟
	7	後期前半知識の整理
	8	「不磨ノ大典」の崩壊――松本草案対マッカーサー草案――八月革命説
	9	「臣民権利義務」――法律の留保――天皇・皇族は人権を享有するか？――人権に対する制限――三権分立
	10	平和主義の歴史――国家の基本権としての自衛権――９条の特色は２項に？――日米安保体制――国連との関連
	11	日本社会と権利――イェリングの権利闘争論――権利濫用――権利の分類
	12	後期後半知識の整理

評価方法(提出課題、試験等)：主として前期試験と後期試験

参考文献：前期第１週で紹介

法　　学

担 当 者：内藤　光博

テキスト：テキストは使用しない。ただし講義の際に詳細なレジュメを配布する。

目　　標：法律を専門としない学生が、基本的人権の保障を中核とする「日本国憲法」の価値原理と、それを確保するための国家の統括原理（三権分立）について一応の概観を得ることができるよう、身近な政治・社会問題を素材にして、具体的でコンパクトな説明を提供すること。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
期	1	第１回目の授業では、１年間の講義ガイダンスとして、講義内容の説明と、基本文献の紹介を行う。
	2	第２回目の授業では、本講座が法学部以外の学生を対象としていることを考慮し、六法書の読み方や法体系の仕組みなどについての初歩的な説明を行う。
	3	第３回目の授業では、(1) 総論：その１というテーマで、日本国憲法の全体的な構造と特質について説明を行う。
	4	第４回目の授業では、(1) 総論：その２として、近代憲法の歴史を概観したのち、日本国憲法の歴史的意義について説明を行う。
	5	第５回目の授業では、(2) 国民主権と選挙というテーマで、国民主権の原理と選挙制度の問題点について説明を行う。
	6	第６回目の授業では、(3) 平和の憲法思想というテーマで、憲法第９条の非戦・非武装の思想と、平和的生存権について説明する。
	7	第７回目の授業では、前回に引き続き、平和主義とのかかわりで問題となっているＰＫＯの問題について考えてみたい。
	8	第８回目の授業では、(4) 女性の人権というテーマで、男女平等の原理について総論的な説明を行う。
	9	第９回目の授業では、前回に引き続き、女性の人権とのかかわりで、女性の労働環境にかかわる問題（例えば、女性の雇用やｾｸｼｬﾙﾊﾗｽﾒﾝﾄ など）を考える
	10	第10回目の授業では、(5) 外国人の人権というテーマで、近年急増した外国人労働者が日本国憲法の下でいかなる人権を有するか、という問題を考える。
	11	第11回目の授業では、前回に引き続き、とくに在日韓国朝鮮人などの「定住外国人」の人権について考えてみたい。
	12	第12回目の授業では、(6) 宗教と人権のテーマのもと、政教分離原則や靖国神社問題など、わが国の信教の自由について考えてみたい。
備考		

	週	内　　容
後期	1	第１回目の授業では、(7) 教育の自由と国家の役割というテーマで、わが国における学校教育をめぐる問題（校則、体罰など）を考えてみたい。
	2	第２回目の授業では、前回の教育と国家とのかかわりで、教科書検定問題について考える。
	3	第３回目の授業では、(8) 情報化社会と人権のテーマで、表現の自由の意義と情報化社会の進展にともなう諸問題について考えてみたい。
	4	第４回目の授業では、前回に引き続き、マス・コミによる人権侵害問題（プライバシーの侵害など）の問題を考えてみる。
	5	第５回目の授業では、前回、前々回に引き続き、特に放送の自由をめぐる問題（特に昨年末に問題となったテレビ朝日報道問題を素材として）を考察する
	6	第６回目の授業では、(9) 環境破壊と人権のテーマのもと、現在世界的規模ですすんでいる環境破壊の問題について、憲法的どのように考えるべきかについて説明する。
	7	第７回目の授業では、(10)生命と人権のテーマのもとで、死刑制度の合憲性について考えてみたい。
	8	第８回目の授業では、前回に引き続いて、脳死および臓器移植の問題について考えてみたい。
	9	第９回目の授業では、前回、前々回に引き続いて、安楽死・尊厳死の問題について考えてみたい。
	10	第10回目の授業では、(11)裁判と人権のテーマで、人権保障の機関としての裁判所の機能と役割について説明したい。
	11	第11回目の授業では、前回に引き続き「憲法の番人」としての裁判所が有する違憲立法審査権について考えてみる。
	12	第12回目の授業では、年間の講義のまとめとして、「憲法の目的とは何か」について考えてみる。

参考文献：　テーマごとに基本文献を随時紹介する。

評価方法：（提出課題、試験等）　毎回講義に出席することを強く要望する。評価は、学年末に行われる定期試験（１９９５年１月実施）の結果により行う。試験は、年間を通して行われた講義内容につき、論述式で行う。

法　　学

担 当 者：広部　和也
テキスト：『法学の基礎』　（寺沢一編・青林書院）、六法
目　　標：

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	この講義の全体の説明。内容・勉強の仕方、授業態度等に関する注意。
	2	法と社会（社会化・社会統制）
	3	法と社会（社会規範・法の特質）
	4	法と社会（法の役割）
	5	紛争の解決（紛争の類型と法の関係、犯罪と刑罰）
	6	犯罪と刑罰
	7	財産法の基本原理（人格の自由，所有権の絶対，契約自由の原則，過失責任主義）
	8	同上
	9	同上
	10	社会法の基本原理（労働法の形成）
	11	同上　　（労働法の内容）
	12	同上　　（社会保険法）
備考		

	週	内　　容
後期	1	近代憲法の基本原理
	2	日本国憲法の基本原理（国民主権，権力分立）
	3	同上　　（基本的人権の保障）
	4	同上
	5	同上　　（生存権の思想）
	6	同上
	7	行政救済と行政補償
	8	その他の紛争と法
	9	法の強制力について
	10	訴訟（裁判制度）
	11	同上
	12	同上（訴訟の基本原理）
備考		

評価方法：　試験
（提出課題、試験等）

社　会　学

担 当 者：有吉　広介　　研究室：［７３３］
テキスト：配布するプリント、および寿里　茂著『現代の社会構造』
目　　標：現代社会の諸問題は、近代に起った産業化と、現在進行しつつある脱工業化とによって生じる社会変動におおいに関係がある。本講義では、の視点から、われわれの日常生活の諸変化を考えてみたい。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	社会学の先駆者サン・シモンやオーギュスト・コントなどにおける社会の発展段階説と近代社会の性格づけ
	2	古典的社会学者Ｆ・テンニース、Ｇ・ジンメル、Ｅ・デュルケム、Ｍ・ウェーバーなどにおける近代社会の理解
	3	社会学における産業社会および脱工業社会の捉え方
	4	前週に続く
	5	現代の職業構造の分析
	6	雇用社会と職業的キャリア
	7	産業社会における知識の役割と教育の社会構造
	8	日本の近代化、教育システム、および学歴社会
	9	社会的不平等の諸次元
	10	社会的不平等の構造化
	11	不平等社会と社会移動
	12	日本の階層社会と社会移動
備考		

	週	内　　容
後期	1	近代官僚制の諸特徴――管理社会の本質をさぐる
	2	近代国家と行政組織
	3	近代的経営の権力構造
	4	日本的組織構造
	5	ホワイトカラーの世界
	6	都市化と地域社会の変化
	7	家族の定義・類型、そして核家族化・少子化の問題
	8	家族の機能およびライフサイクルの変化
	9	家族の役割構造の変化
	10	高齢化社会の人口学的および社会学的分析
	11	高齢化社会における社会問題
	12	生活の質の考え方
備考		

参考文献：随時紹介する。

評価方法：前期および後期の末におこなわれる定期試験による。
（提出課題、試験等）

社 会 思 想 史

担 当 者：市川　達人

テキスト：渋谷一郎編『社会思想の歴史』（八千代出版社）

目　　標：　諸社会科学を生み出したヨーロッパ近代の哲学的社会観の流れを把握し、それを通じて近代という時代への批判的視点を確立することを目的とする。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	一年の予定。講義の目的と課題。近代への反省。
	2	社会思想史とは何か、思想史について。社会ならびに社会意識について。社会思想の類型。
	3	近代市民社会について。 封建制とキリスト教イデオロギーについて。
	4	ルネッサンスと古典古代文化。ルネッサンスと都市。ルネッサンス文化の諸特徴。
	5	マキャヴェリズムとマキャヴェリ評価の歴史
	6	マキャヴェリと近代政治学。『君主論』の論理。
	7	社会思想の一類型としてのユートピア思想の意義。
	8	トマス・モアの『ユートピア』。
	9	中世の異端運動と教会改革運動。千年王国説。後期スコラ学派。
	10	ルターの宗教改革運動。ルターの神学と政治思想。
	11	ルターの商業観と職業思想。 カルヴィニズムと二重予定説。
	12	カルヴィニズムと近代合理主義、カルヴィニズムにおける政治思想。
備考		

	週	内　　容
後期	1	ヨーロッパにおける自然法思想の歴史。ギリシャ哲学、ストア派、キリスト教神学。
	2	近代自然法思想の出現（グロティウス）
	3	ホッブズの人間観と自然権思想。
	4	ホッブズの国家論と近代国家。
	5	ロックの自然法思想と市民政府論
	6	ロックの所有権理論の意義。経済的自由主義への道。
	7	フランス啓蒙思想。ディドロ、モンテスキュー。
	8	ルソーの啓蒙批判と社会批判(1)
	9	ルソーの啓蒙批判と社会批判(2)
	10	アダム・スミスと経済的自由主義、市民社会の交通理論（感情と利害）
	11	資本主義批判と社会主義思想の諸潮流。
	12	マルクスの社会主義。その現代への影響。
備考		

参考文献：講義で適宜指示

評価方法：評価は後期の試験による（前期の試験は行わない）。ただしレポート提出を(提出課題、試験等)要求する場合もありうる。

社 会 思 想 史

（日本・西洋思想の比較）

担 当 者：松丸　壽雄　　研究室：［７２８］

テキスト：なし

目　　標：日本思想および西洋思想の発する根源を促えるために、歴史的、社会的、具体的事実を基にしながら考察を進める。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	ヨーロッパ中世の時代思想、社会思想　1
	2	同上　2
	3	同上　3
	4	同上　4
	5	ヨーロッパ近代の社会、時代状況　1
	6	同上　2
	7	同上　3
	8	同上　4
	9	ヨーロッパ現代の社会、時代状況（特に科学的思考、思想の排出される背景を中心に）　1
	10	同上　2
	11	同上　3
	12	同上　4
備考		

	週	内　　容
後期	1	日本の中世の社会、時代思想　1
	2	同上　2
	3	同上　3
	4	同上　4
	5	日本の近世の社会、時代思想（特に徳川時代中後期を中心に）　1
	6	同上　2
	7	同上　3
	8	日本の現代の社会、時代状況把握（とくに科学思想を中心に）　1
	9	同上　2
	10	同上　3
	11	同上　4
	12	総まとめ
備考		

評価方法：レポートを前期・後期各一回提出。
（提出課題、試験等）

人 文 地 理 学

担 当 者：犬井　正　　研究室：［７１９］

テキスト：

目　　標：本講義は、風土との関連が最も強い第一次産業に焦点をあてながら、スライド、ＶＴＲを援用しつつ、世界の諸地域における風土と生活文化の諸相を考察する。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	本講義の一年間の受講者としての心構えおよび、講義方法、講義内容に関するオリエンテーションを行う。
	2	本講義の主要なキーワードの１つである風土の概念規定を、単なる自然環境としてではなく、社会環境との関連で講述する。
	3・4	ＶＴＲ（自然の驚異）を視聴し、世界の自然環境の多様性とその特色を知る。また、人々が、世界の多様な自然環境をどのように認識し、どのようにそれを利・活用して風土化してきたのかを考察する。
	5	大陸東岸、大陸西岸の中高緯度帯に位置する日本、ｲｷﾞﾘｽ両国を例にしながら、異った地理的位置を占める地域の風土と生活文化の相違を考察する。(ｽﾗｲﾄﾞ)
	6	日本とイギリスの土地利用形態の相違を、風土、文化の視点から考察する。（スライド）
	7・8・9	森林経営と農牧業を事例にしながら、日本の第一次産業の特色と問題点を考察する。（ＶＴＲ、スライド、作業実習）
	10・11・12	イギリスのIndustrialize した農牧業の特色と問題点を、EC加盟国の一員、日本との比較などを観点として考察する。（スライド、作業実習）
備考		

	週	内　　容
後期	1	ＶＴＲ（アンデス紀行）を視聴し、南米アンデス山地におけるインディオの高度帯の相違による土地利用の相違を理解する。
	2・3	高度帯別におけるアンデス山地の土地利用・生活文化の諸相を、風土、文化の観点から考察する。
	4・5	スイスアルプスの山地で行なわれている移牧を例にして、日本やアンデス山地における山地資源の利用方法の相違を考察する。（スライド）
	6	熱帯雨林地域の森林の特色と利用形態について、温帯林地域の日本と西欧諸国と比較しながら考察する。（スライド）
	7・8	アマゾンの熱帯雨林の特色と利用開発の問題点について考察する。
	9	森林の開発と保全の方法について、熱帯林、温帯林、身近かな森林などを例にして考察する。（スライド）
	10・11	世界の砂漠の分布を手がかりとして、乾燥地域の風土の形成と遊牧文化の特色を考察する。（スライド、作業実習）
	12	１年間の講義のまとめと評価。
備考		

参考文献：講義の際に参考文献リストを提示する。

評価方法：作業実習の提出物の評価と、前・後期の定期試験等による。
（提出課題、試験等）

人 文 地 理 学

担 当 者：山本　正三　　研究室：［７３４］

テキスト：　佐藤甚次郎　「生活文化と土地柄」　（大明堂）

目　　標：　地理学は世界各地域の文化を環境との関係や他の地域との関連から考察し、文化の地域による類似と差異に注目した。このテキストは地理学からの地域文化研究の基本的な見方を実例によってよく説明しているので使用することにした。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	Ⅰ　生活文化とその地域分化 生活文化の地域性の実例と、その解釈の仕方の概略
	2	Ⅱ　生活および生活文化と自然環境 主として環境が生活を制約し、生活文化を形づくることについての自環境然を出発点とする考え方を説明し、その長短をあきらかにする。
	3	
	4	
	5	Ⅲ　生活主体としての人間 環境との関連での生活形態の形成における人間の主体的役割についての諸説を実例によって検討する。
	6	
	7	Ⅳ　生活文化の世界化と地方化 生活文化の環境への適応による地方化と、技術的・物質的生活素材による世界化、世界的共通化の実態と、そのメカニズムを説明する。
	8	
	9	Ⅴ　人類の増加過程と居住地域の特質 人口増加、人口密度が生活文化に与える影響という見地にたってそれによって説明できる現象が非常に多いことを説明する。
	10	
	11	Ⅵ　生活文化の展開とエクメーネの拡大 文化の伝播過程でどのように生活文化が拡大するか、それは古くは居住地域の拡大過程と同一であった。この過程が進行した環境的要因をあわせて考える。
	12	
備考		

	週	内　　容	
後期	1	Ⅶ　エクメーネ拡大と衣服	人間の居住地域の拡大過程過程が文化の伝播をもたらす基本的条件であったという認識のもとに、衣、食、住の世界的・地域的共通性、類似性を説明する。
	2		
	3	Ⅷ　エクメーネ拡大と住居	
	4		
	5		
	6	Ⅸ　エクメーネ拡大と食生活および食料生産	
	7		
	8		
	9	Ⅹ　生活文化の土地柄 生活文化の地域性を土地柄形成との関連において、実例によって説明する。日本における生活文化、生活感覚の地方性を、歴史的環境、民俗的環境との関連から考える。	
	10		
	11		
	12	Ⅺ　地域学における生活地理学 生活文化を通しての地理学へのアプローチの意義についてのべる。	
備考			

評価方法：（提出課題、試験等）　前期末および後期中頃に講義に関連するいくつかのテーマでレポートを提出させ、後期末には試験を行う。あらかじめ、問題をいくつか提示し、それについて検討しておいてもらうことにする。

心　理　学

担 当 者：杉山　憲司

テキスト：青柳肇・瀧本孝雄・杉山憲司・矢澤圭介（編著）『こころのサイエンス』、『トッピクスこころのサイエンス』福村出版（各¥1,900）

目　　標：この授業では、なるべく広範囲にテーマを選び、心理学の問題の捉え方、研究方法を紹介しながら、心理学の研究と日常的問題の関連について講義する。心理学から見た科学的人間観の理解が最終的な学習目標である。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	はじめに：心理学の体系について、前期目標：人間に共通に当てはまる現象と一般法則の学習、Ⅰ．行動の側面から、1）行動の種類と発達・進化
	2	2）学習の基本型（その1）パブロフの条件反射学、スキナーの実験行動分析学（しつけや情緒・言語学習、それに技能獲得の仕組み）
	3	（その2）バンデューラの社会的学習理論（攻撃行動や愛他行動の学習における模倣の役割、影響力のあるモデルの特性は何か）
	4	3）スポーツ・技能学習（スポーツと健康の自己管理、技能学習の特徴と実験的分析、自動車運転の要因のモデル）
	5	4）社会的行動（その1）リーダーシップ行動（リーダーシップＰＭ類型論、条件対応モデルなど）
	6	（その2）攻撃行動、向社会的行動、道徳的行動と責任の分散、愛他行動と課題達成行動のバランスと育成
	7	Ⅱ．感覚や知覚、認知の側面から、1）感覚と知覚（感覚のメカニズム、色覚プルキニエ現象、恒常性と錯視など）
	8	2）認知のプロセス（選択的注意、パターン認識、チャンク、スキーマ等の情報処理モデル）
	9	3）記憶の構造（短期記憶・長期記憶、意味記憶・エピソード記憶、情報検索などの記憶の情報処理モデル）
	10	Ⅲ．動機づけと情緒の側面から、1）生理的動機と情緒（ホメオステーシス、要求－動因－誘因説、緊張低減説、外的刺激に対する反応性）
	11	2）内発的動機（その1）知的好奇心、自己原因性、有能感、内発的動機づけの活性化、最適不適合とズレ理論
	12	（その2）達成動機、3）対人社会動機（愛着性、共感性と愛他動機）、4）動機の矛盾（コンフリクト、フラストレーション、ストレス）
備考		

	週	内　　容
後期	1	後期目標：人間の個性理解、Ⅰ．パーソナリティ（性格）１）パーソナリティの定義と測定法（その１）類型論（クレッチマーの体系説）、DSⅢ-Ⅲ-R
	2	（その２）特性論（キャッテルとギルフォードの特性論、因子分析と根源特性）心理検査の標準化、人か状況か論争
	3	（その３）力動論（フロイトの精神分析、無意識過程、幼児期の重視、心的外傷、ユングの分析心理学）
	4	２）パーソナリティの形成・発達（要因の分析と相互作用説、遺伝プログラムと状況規定性、初期経験の重要性）
	5	３）パーソナリティの病理と対処法（不適応と異常、人間性心理学の立場からのロジャースのクライエント中心的カウンセリングと自己の変容）
	6	Ⅱ．知能と創造性　１）知能研究の源、知能観と知能検査、偏差値の功罪、能力か動機づけか）
	7	２）創造性と創造性の開発（知能検査で測られていないもう一つの能力、拡散的思考と創造性、創造性の育成と活性化）
	8	Ⅲ．発達　１）研究の源と発達観の変遷（研究法としての縦断的研究、親や教師の発達・教育観とピグマリオン効果、生涯発達の視点）
	9	２）初期発達の重要性（乳児の気質の型、アタッチメントの形成過程、コンピテンスと自己原因性の獲得、運動技能の初期発達）
	10	３）社会性の発達（道徳性と向社会性の発達・発達段階、仲間関係のルールとスキル、ソーシャルサポート）
	11	４）青年期と自己意識（公的自己・私的自己・自我同一性の獲得、自己主張、対人不安、対人スタイル）
	12	５）生涯発達と生き甲斐（仕事と生き甲斐、キャリアーとしての職業、老人の喪失感、責任と役割を持つことと統制感）
備考		

参考文献：授業中に随時指示する。

評価方法：前後期２回の試験をする。追試は教務課を通すこと。

（提出課題、試験等）

心　理　学

（生涯発達心理学概論）

担 当 者：針生　悦子

テキスト：無藤隆・高橋恵子・田島信元（編）「発達心理学入門Ⅰ・Ⅱ」　東大出版会

目　　標：“発達”と言うと、青年期までの上向きの変化ばかりを連想しがちだ。が、人生80年と言われる現代、その“あと”は、ますます長くなりつつある。人間が生涯を通じて、どのように発達していくのか、心理学の観点から考える。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	発達のメカニズム（1）　発達因を遺伝にありとする立場（遺伝説）と、環境にありとする立場（環境説）について概説する。
	2	発達のメカニズム（2）　さまざまな証拠に照らして、遺伝説と環境説の妥当性について検討する。
	3	発達のメカニズム（3）　さまざまな証拠を検討する中で、遺伝説、環境説に代わるものとして、相互作用説の立場を提出する。
	4	発達のメカニズム（4）　人間を進化の中に位置づけ、他の動物と比較することにより、人間の発達の特徴を明らかにする。
	5	赤ん坊は、外界を認識するメカニズムとしてどのようなものを備えて生まれてくるのか、それを基礎に外界に対する認識をどう発達させていくのかを見る。
	6	子どもは、人と結びつきをつくるために、どのような仕組みを備えて生まれてきているのかについて考える。
	7	子どもは、他者との愛着関係をどのように発達させていくのか、そこにはどのような個人差が見られるかについて考える。
	8	自己認識は、どのように芽ばえ、発達していくのかについて、鏡映像認知や第1反抗期などを通じて、考えていく。
	9	言語獲得（1）　子どもが言語によってコミュニケーションするだけでなく、思考過程や自らの行動を調節できるようになっていく過程について考える。
	10	言語獲得（2）　習得開始時期によって、習得される言語の質にはどのような違いが見られるかといったことを通じて、言語獲得の臨界期について考える。
	11	他者の気持ちや性格を理解することの発達について見ていく。
	12	前期の授業の講義内容に関して、テストを行なう。
備考		

	週	内　　容
後期	1	親の養育態度が子どもの発達にどのような影響を及ぼしうるかということについて養育態度、および、子どもの発達の文化比較から、考えていく。
	2	知能テストの歴史を概観し、知能テストが測っている“知能”とは何か、知能テストでは捉えることのできない“知能”はどんなものか、について考える。
	3	Piagetの認知発達の理論と、それに対する批判について、解説する。
	4	学業達成への努力を支えている要因として、学問というものに対する文化的な価値づけ、生徒自身の“努力”観や原因帰属のスタイルについて考える。
	5	青年期という時期について、身体の変化、環境の変化、（青年自身の）思考能力の変化という点から考える。
	6	親からの自立、自我同一性の確立など、“自立”に向けての葛藤について考える。
	7	同性・異性を含めた、青年期の友人関係について考える。
	8	青年が、どのような結婚観・職業観・倫理観をもち、社会の中に居場所を得ていくかについて考える。
	9	親と子という２つの世代にはさまれ、身体的・精神的にも人生の大きな転換点にさしかかった中年期の問題について考える。
	10	中年期以降、知的機能に関しては一般に、下向きの変化ばかりが考えられがちだがそれは本当か。中年期以降の知的発達について考える。
	11	老人の幸福感を支えているのは何か。本人の健康状態、まわりの人々との関係（ソーシャル・サポート）と、老人の幸福感との関連を探る。
	12	後期の授業内容に関して、テストを行なう。
備考		

評価方法：一定水準以上の授業への参加を、単位認定の前提条件とする。評価は、前後（提出課題、試験等）期各１回のテストと、レポートによって決定する。

心　理　学

担 当 者：三本　茂　　研究室：［７１５］

テキスト：開講時に指示する。

目　　標：人間行動への複眼的接近――心理学は人間行動の法則性を明らかにしようとする科学的である。本講義は個人と社会集団の二つの側面から人間行動に接近する。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	まず、年間の講義内容のあらましと講義のねらいとについて述べる。講義についての要望があれば、この時間に出してもらいたい。
	2 3 4 5 6 7 8	○人間行動におよぼす個人的要因として、性格を取り上げる。 1．性格とは何か 2．性格とパーソナリティ 3．性格理論 4．パーソナリティの形成（集団的パーソナリティ論） 5．パーソナリティの診断と適応
	9 10 11 12	○人間の知的行動 1．知能とは何か 2．知能の形成と発達 3．知能と社会・文化的要因
備考		

	週	内　　容
後期	1	
	2	
	3	○社会的行動
	4	1．集団の特質 2．比較動物学的接近
	5	3．集団内の個人行動 4．社会的態度
	6	
	7	
	8	
	9	○社会集団と文化
	10	1．文化をどう考えるか 2．比較文化論の視点
	11	3．社会現象
	12	
備考		

参考文献：講義の進行に対応して紹介する。

評価方法：前期は夏期休暇中にレポートを作製する。後期は試験　期間中に筆記試験を(提出課題、試験等)おこなう。

数　学　Ⅱ

（微分・積分）

担 当 者：福井　尚生　　研究室：［７０２］

テキスト：『微分積分概論』　南部徳盛　著　近代科学社

目　　標：人口増加や伝染病の伝播ばかりでなく、微分方程式を使うと絵の暦作だって数学的に考察出来る。絶えず応用を頭に置きながら、ただ数学万能でないだけに落し穴に落ちない為の用心もして、使える微分・積分を学習する。

年間予定

	週	内　　容
前期	1	
	2	
	3	
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	
備考		

	週	内　　容
後期	1	
	2	
	3	
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	
備考		

評価方法：原則として、演習とリポートに依る。
（提出課題、試験等）

数 学 概 論

担 当 者：福井　尚生　　研究室：［７０２］

テキスト：『現代基礎数学通論』　樋口禎一・松島弥太郎・金井省二　共著　培風館

目　　標：代数学、幾何学、論理学及び集合論の発生と発展をみる。門外漢には取り付く島もない高等数学も元はと言えば必要性から発生し、先哲の試行錯誤に依って少しづつ発展して来た。その辺の苦労話や和算の話へも脱線する。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	
	2	
	3	
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	
備考		

	週	内　　容
後期	1	
	2	
	3	
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	
備考		

評価方法：原則として、演習とリポートに依る。
（提出課題、試験等）

地　　学

（宇宙論）

担 当 者：福井　尚生　　研究室：［７０２］

テキスト：『宇宙論がわかる』　黒星瑩一　著　　講談社現代新書

目　　標：宇宙論の変遷、相対性理論、及び一般相対論的宇宙論から興味ある話題を取上げる。それ等を直観的に学び、且つ各自の頭の中で改めて自由に考え直すことで、自然科学への恐怖心を捨て自然になにがしかの興味を抱くきっかけが作れればと思う。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	
	2	
	3	
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	
備考		

	週	内　　容
後期	1	
	2	
	3	
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	
備考		

評価方法：原則として、リポートに依る。
（提出課題、試験等）

生　物　学　A

担 当 者：菅野　徹

テキスト：『有明海』　菅野　徹著（東海大学出版会）

目　　標：慢性または複合的な、また未知因子による環境変化は、物理化学的手法では捕捉し難い。各種環境因子の長期に亘る累積効果を身をもって示す生物への知識が今ほど要求されている時はない。学生の知識を少しでも増やしたい。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	種の定義、種の概念。
	2	学名。
	3	和名。
	4	生物の定義、その概念、範囲。
	5	水と生物の関係。
	6	CO_2 と生物の関係。
	7	O_2 と生物の関係。
	8	紅海と鉄鉱と藍藻。
	9	琵琶湖の生物の特異性。
	10	北海道東北部沿岸生物の特異性。
	11	有明海の生物の特異性（その１）
	12	有明海の生物の特異性（その２）
備考	生物学Ｂと重複して履修することはできない。	

	週	内　　容
後期	1	生きている化石。
	2	生物現象の規則性と季節（その１）
	3	生物現象の規則性と季節（その２）
	4	年毎の気象変動と生物現象（その１）
	5	年毎の気象変動と生物現象（その１）
	6	植物体の構造。
	7	雑木林にみる生物相互の関係。
	8	太陽と月と生物と。
	9	動物と植物の相互関係。
	10	海と川と陸の生物の大差。
	11	生物系統樹（その１）
	12	生物系統樹（その２）
備考	季節の話題を講義に取り入れる都合で、上記講義順は多少前後するであろう。	

参考文献：『会下谷(えげやと)の雑木林の生物相とその季節変化』（横浜市環境科学研究所）
『海辺の生物』（小学館）　『川・池の生物』（小学館）
『雑木林の１年』（福音館）　以上、いずれも菅野　徹著。
『Animals without Backb ones』　Ralph Buchsbaum 著(Penguin Books) など

評価方法：評価は前後期各１回のリポート、夏休みの宿題、および講義への集中度によって決定する。

生　物　学　B

担 当 者：菅野　徹

テキスト：随時プリントを配布。

目　　標：身辺の生物の微視的、かつ精密な観察を通じて、自然界の精妙さに触れてもらい、自然の理解に役立たせたい。その理解が、人間中心の自然観や、一部の動植物に対する故なき評価への反省につながることを期待する。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	実験台と顕微鏡の使い方。
	2	生物の系統進化。
	3	イナゴの観察とスケッチ（その１）
	4	イナゴの観察とスケッチ（その２）
	5	イナゴの観察とスケッチ（その３）
	6	ツクシの胞子のダンス。
	7	サクラエビの観察とスケッチ（その１）
	8	サクラエビの観察とスケッチ（その２）
	9	ホタルイカの観察とスケッチ（その１）
	10	ホタルイカの観察とスケッチ（その２）
	11	節足動物と軟体動物。
	12	脊椎動物。
備考	生物学Ａと重複して履修することはできない。Ｂは場所、器具の関係で１クラス４８名に限られ、超過すれば抽選を行う。また教材費を会計に納めねばならない。	

	週	内　　容
後期	1	シラスボシの動物学（その１）
	2	シラスボシの動物学（その２）
	3	セイタカアワダチソウの季節変化と、その花粉。
	4	マメアジの観察とスケッチ（その１）
	5	マメアジの観察とスケッチ（その２）
	6	身辺の野草の観察（その１）
	7	身辺の野草の観察（その２）
	8	アミーバの観察とスケッチ（その１）
	9	アミーバの観察とスケッチ（その２）
	10	伝右川の水の生物（その１）
	11	伝右川の水の生物（その２）
	12	アワビ殻上の小宇宙
備考	市販されている教材は大学で用意する。材料の都合で、上記の講義順には変動があり得る。	

参考文献：『有明海』（東海大学出版会）『会下谷（えげやと）の雑木林の生物相とその季節変化』（横浜市環境科学研究所）『海辺の生物』（小学館）『川・池の生物』（小学館）『雑木林の１年』（福音館）以上、いずれも菅野徹著。「Animals without Backbones」 Ralph Buchsbaum著 (Penguin Books)

評価方法：評価は前後期各１回のリポート、夏休みの宿題、講義毎の提出物、および講義への集中度によって決定する。

人　類　学

担 当 者：井上　兼行　　研究室：［７１３］

テキスト：なし。

目　　標：文化人類学的考え方を概略理解する。そのために学史を鳥瞰し、いくつかの事例を挙げて、その理解の仕方を説明する。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	解題。
	2	１５Ｃ末～１６Ｃ前半のスペイン人によるインディオ理解（１）
	3	〃　（２）
	4	〃　（３）
	5	１６Ｃ～１８Ｃ西欧人による異民族理解。
	6	１８Ｃ後半～１９Ｃ後半西欧人による異民族理解。
	7	１９Ｃ後半文化人類学誕生（１）。研究対象としての“文化”の概念①
	8	〃　（２）。　〃　②
	9	〃　（３）。研究方法としての“進化”の概念①
	10	〃　（４）。　〃　②
	11	１９Ｃ末～２０Ｃ初、研究方法への疑問と両検討。
	12	２０Ｃ初、新しい文化人類学の誕生。
備考		

	週	内　　容
後期	1	方法としての実地調査（フィールド・ワーク）
	2	以下事例検討。
	3	↓
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	
備考	事例は話の脈絡でおもしろそうだと考えたものを挙げたいので、ここには掲げない。ここに掲げた回数は、やはり話の脈絡で多くなったり、少なくなったりする。	

参考文献：随時紹介する。

評価方法：受講者の人数によって考える。因みに、常に多人数であった昨年までは、(提出課題、試験等)後期試験１回きりであった。

自然科学概論

担当者：遠藤　信　　研究室：［７２４］

講義の目標

現代の自然科学、特に現代物理学の諸概念が、人間の精神活動にどのような影響をおよぼしたか、またそれがいかに芸術表現に反映されているか、そして現代の自然科学は物質や宇宙をここまで解明しているということを、生々しく、定性的に、または感性的にでも解ってもらうことがこの講義の目標である。

授業で特に留意する点は、できるだけ数式を使わない。講義の進行と並行してビデオを観る。

物質の究極像

第１週

　　根元物質をめぐる先人達の考え

第２週

　　原子とその構造

第３～第４週

　　量子の世界

第５週

　　素粒子

第６～第８週

　　Quark の登場

　　Quark とLepton

　　物質の究極の要素は何か

第９～第11週

　　自然界の力

　　力の統一

第12週

　　まとめ

相対論

第13週

　　光とエーテル

第14週

　　光速度の測定

第15～第17週

Newton力学とgalileo 変換

運動の法則の不変性，速度の変換則

Maxwell の電磁気学

光の伝* 速度が一定，Galilei 変換との矛盾

第18～第20週

Michelson とMorleyの実験

光速度不変とLorentz 変換

長さの短縮，時計の遅れ

第21～第22週

特殊相対性理論

第23～第24週

宇宙のはじまり

相転移

第25週

まとめ

自然科学概論

担当者：福井　尚生　　研究室：［７０２］

テキスト：『地球外文明の思想史』　横尾広光　著　　恒星社厚生閣

目　　標：宇宙は広い。我々はその自然の単なる一員である。その我々が培って来た知識は果たして宇宙全体に通用する普遍的な財産なのだろうか。地球外文明を探す努力を通じて何が本質か、何があれば自然全体が調和して存在出来るかを考える。

年間予定

	週	内　　容
前期	1	
	2	
	3	
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	
備考		

	週	内　　容
後期	1	
	2	
	3	
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	
備考		

評価方法：原則として、演習とリポートに依る。
（提出課題、試験等）

コンピュータ概論

担 当 者：前田　功雄・高柳　敏子・東　孝博　　研究室：[830][873][727]
テキスト：文書・その他必要な資料を配布
目　　標：本講義は、コンピュータの初心者のためのコンピュータリテラシー教育を目的とする。以降の大学生活で必要な情報利・活用のための基本を習得する。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	受講者の決定と講義のガイダンス
	2	コンピュータに触れる・Windows 入門
	3	キーボードとタイピング
	4	ワープロ入門――文書の編集(1)
	5	〃　(2)
	6	〃　(3)
	7	〃　(4)
	8	ワープロ入門――文書の印刷
	9	表組みからグラフを作成する（表計算入門）(1)
	10	〃　(2)
	11	グラフを文書に貼り付ける
	12	課題
備考		

	週	内　　容
後期	1	表計算の応用(1)
	2	〃　(2)
	3	〃　(3)
	4	データベースの取扱い(1)
	5	〃　(2)
	6	〃　(3)
	7	データベースの検索利用
	8	パソコン通信のデモンストレーション
	9	ＢＩＴＮＥＴ(1)
	10	〃　(2)
	11	〃　(3)
	12	課題
備考		

参考文献：随時紹介する。

評価方法：成績評価は、前期・後期の総合テストと前期・後期それぞれ２～３回の課題(提出課題、試験等)レポート、および出席を加味して評価する。

保健体育講義1

医療人類学的視点から（試論）　半期完結（前・後期）

担 当 者：伊藤　弘人

テキスト：G.M フォスター、B.G アンダーソン（中川米造監訳）『医療人類学』リブロポート　1987

目　　標：本講義では、保健・医療を幅広い視点から捉えるために、精神衛生学や医療人類学的知見をまじえながら、討論と講義を行う。進行の流れで前後するが、内容は以下の通りである。

予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前・後期	1	講義概要
	2	Orientation 1. 病因論と疾病分類：医療人類学的知見をふまえて。
	3	Orientation 2. 治療技術論：進歩することと、変らないこと。
	4	Orientation 3. 保健医療関係者：治療者と患者。
	5	死について（1）：「死」、家族の死、そして自分の死。
	6	死について（2）：死にまつわること。
	7	病について（1）：その意味。
	8	病について（2）：動機づけとプライバシー。
	9	文化と保健医療（1）：文化結合症候群から。
	10	文化と保健医療（2）：シャマニズムと信仰治療。
	11	自分にとっての保健医療（1）：保健医療をどう考えるか。
	12	自分にとっての保健医療（2）：まとめ。
備考		

評価方法：評価はレポートと講義への貢献度によって決定する。なお、レポート提出日は最終回の講義終了時である。

保健体育講義1

半期完結（前・後期）

担 当 者：久松　一恵　　研究室：［704］

テキスト：なし

目　　標：健康が作られたり、壊される所は家庭、学校、職場、地域そして地球規模の社会においてである。本講義では高度化する科学技術文明の陰で増加している心身の健康障害とその予防対策について、基本的な考え方を検討する。

予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前・後期	1	健康学(HEALTH SCHIENCES)の構成。保健医療活動の展開。
	2	健康に関連する概念　1）健康について。健康づくりの実践。
	3	2）不健康（不調、虚弱）。3）疾病。4）障害。5）リハビリテーション 6）死亡について。
	4	感染症の予防と対策の原則。HIV 感染症（エイズ）の予防と問題点。
	5	食中毒の予防。安全な飲料水。
	6	化学物質と健康障害　1）毒性と安全性
	7	2）その実際（嗜好品、食品添加物、医薬品、農薬、汚染物質等）
	8	成人病の早期発見と予防。老人保健の問題点。
	9	心の健康。
	10	心の不健康。
	11	精神障害の予防と対策。
	12	講義のまとめ。
備考	1時限ほど予定が後にずれることがあるかもしれない。 参考文献：厚生統計協会編集・発行『国民衛生の動向』（厚生の指標、臨時増刊号）	

評価方法：課題に応じて参考書を紹介し、プリントを配布する。

(提出課題、試験等)評価は授業への出席状況、及び学期末の定期試験（論文形式）による。

保健体育講義２

生涯体育と運動処方　半期完結（前・後期）

担 当 者：青柳　多恵子　　研究室：［７２３］

テキスト：

目　　標：現代の文明の発達が人間の生活環境や、健康にとって極めて危険な状態にある事と、真の健康の意味を正しく把握し、生涯を通じて個々の事態に応じた運動処方の基本を学び、実践する事を目的とする。

予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前・後期	1	機械文明の身体に及ぼす功罪について、考察していく。
	2	運動不足と疾病について。
	3	健康との関係から見た体力について。
	4	体力の実態とその問題点。
	5	平均寿命の延長と体力科学について。
	6	文明の進展と人間の幸福について。
	7	身体運動と体力：その効果について。
	8	年齢に応じた運動について。
	9	スポーツとその運動強度。
	10	エネルギー代謝率から見た運動強度。
	11	心泊数からみた運動強度。
	12	全期のまとめ。個人に合った健康を維持する為の運動とその処方について。
備考	評価：出席の結果とレポートの評価による。	

保健体育講義２

半期完結（前・後期）

担 当 者：梶野　克之　　研究室：［７２１］

テキスト：プリント配布

目　　標：生涯を通じての健康のためには、年齢・体力に応じた身体活動の実践が重要である。これまでの体育・スポーツに関する情報を理解したうえで実践に結びつけることで、健康で有意義な社会生活を送るための基礎的理論を身につけることを目的としたい。

予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前・後期	1	講義概要の説明と現代社会とスポーツについて：現代社会の特質に伴う体力の必要性、スポーツに対する考え方の変化などを解説する。
	2	前回に引き続き、生活の中のスポーツの現状と問題点を探り、生活の質をめぐってこれからの課題を考える。
	3	体育の心理について：発達の意義・発達段階や身体的機能・運動能力の発達などをとうして理解する。
	4	前回に引き続き、体育における運動学習について考える。学習の意義・運動技能の能率化・練習の効果などを理解する。
	5	前回に引き続き、体育における集団の心理について考える。集団の形成・構造さらに集団の機能について理解する。
	6	運動の生理について：運動と呼吸について、酸素摂取量やエネルギー代謝率などから考え、運動と循環について理解する。
	7	前回に引き続き、運動と筋肉について、筋収縮のメカニズムやエネルギー源などから考え、運動と神経系について理解する。
	8	前回に引き続き、運動と疲労について、疲労の概念を理解し原因に対する諸説を理解する。運動と障害・救急処置について考える。
	9	体力とトレーニング：体力の概念を理解し、学生の体格・体力について理解し体力診断の意義や方法について理解する。
	10	前回に引き続き、体力づくりのトレーニングについて、その定義について考え定義を理解し、トレーニングの一般的な原則について考える。
	11	前回に引き続き、体力づくりのトレーニングの具体的な方法として、ウェイトトレーニング、サーキット・トレーニングについて考える。
	12	前回に引き続き、インターバル・トレーニングその他のトレーニングについて考え、定期試験の範囲と傾向の発表を行う。
備考	参考文献：「現代社会とスポーツ」「大学性の体育と保健」	

評価方法：授業への参加態度、出席回数、定期試験の成績を加味して決定する。

保健体育講義２

半期完結（前・後期）

担 当 者：松原　裕　　研究室：［７１４］

テキスト：運動文化と体育　多和健雄編著　共栄出版

目　　標：一人一人が正しい健康観をもち、同時にスポーツや体操やダンスなどの運動の文化的意義を理解するとともに、運動と衛生を具体的に実践することを目標とする。社会人になっても、明るく健やかに過ごす大切さを考えて欲しい。

予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前・後期	1	オリエンテーション ○個人票の作成（写真添付）　○授業実施上の諸注意
	2	健康と運動・健康と疲労
	3	健康と栄養・健康と疾病予防
	4	酒・タバコ・クスリ
	5	腰痛と姿勢の基礎
	6	女性とスポーツ・余暇とスポーツ
	7	オリンピック競技・ワールドカップ競技
	8	スポーツとフェアプレー・スポーツと紳士的行為
	9	運動技能と大脳生理学
	10	古代・中世・近世の体育
	11	近代・現代・日本の体育
	12	テスト
備考	評価方法：学内授業の毎時間の出欠席、受講態度、レポート、発表などを総合して評価する。テストだけでは評価しないので注意する事。	

参考文献：　特にはなし

硬式テニス

担 当 者：田中　茂宏
テキスト：なし
目　　標：技能的には、ファオ・バックの両ストロークを中心にラリーが続けられる様になり、ゲーム形式の練習時にゲームの進め方、ルールを学びながら技能の向上をねらう。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	授業登録の確認と授業内容の説明、個人の資料作成
	2	準備体操各種と実施上の注意。用具の準備の仕方と片付け方 ストロークを中心にボレー等を練習し、ラリーの連続を行う。
	3	準備体操を毎回実施する。 シングルスの簡易ゲームを実施し、能力別のグループ作成。
	4	上記に同じ
	5	上記に同じ
	6	能力別グループの中でシングルスゲーム。審判法について習得する。 グループ内でリーグ戦形式、初心者は基礎練習をしてからゲームへ移行する。
	7	上記に同じ　ランキングを発表する。
	8	上記に同じ
	9	上記に同じ
	10	上級者と初級者のペアーを作り、ダブルスゲームを行い、試合の進め方を習得する。
	11	上記に同じ
	12	全員によるシングルストーナメントを実施する。
備考	出欠点呼を毎回実施する。遅刻は認めない（やむを得ない場合を除く）。クレーのニスコートを使用するのでテニスシューズを持参（他のシューズは認めない）。	

	週	内　　容
後期	1	夏休み明けなので、準備体操（特にストレッチ体操、基本練習）を入念に行う 能力別シングルスの実施。
	2	上記に同じ
	3	上記に同じ
	4	能力別グループの中でダブルスゲームを実施する。ゲームの中で作戦等の戦術的要素を取り入れる。ランキングを発表する。
	5	上記に同じ
	6	上記に同じ
	7	グループを編成し、グループ対抗のゲームを実施する。
	8	上記に同じ
	9	上記に同じ
	10	全員によるダブルストーナメント開催。 パートナー、ドローは抽選にて決定する。
	11	全員によるシングルストーナメント開催。
	12	上記に同じ 全授業の反省と将来の運動の仕方について。
備考	授業実施場所の変更等は３棟体育掲示板で行う。	

評価方法：出欠点を中心として平素の授業態度、技能の向上を加味して実施する。
やむを得ない事由の欠席の場合はできるだけ早く口頭で届け出て指示を受けること。

硬式テニス

担 当 者：中沢　克江

テキスト：

目　　標：この硬式テニスの授業では、ボールを打ち合うことによって、体を動かし、楽しむことを目的とします。テニスはチームプレーではありませんが、この授業では、授業の中でのチームワークを養いたいと思います。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	授業概要の説明と受講にあたっての諸注意。
	2	グラウンドストロークの練習（ラケットの握り方と身体の使い方）。
	3	グラウンドストロークの練習（ショーとラリー、ハーフラリー、ロングラリー）。
	4	グラウンドストロークの練習（ラリー）。サービスの導入。
	5	簡易ゲーム（ルールの説明）。
	6	サービスの練習。グラウンドストロークの練習（ラリー）。
	7	ボレーの導入。グラウンドストロークとボレーの練習。
	8	ゲーム形式練習：ダブルス（ルール説明、試合の進め方の説明）。
	9	グラウンドストローク、ボレー、サービスの練習（連係）。 ゲーム形式練習：ダブルス
	10	ゲーム形式練習：ダブルス
	11	ゲーム形式練習：ダブルス
	12	ゲーム形式練習：ダブルス
備考	授業の進行状況により、変更の場合もある。	

	週	内　　容
後期	1	グラウンドストロークの練習。ボレーの練習。サービスの練習。
	2	1週目と同じ。
	3	ゲーム：ダブルスリーグ戦（技術レベル別）
	4	ゲーム：ダブルスリーグ戦（技術レベル別）
	5	ゲーム：ダブルスリーグ戦（技術レベル別）
	6	ゲーム：ダブルスリーグ戦（技術レベル別）
	7	ゲーム：ダブルス
	8	ゲーム：ダブルス
	9	ゲーム：ダブルス
	10	ゲーム：ダブルス
	11	ゲーム：ダブルス
	12	ゲーム。　評価を行う。
備考	後期はゲーム中心ではあるが、ストローク等の練習も随時行う。 ゲームは、シングルスを行うこともある。	

評価方法：出席、態度、技術等から評価する。

(提出課題、試験等)出席状況、参加態度、課題の理解度、技術を評価する。

硬式テニス

担 当 者：檜山　康

テキスト：

目　　標：本授業では、テニスについての基本的な知識、技術等を学び、テニスの楽しさを知ることを目標とする。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	１年間の内容と授業上の注意点についてオリエンテーションを行う。また経験別にグループ分けも行う。
	2	ラケットとボールに慣れる。 グリップの方法とボールの打ち方について。
	3	ボレーと構え方について学ぶ。 フォアハンドボレー、バックハンドボレー、フットワークについて。
	4	グランドストロークの方法について学ぶ。 フォアハンドストロークとフットワークについて。
	5	４週目の課題について更に学ぶ。
	6	グランドストロークの方法について学ぶ。 バックハンドストロークとフットワークについて。
	7	６週目の課題について更に学ぶ。
	8	フォアハンドストロークとバックハンドストロークを組み合わせてラリーを続けられるようにする。
	9	サービスの方法について学ぶ。 フラットサービスについて。
	10	ダブルスのゲームについて学ぶ。 ルール、審判法について。
	11	ダブルスのゲームを行う。 ペアの決定と役割分担の方法、位置どりの方法。
	12	１１週目の課題について更に学ぶ。
備考		

	週	内　　容
後期	1	グランドストロークの練習① フォアハンドドライブ、バックハンドドライブ。
	2	グランドストロークの練習② バックハンドスライス、ロブ。
	3	ネットへ出る練習① フォア、バックの攻撃的ストロークとボレー
	4	ネットへ出る練習② サーブアンドボレー、レシーブアンドボレーなど。
	5	ネットプレーの練習。 ネットプレーの戦術と動き。
	6	ダブルスプレーの練習。 ダブルスプレーの戦術と動き。チームプレーについて。
	7	ダブルスのゲーム（リーグ戦）①
	8	ダブルスのゲーム（リーグ戦）②
	9	ダブルスのゲーム（リーグ戦）③
	10	ダブルスのゲーム（リーグ戦）④ 新しいペアで行う。特に能力の違う者同志でペアを組む。
	11	ダブルスのゲーム（リーグ戦）⑤
	12	ダブルスのゲーム（リーグ戦）⑥
備考	上記の予定は、天候によって変化する。雨天の場合は、教室において講義もあり得る。	

評価方法：（提出課題、試験等）　評価は、出欠と授業態度、さらに授業内容についてのレポートによって評価する。通学の授業については、必ずテニス・シューズを着用のこと。

硬式テニス

担 当 者：和気　秀文

テキスト：

目　　標：主として日常生活における運動不足の解消と成人病予防のために、生涯を通して運動（テニス）に親しんでもらう能力と態度を身につける。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	オリエンテーション（種目の選択、授業に関する注意事項等）。
	2	テニスによる障害（肉離れ、テニス肘等）予防と競技力向上を目的としたストレッチ等の具体的方法について学習する。
	3	初心者はグリップの握り方とボールに慣れるための練習（ボールつきなど）を行う。経験者はグランドストロークの練習を中心に行う。
	4	初心者はグランドストロークの練習を、経験者は主としてﾎﾞﾚｰ の練習を行う。
	5	初心者はグランドストロークとボレーの練習を、経験者はサーブ、スマッシュの練習を中心に行う。
	6	初心者、経験者に分け、６～８人のグループをつくる。そしてグループごとにストロークやボレーの練習を行う。
	7	上記に同じ。また、特に経験者のグループは、サーブ、スマッシュゃアプローチショット、ボレーの組み合わせなど実践的な練習を中心に行う。
	8	上記に同じ。また、同じグループ内でダブルスのゲームを行う。その際、ゲームの進め方、審判の仕方も学習する。
	9	上記に同じ。
	10	上記に同じ。
	11	上記に同じ。
	12	グランドストローク、ボレーおよびルールについて簡単な試験を行う。
備考	雨天時には、トレーニングルームにて、運動生理学的根拠による運動不足解消や健康のため（減量、成人病予防含む）の運動処方について学習する。	

	週	内　　容
後期	1	前期に学んだ各技術の復習を行う。
	2	初心者と経験者を合わせてグループ分けをし、同じグループ内でダブルスのゲームを行い、お互いの実力を確認しあう。
	3	グループごとの対抗戦（ダブルス、４～６ゲーム先取の１セットマッチ）を行う。
	4	上記に同じ。
	5	〃
	6	〃
	7	〃
	8	〃
	9	〃
	10	〃
	11	〃
	12	サービスと試合を通して実践的技術の試験を行う。
備考	雨天時には、３棟にて、テニスに関するビデオを見る。（試合に勝つための戦略など）	

評価方法：評価は前後期各１回の試験（実技、筆記試験）と授業への貢献度によって決(提出課題、試験等)定するが、特に、後者に比重を置く。

硬式テニス１（経験者対象）

担 当 者：小俣　充　　研究室：［７３５］

テキスト：

目　　標：ボレーを主にした基礎技術の徹底練習によりテニスをより面白くする。相互に研究し集中することによって仲間意識を育む。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	ストロークとボレーの反復練習。コミュニケーションタイムを設けて授業の目的を説明し、教師と受講生および受講生相互のコミュニケーションを図る。
	2	ストレートとクロスのストローク。ボレー対ボレー。ボレーのビデオ撮影。コミュニケーションタイム。
	3	上に同じ。グループ分けとリーダー選出。
	4	ストレートとクロスのストローク。ボレー対ボレー。［コンチネンタル・グリップ・ラケットを立てる］ことの反復練習。コミュニケーションタイム。
	5	ストレートとクロスのストローク。ボレー対ボレーとストローク対ボレーで上の反復練習。コミュニケーションタイム。
	6	ストレートとクロスのストローク。ボレー対ボレー。［上体を起こす・スプリットジャンプ］の反復練習。コミュニケーションタイム。
	7	ストレートとクロスのストローク。ボレー対ボレーとストローク対ボレーで上の反復練習。コミュニケーションタイム。
	8	ストレートとクロスのストローク。ボレー対ボレー。［左右の腰の角］の使い方の反復練習。コミュニケーションタイム。
	9	ストレートとクロスのストローク。ボレー対ボレーとストローク対ボレーで上の反復練習。コミュニケーションタイム。
	10	ストレートとクロスのストローク。ボレー対ボレー。［踏み込み足］の使い方の反復練習。コミュニケーションタイム。
	11	ストレートとクロスのストローク。ボレー対ボレーとストローク対ボレーで上の反復練習。コミュニケーションタイム。
	12	ボレーを積極的に使うことを原則にしたゲーム。テニスの面白さの満足度の確認を主としたコミュニケーションタイム。
備考		

	週	内　　容
後期	1	ストローク。ボレー対ストローク。夏期休業中のスポーツ・リクリエーション活動実態調査。コミュニケーションタイム。
	2	［コンチネンタル・グリップ・ラケットを立てる・上体を起こす・スプリットジャンプ］の反復練習。コミュニケーションタイム。
	3	ストローク。ボレー対ボレーとストローク対ボレー。［左右の腰の角・踏み込み足］の使い方の反復練習。コミュニケーションタイム。
	4	ストローク対ボレーで［ラケットの振り］の鋭さと［ブロック感覚での打点を掴む］ことの反復練習。コミュニケーションタイム。
	5	上に同じ。
	6	サーブから始めるストローク対ボレーで、［立つ位置と打つ方向との関係の原則］を前提にしたボレーの反復練習。コミュニケーションタイム。
	7	上に同じ。
	8	サーブから始めるストローク対ボレーで、サーブが入った位置と返球との関係（どこを狙ってくるか）を予測したボレー。コミュニケーションタイム。
	9	上に同じ。
	10	ゲーム。（シングルス）形式で上と同じプレーを原則にしたポイント争い。コミュニケーションタイム。
	11	ゲーム。（ダブルス）形式で上と同じプレーを原則にしたポイント争い。コミュニケーションタイム。
	12	レクリエーションゲーム。授業と担当教員への評価を主とするコミュニケーションタイム。
備考		

参考文献：日本プロテニス協会編：ベスト・テクニック・テニス，学習研究社

評価方法：出席回数をベースにし、自らがテニス（授業）にどれほど集中したか、他の(提出課題、試験等)集中にどれほど協力したかにより評価。

硬式テニス２（経験者対象）

担 当 者：小俣　充　　研究室：［７３５］

テキスト：

目　　標：ストロークを主にした基礎技術の徹底練習によりテニスをより面白くする。
相互に研究し集中することによって仲間意識を育む。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	ストロークとボレーの反復練習。コミュニケーションタイムを設けて授業の目的を説明し、教師と受講生および受講生相互のコミュニケーションを図る。
	2	ストレートとクロスのストローク。ボレー対ボレー。ストロークのビデオ撮影。コミュニケーションタイム。
	3	上に同じ。グループ分けとリーダー選出。
	4	ボレー対ボレー。ストレートとクロスのストローク。個々のストロークの打ち方とそのポイント（打点）の確認。コミュニケーションタイム。
	5	上に同じ。
	6	ボレー対ボレー。ストレートとクロスのストローク。［上体を起こす・スプリットジャンプ］の反復練習。コミュニケーションタイム。
	7	上に同じ。
	8	ボレー対ボレー。ストレートとクロスのストローク。［左右の腰の角］の使い方の反復練習。コミュニケーションタイム。
	9	上に同じ。
	10	ボレー対ボレー。ストレートとクロスのストローク。ボールの高さに対応し［踏み込み足］の使い方の反復練習。コミュニケーションタイム。
	11	上に同じ。
	12	ストロークでポイントとることを中心にしたゲーム。テニスの面白さの満足度の確認を主としたコミュニケーションタイム。
備考		

	週	内　　容
後期	1	ストローク。ボレー対ストローク。夏期休業中のスポーツ・リクリエーション活動実態調査。コミュニケーションタイム。
	2	ストレートとクロスのストローク。［打点・上体を起こす・スプリットジャンプ］の反復練習。コミュニケーションタイム。
	3	ボレー対ボレー。ストレートとクロスのストローク。［左右の腰の角・踏み込み足］の使い方の反復練習。コミュニケーションタイム。
	4	ボレー対ボレー。ストレートとクロスのストローク。強打とロブ的な返球の反復練習。コミュニケーションタイム。
	5	上に同じ。
	6	ボレー対ボレー。ストレートとクロスのストローク。ネットにつめることができるストロークとできないストロークの区別。コミュニケーションタイム。
	7	上に同じ。
	8	サーブから始めるストローク対ストロークで、相手を左右に走らせることの反復練習。コミュニケーションタイム。
	9	上に同じ。
	10	ゲーム。（シングルス）形式でストロークでポイントとることを中心としたポイント争い。コミュニケーションタイム。
	11	上に同じ。
	12	レクリエーションゲーム。授業と担当教員への評価を主とするコミュニケーションタイム。
備考		

参考文献：日本プロテニス協会編：ベスト・テクニック・テニス，学習研究社

評価方法：出席回数をベースにし、自らがテニス（授業）にどれほど集中したか、他の(提出課題、試験等)集中にどれほど協力したかにより評価。

ゴ　ル　フ

担 当 者：野口　昭彦

テキスト：　適時資料を配布する

目　　標：　近代社会では、自分の健康は自分で創りあげていくウェルネス（ＷＥＬＬＮＥＳＳ）運動が必要とされている。このことを考慮し、学生時代にゴルフを媒介として運動の基礎を体得し、永い人生に活用できる内容を展開する。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	１年間の履修概要の説明。
	2	基礎知識＝エチケット、服装、クラブ構造と用途について。
	3	前期は基礎技術を中心に行なう＝クラブの握り方、左手、右手の握り方、グリップとクラブフェスの関係について。
	4	スタンス（身体の構え）＝両足と上体の構え、左腕、右腕の構え方、両足とボールの位置関係を中心に行なう。
	5	正しいアドレスの入り方＝ボールの後方から球筋を見る、右手で目標ラインに合せる、飛球線と平行に構える等を中心に行なう。
	6	正しいスイングの基本１＝ワンピーススイング、スイングのスタート、バックスイングのトップ等について行なう。
	7	正しいスイングの基本２＝ダウンスイングの開始、インパクト、フォロースルー等について行なう。
	8	スイングの弧とショットの関係＝スイングの弧とボール位置、円軌道のタイプと飛球方向等について行なう。
	9	タイミングの実際＝ダウンスイングの開始とタイミング、タイミングとリズムの関係を中心に行なう。
	10	ミドルアイアンの練習１＝前回までの学習を踏まえて、プラスチックボールを使用しての練習。
	11	ミドルアイアンの練習２＝確実にヒットすることを目標に。
	12	ミドルアイアンの練習３＝ダウンブロー中心とした打ち込み。
備考		授業の進行状況により、変更の場合もある

	週	内　　容
後期	1	前期授業で行なった練習の復習
	2	ショートアイアン＝目標に対して正確に打つ練習
	3	アプローチショット＝ピッチエンドラン、ランニングアプローチ、ピッチショット等コントロールを必要とする練習を中心に行なう。
	4	ロングアイアン＝苦手意識を捨てる事を中心に行なう。
	5	ドライバー＝構えとボールの位置、アッパーブローに打つ、力きまず、力を抜いて打つ事を中心に行なう。
	6	フェアウェイウッド＝ドライバと同様の練習
	7	パット＝距離と方向の判断を目標に。
	8	応用スイング＝基本スイングを変化させ応用スイングの知識を知る、練習球を使用して、ショートアイアンのコントロールショットの練習を行なう。
	9	ピッチングウェッジとパターを使用してミニコース（3ホール）の練習
	10	9週目と同じ
	11	9週目と同じ
	12	9週目と同じ
備考	降雨等でグラウンドが使用不可能の場合は、教室にてビデオまたは、講義を行なう。授業の進行状況により、変更の場合もある。	

評価方法：　出席を重視するが、履修態度や運動服装等もチェックする、また簡単なテストも行なう。

ゴ　ル　フ

担 当 者：吉田　卓司

テキスト：

目　　標：　ゴルフは、老若男女を問わず容易にできるスポーツであるが、基本的な正しい知識や技術が上達の近道である。ゴルフを通じて、社会性やルールを順守する態度を学び、正しい余暇活動の利用について習得して欲しい。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	オリエンテイション
	2	ゴルフの歴史とゴルフの基本技実についての講義
	3	ショートアイアン（9、PW、SW）のスウィング （グリップ、スタンスの方法を習得する）
	4	（学内でプラスティック　ボールを使用して実施）
	5	（各人のグリップ、スタンス、スウィングについて指導）
	6	
	7	
	8	ゴルフ練習場にて、実習
	9	ショート　アイアン ミ ド ル　アイアン　｝基本的なスウィングと打球
	10	
	11	（反復練習）
	12	
備考		

	週	内　　容
後期	1	ゴルフ練習場にて、実習
	2	アイアン　ショット（3、5、7、9、PW）練習
	3	
	4	1番ウッド、3番ウッド
	5	1W　（ドライバー） 3W　（スプーン）　の打法
	6	アイアン　ショット練習
	7	（ロングアイアン　3、4）
	8	TVビデオを使用して、個人個人のスウィングをチェック指導
	9	
	10	テスト・及び　実習
	11	
	12	
備考		

サッカー

担当者：檜山　康

テキスト：

目　　標：本授業では、サッカーについての基本的な知識、技術等を学び、サッカーの楽しさを知ることを目標とする。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	1年間の内容と授業上の注意点についてオリエンテーションを行う。
	2	様々なゲーム（鬼ごっこやボール遊び）を通してサッカーらしい動きを身につける。
	3	様々なチーム・ゲームを通してサッカーにおける戦術的な動きを学ぶ。 （ボールなしの動き、空き地を利用することなど）
	4	3週目の課題について更に学ぶ。
	5	ドリブルについて学ぶ。方向を変えたり、リズムを変えてドリブルをしよう。
	6	パスについて学ぶ。インサイドキック、インステップキックの方法。ボールの止め方、コントロールの方法など。
	7	ゲームを通して相手を攻めるために有効な方法を学ぶ。 コートを幅広く使うこと、スペースの作り方など。
	8	ゲームを通して相手の攻撃を防ぐ有効な方法を学ぶ。 マーキングの方法、攻撃を遅らせることなど。
	9	班別のリーグ戦① チーム独自の作戦が立てられるようにする。
	10	班別のリーグ戦② 前回のリーグ戦の結果に基づいて練習、ゲームについての作戦を立てる。
	11	班別のリーグ戦③
	12	班別のリーグ戦④
備考		

	週	内　　容
後期	1	シュートの方法について学ぶ。 浮いたボールや様々なボールに対するシュートの方法について。
	2	２対１の攻防について学ぶ。 ドリブルの方法、パスを出すタイミング、ディフェンスの方法など。
	3	３vs３の攻防について学ぶ。 ３人目の動き、スィッチプレーなど。
	4	３vs２の攻防について学ぶ。 基本の３角形とサポートの方法について
	5	３vs３の攻防について学ぶ。 サポートの角度、距離について。
	6	ゲームを通して、チーム戦術を確立できるようにする。 特に今まで行ってきた基本戦術をゲームに応用できるようにする。
	7	６週目の課題について更に学ぶ。 特にコートを幅広く使うことについて。
	8	班別のリーグ戦① ポジションを決定し、それに基づく役割を認識できるようにする。
	9	班別のリーグ戦② 前回の反省に基づくチーム戦術を立てられるようにする。
	10	班別のリーグ戦③ 前回の反省に基づくチーム戦術を立てられるようにする。
	11	リーグの結果に基づいてトーナメント戦を行う。 フル・コートでのゲーム。
	12	トーナメント戦 フル・コートでのゲーム。
備考	上記の予定は天候により変化する。雨天の場合は、教室での講義もあり得る。	

評価方法：（提出課題、試験等）　評価は、出欠と授業態度、さらに授業内容についてのレポートによって決定する。

スパイク・シューズについては固定式のシューズのみ着用してよい。

サッカー

担当者：松本　光弘

テキスト：

目　　標：　ゲームを中心に、サッカーの技能、サッカーの戦術、体力向上をはかることを主な目標とする。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	種目分け、オリエンテーション
	2	サッカー技術の構造の理解、ウォーミングアップの仕方、各種測定
	3	サッカー技術（ドリブル系）の練習、ゲーム
	4	サッカー技術（キック系）の練習、ゲーム
	5	サッカー技術（コントロール系）の練習、ゲーム
	6	サッカーの個人戦術（攻撃）、ゲーム
	7	サッカーの個人戦術（攻撃）、ゲーム
	8	サッカーの個人戦術（守備）、ゲーム
	9	サッカーの個人戦術（守備）、ゲーム
	10	サッカーのグループ戦術（攻撃）、ゲーム
	11	サッカーのグループ戦術（攻撃）、ゲーム
	12	サッカーのグループ戦術（攻撃）、ゲーム
備考		

	週	内　　容
後期	1	サッカーのグループ戦術（守備）、ゲーム
	2	サッカーのグループ戦術（守備）、ゲーム
	3	サッカーのグループ戦術（守備）、ゲーム
	4	リスタート・プレー（攻撃）、ゲーム
	5	リスタート・プレー（守備）、ゲーム
	6	複合練習、ゲーム
	7	複合練習、ゲーム
	8	複合練習、ゲーム
	9	ゲーム
	10	ゲーム
	11	ゲーム
	12	ゲーム、評価
備考		

評価方法：　出席回数、参加態度、技能の理解度等をもって評価する。
（提出課題、試験等）

サッカー

担当者：山中　邦夫
テキスト：なし
目　　標：サッカー技能の向上と、サッカーゲームの楽しさを知る。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	授業登録の確認と授業内容の説明および個人資料の作成
	2	個人スキルとミニゲーム（8対8） ドリブル、シュートおよびボールコントロール
	3	〃　〃　〃（8対8） トラッピング、パス、ボールコントロール
	4	〃　〃　〃（5対5） ヘディング、シュート、ボールコントロール
	5	〃　〃　〃（5対5） 1対1ボールキャップ、1対1シュート、ボールコントロール
	6	グループスキルとミニゲーム（8対8） 2対1および2対2のボールキープ、キックまたはシュート
	7	〃　〃　〃（8対8） 3対1および4対2のボールキープ、キックまたはシュート
	8	〃　〃　〃（8対8） フェイント動作、ボールコントロールおよび6対3ボールキープ
	9	チームスキルと正規のゲーム（11対11） フォーメーション、システムを考えたゲーム展開を身につける。
	10	〃　〃　〃（11対11） コーナーキック、ゴール前でのフリーキックの攻防のし方
	11	〃　〃　〃（11対11） 審判法について説明し、実習する。
	12	前期のまとめ。トーナメント形式の試合（5対5）の運営を実習する。
備考		毎回、出欠点呼を実施する。授業はサッカー場で行う。

	週	内　　容
後期	1	運動能力の測定とミニゲーム。長期休暇後の各自の体力レベルをチェックし、前期の反省と後期の展開についてオリテー。
	2	個人技能の向上とミニゲーム（8対8） 各種のキックおよびトラッピング、ヘディング。
	3	上記に同じ。
	4	グループスキルの向上とミニゲーム（5対5） スリーゴール・ゲーム、フォーゴール・ゲーム
	5	〃　〃　〃　（9対9） ショルダーリング、タックルなどディフェスの方法について。
	6	〃　〃　〃　（8対8） ゾーンディフェンスとマンツーマンディフェンス、カバーリング。
	7	〃　〃　〃 壁パス、スクリーンプレーなどの攻撃コンビネーション
	8	〃　〃　〃
	9	チームスキルの向上とゲーム（11対11） サイドチェンジ、オープン攻撃と中央突破の攻撃について。
	10	〃　〃　〃　（8対8～11対11） 攻撃方向の限定とバックラインの維持に関する守備技能。
	11	〃　〃　〃　（6対6～11対11） リーグ戦形式の試合の運営を実習する。
	12	各種測定と評価
備考		

評価方法：　評価は出席点を中心にし、技能および態度点を加味する。
（提出課題、試験等）

サッカー

担当者：和気　秀文

テキスト：

目　　標：主として日常生活における運動不足の解消と成人病予防のために、生涯を通して運動（サッカー）に親しんでもらう能力と態度を身につける。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	オリエンテーション（種目の選択、授業に関する注意事項等）。
	2	主として、サッカーによる障害予防や競技力向上を目的とした準備運動、ストレッチ等の具体的方法について学習する。
	3	個人的技術の向上を目的とし、各種キック、ヘッディング、ドリブルの練習を行う。
	4	個人的技術の向上を目的とし、主としてドリブル、シュート、およびボールキープ（１対１など）の練習を行う。
	5	個人的技術の向上を目的とし、上記の練習に加え、フェイント、トラッピングの練習を行う。
	6	集団的（攻防の）技術の向上を目的とし、フリーゾーンへのパスとドリブルの練習（３対１、２対１のハーフマッチ等）を行う。
	7	集団的技術の向上を目的とし、インターセプトを主とするマンツーマンの防御の練習（３対２のハーフマッチ、３対３のゲーム等）を行う。
	8	個人的、集団的技術の向上と、ゲームの進め方、審判の仕方（ファウルの学習も含む）を学習するために７～８人制のゲームを行う。
	9	上記に同じ
	10	上記に同じ
	11	上記に同じ
	12	個人的技術とルールについて簡単な試験を行う。
備考	雨天時には、トレーニングルームにて、運動生理学的根拠による運動不足解消や健康のため（減量、成人病予防含む）の運動処方について学習する。	

	週	内　　容
後期	1	前期に学んだ各技術の復習を行う。
	2	集団的技術の向上を目的とし、ドリブルと三角パスによる攻撃、ワンサイドカットを用いたマンツーマン防御練習、および８人制のゲームを行う。
	3	スルーパスやセンターリングを主として使った攻撃と味方のカバーを使ったマンツーマン防御の練習を含めた11人制のゲームを行う。
	4	上記と同じ。またゲームを通し、オフサイドについて学習する。
	5	上記と同じ
	6	〃
	7	〃
	8	〃
	9	〃
	10	〃
	11	〃
	12	ゲームを通し、集団的技術に関する簡単な試験を行う。
備考	雨天時には、３棟にて、サッカーに関するビデオを見る（一流選手のシュートシーンやドリブル、フェイントのテクニックなど）。	

評価方法：評価は前後期各１回の試験（実技、筆記試験）と授業への貢献度によって決(提出課題、試験等)定するが、特に後者に比重を置く。

S．テニス・M．サッカー

担 当 者：小川　又八朗

テキスト：ナシ

目　　標：Sテニスの楽しさや練習方法を理解して、生涯を通じてテニスに親しめる能力と態度を身につける。そのために　ルール　作戦　審判法　エチケット　スポーツマンシップ　健康　安全に対する態度などを習得する。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	オリエンテーション（体育館） 登録の確認と授業内容の説明　個人資料の作成等
	2	グリップ、ラケッティング、短い距離でのラリー、フットワーク、短い距離でのラリー、フォアハンドローク（素振り　その場打ち）。
	3	バックハンドストローク（素振り　その場打ち）短い距離でのフォア対バックのラリー、簡易ゲーム。
	4	フォアハンドストローク（出しボール打ち）ストレートラリー、簡易サーブ、簡易ゲーム。
	5	上記と同じ。
	6	バックハンドストローク（素振り　その場打ち　出しボール打ち）短い距離でのフォア対バックのラリー。簡易ゲーム。
	7	ストレートラリー、サービス（素振り　スピンのかけかた）、 サービス（素振り ｽﾋﾟﾝのかけかた）、ストローク（ｸﾛｽのうち方）簡易ゲーム。
	8	上記と同じ。
	9	ボレー（素振り　ボレー＆キャッチ　出しボール打ち）サーブ＆レシーブからのクロスラー。
	10	1対1ゲーム。
	11	上記と同じ。
	12	ダブルス対抗戦。 ゲームの攻防を通して攻撃及び守備の貢献度をテストする。
備考	授業実施場所、陸上競技場　フィルド競技場。 雨天の場合教室於てルール及びゲームをビデオで見て技術、戦術の学習をする。	

テキスト：ナシ

目　　標：ミニサッカーの特性や、技術、戦術の基礎をゲームを通して学習する。

	週	内　　容
後期	1	オリエンテーション（教室）。 授業内容の説明。
	2	パス、ドリブル、トラピング、シュート、ヘデイン等。
	3	上記と同じ。
	4	スローイング、トラッピング、ドリブル、シュート、簡易ゲーム。
	5	上記と同じ。
	6	一般的グルプ戦術、２対２、３対３試合　形式の学習。 自由な動き、短いパス、長いパス。
	7	上記と同じ。
	8	審判　ルールについて説明。 ゲーム（リーグ戦）。
	9	上記と同じ。
	10	上記と同じ。
	11	上記と同じ。
	12	上記と同じ。 ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする。
備考	ミニサッカー　コートは、ハンドボールコートを利用しハンドボール、サッカーを組合せたルールでゲームを展開する様研究中です。	

評価方法：出席点を中心に評価し授業態度、技能の進歩など加味する。

(提出課題、試験等)欠席時数７回以上の者については評価の対象としない。

交通機関　及び　体調等やむを得ない事由以外の遅刻は認めない。

ソーシャルダンス

担 当 者：青柳　多恵子　　研究室：［７２３］

テキスト：毎回プリントを配布

目　　標：社交ダンスの初歩的な歩行から行う。ワルツ・タンゴ・ルンバ・サンバ・等の技術的な事と同時に踊る事に必要な体力を養成します。音楽にのって楽しく、歩ける人なら誰でもできる生涯体育の一つです。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	ダンスの歴史説明と一年の授業概要と使用する音楽について説明。
	2	歩行練習・ブルースのステップ（クォーターターン）・ワルツのチェンジステップ
	3	復習・ブルースのステップ（コーナチェンジ）・ワルツ（クローズドチェンジ・ナチュラルターン）
	4	音楽に合わせて復習・ＶＴＲ使用
	5	ワルツ（リバースーン）・ラテン系のステップの導入。
	6	ワルツ・ブルース復習・ラテン系ルンバ（スクエァルンバ）
	7	ワルツ・ブルース復習・ルンバ・チャチャチャ
	8	タンゴの音楽とステップ・ルンバ・チャチャチャ
	9	タンゴ（ウォーク・リンク）　ルンバ・チャチャチャ
	10	ＶＴＲ撮影、映写
	11	半期の総復習
	12	半期の総復習
備考	原則として男女同数とする。	

	週	内　　容
後期	1	ステップの総復習のためプリントによる解説
	2	音楽にのるためのステップの解説。ワルツ・チャチャチャ・ブルース・ルンバのステップ練習
	3	ワルツ（チェンジステプ・ナチュラルターン・ウイスク・ナチュラルスピンターン・リバースターン）
	4	ワルツ練習・ルンバ ＶＴＲ
	5	ルンバ（ベーシックステップ・サイドステップ・ターン）ワルツ復習・タンゴ
	6	ルンバ復習・タンゴ（ベーシックウォーク・リンク・クロズドステップ） ワルツ復習
	7	タンゴ復習・ワルツ復習・チャチャチャ復習（ベーシックステップ）
	8	タンゴ復習・ワルツ復習・チャチャチャ復習・ルンバ復習 ジャイブ（ジルバ）・リズムダンス
	9	ジャイブ（ジルバ）・タンゴ復習・ルンバ復習・チャチャチャ復習
	10	ジャイブ（ジルバ）・ワルツ・タンゴ・ルンバ・チャチャチャ
	11	ＶＴＲ・テスト
	12	ＶＴＲ・テスト
備考		

評価方法：（提出課題、試験等）　評価は、出席実績をベースにする。但しワルツ・ルンバをマスターすること。

ソフトボール

担 当 者：池垣　功一

テキスト：

目　　標：正しいソフトボールの理解と、技術を体得するとともに、チームプレーを通して人間性を養う機会とし、さらに、生涯体育の一環として、楽しく実践していく態度を身につける。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	年間スケジュールおよび履修上の諸注意と、ソフトボールの特質、ルール等について説明
	2	キャッチボール（ソフトボールに適したボールの握り方、フォーム） ピッチング（スリングショット投法）
	3	ピッチング（スリングショット投法の復習およびウインドミル投法） トスバッティング
	4	ピッチング（各種投法の復習） ハーフバッティング
	5	守備練習（基本的なゴロと飛球の捕り方） フリーバッティング
	6	守備練習（各ポジションの守備方法） シートノック
	7	ベースランニングおよびスライディングの練習 バント練習（内野手の連けいプレー）
	8	シートノックによる守備練習（ダブルプレーの練習） ゲーム形式のバッティング練習
	9	審判の方法についての説明 チームの編成（1）（ポジション・打順を決める）、練習試合
	10	チーム練習（試合前の、シートノック） 試合　A～B，C～D
	11	チーム練習（トスバッティング） 試合　A～C，B～D
	12	チーム練習（バント） 試合　A～D，B～C
備考		

	週	内　　容
後期	1	前期に学習した内容の総合的練習（1） 審判方法の復習
	2	前期に学習した内容の総合的練習（2） スコアブックのつけ方について説明
	3	チーム再編成（2）（以下、各々試合3回ごとに編成をかえる） 練習試合
	4	チーム練習（毎週、チームごとにテーマを決めて実施する。以下同じ） 試合　E～F，G～H
	5	チーム練習 試合　E～G　F～H
	6	チーム練習 試合　E～H，G～F
	7	チーム編成（3）、チーム練習 試合　I～J，K～L
	8	チーム練習 試合　I～K，K～L
	9	チーム練習 試合　I～K，J～K
	10	チーム編成（4）、チーム練習 試合　M～N，O～P
	11	チーム練習 試合　M～O，N～P
	12	チーム練習 試合　M～P，N～O
備考	前後期とも、雨天時およびグランド・コンディションの悪い時には、教室内でのビデオによる学習または空いている体育施設での実施に切り替えることがある。	

評価方法：評価は体育実技評価規準により、出席点に技能点、総合点（態度・努力・服装等など）を加味して行なう。

ソフトボール

担 当 者：小川　又八朗
テキスト：ナシ
目　　標：ソフトボールの特性や技術構造を理解し、それらを構成する基礎的な体力や技術、戦術などの習得を中心にして、ゲーム展開の方法を高める。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	オリエンテーション（体育館） 登録の確認と授業内容の説明、個人の資料作成等。
	2	ソフトボールの歴史や特性をはじめとしてゲーム構造や基本ルールなどを講義する。球の握り方やキャッチボールなど防御の個人技能を実習する。
	3	バッティングやセーフティーバンドなど攻撃の個人技能を実習する。 ﾋｯﾄｴﾝﾄﾞﾗﾝなど攻撃の集団技能を実習する　簡易ﾙｰﾙ でｹﾞｰﾑ の攻防を実習する。
	4	上記と同じ。
	5	上記と同じ。
	6	投手のﾋﾟｯﾁﾝｸﾞ を中心にした防御の個人技能を実習する。ｺﾛや飛球に対するﾌｨｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞを中心にした防御の個人技能を実習する。簡易ﾙｰﾙ でｹﾞｰﾑ の攻防実習する
	7	上記と同じ
	8	併設や長打のカットオフとリレーなど攻防の集団技能を実習する。球審や塁審の個人技能を実習する。正式なルールでゲームの攻防を実習する。
	9	上記と同じ。
	10	４チームによるリーグ戦　①。
	11	リーグ戦　②。
	12	リーグ戦　③。 前期まとめテスト。
備考	授業実施場所、野球場　ＡＢ。 雨天の場合教室於てルール及びゲームをビデオで見て技術、戦術の学習をする。	

	週	内　　容
後期	1	前期の復習。 簡易ルールでゲームの攻防を実習する。
	2	上記と同じ。
	3	盗塁阻止やランダウンなど攻防の集団技能を実習する。 正式なルールでゲームの攻防を実習する。
	4	上記と同じ。
	5	上記と同じ。
	6	得点圏に走者を置いた攻防の集団技能を実習する。 正式なルールでゲームの攻防を実習する。
	7	上記と同じ。
	8	上記と同じ。
	9	４チームによるリーグ戦　①。
	10	リーグ戦　②。
	11	リーグ戦　③。
	12	ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする。 ルールやセオリー、審判法など知的理解度をテストする。
備考	出席点呼を毎回実施する。	

評価方法：出席点を中心にして評価し授業態度技能の進歩などを加味する。
(提出課題、試験等)欠席時数７回以上の者については評価の対象としない。
交通機関及び体調等やむを得ない事由以外の遅刻は認めない。

ソフトボール

担 当 者：田代　力也　　研究室：［７２２］

テキスト：

目　　標：バッティング、ベースランニング、打球の捕球、送球など攻守に必要な個人的な技能を高め、ゲームができるための組織をかく得する。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	キャッチボール、投げ方、捕り方、グローブの構え方
	2	トスバッティング 左右への打ち分け
	3	フライボールの捕り方 グラウンダーの捕り方
	4	投手の投球法
	5	フリーバッティング センター返し、左右への打ち分け
	6	内野手の捕球と送球
	7	外野手の捕球と送球
	8	バント打法
	9	各種連けいプレイ
	10	ゲーム
	11	ゲーム
	12	ゲーム
備考		

	週	内　　容
後期	1	キャッチボール トスバッティング
	2	フリーバッティング
	3	コースを打ち分けるバッティング
	4	バックアップとベースカバー
	5	バックアップとベースカバー
	6	スクイズプレー
	7	ダブルスチール
	8	ヒットエンドラン バントエンドラン
	9	審判法とルール、実地指導
	10	ゲーム
	11	ゲーム
	12	ゲーム
備考		

ソフトボール

担 当 者：萩野　元祐

テキスト：ナシ

目　　標：基本的練習により、個人技能、集団技能を高め、高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、ソフトボールを楽しむ。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	オリエンテーション（体育館） 登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成など。
	2	ソフトボールの歴史、特性、競技場、基本ルールなどの説明。 個人技能練習、ボールの握り方、キャッチボールの送球、捕球の基本練習。
	3	バッティング、バットの握り方、スタンス、位置、構え方、スイングなどの練習。独自ルールでゲーム実習。
	4	前回までの復習。バンドのグリップ、スタンス、セフティバンドなどの練習。 独自ルールでゲームの実習。
	5	守備における送球、捕球（ゴロ、フライ）練習。 正式なルールでゲームの実習。
	6	投手のボールの握り方と投法練習。球審、塁審の個人技能を実習。 正式なルールでゲーム実習。
	7	集団技能（守備）、ベースカバーを練習。 ４チームによるリーグ戦、（Ａチーム対Ｂチーム、Ｃチーム対Ｄチーム）
	8	集団技能（守備）、バックアップを練習。 リーグ戦、（Ａチーム対Ｃチーム、Ｂチーム対Ｄチーム）
	9	集団技能（守備）、リレープレイを練習。 リーグ戦、（Ａチーム対Ｄチーム、Ｂチーム対Ｃチーム）
	10	前回までの集団技能を復習。 リーグ戦２巡目、（Ａチーム対Ｂチーム、Ｃチーム対Ｄチーム）
	11	集団技能を復習。 リーグ戦、（Ａチーム対Ｃチーム、Ｂチーム対Ｄチーム）
	12	ゲームの攻防を通してテスト。 リーグ戦、（Ａチーム対Ｄチーム、Ｂチーム対Ｃチーム）
備考	授業実施場所　　野球場　Ａ　Ｂ 雨天の場合は教室においてソフトボール・野球関係のビデオを見て学習。	

	週	内　　容
後期	1	前期の復習。 独自ルールでゲームを実施。
	2	上記と同じ。
	3	スクイズプレイの練習。 正式なルールでゲームを実施。（リーグ戦）
	4	バントエンドランの練習。 正式なルールでゲームを実施。
	5	ヒットエンドランの練習。 正式なルールでゲームを実施。
	6	ダブルプレイの練習。 正式なルールでゲームを実施。
	7	後期の内容の復習練習。 ４チームによるリーグ戦、（Ａチーム対Ｂチーム、Ｃチーム対Ｄチーム）
	8	リーグ戦、（Ａチーム対Ｃチーム、Ｂチーム対Ｄチーム）
	9	リーグ戦、（Ａチーム対Ｄチーム、Ｂチーム対Ｃチーム）
	10	リーグ戦２巡目、（Ａチーム対Ｂチーム、Ｃチーム対Ｄチーム）
	11	リーグ戦、（Ａチーム対Ｃチーム、Ｂチーム対Ｄチーム）
	12	ゲームの攻防を通してテスト。 リーグ戦、（Ａチーム対Ｄチーム、Ｂチーム対Ｃチーム）
備考	出席点呼を毎回実施する。	

参考文献：ナシ

評価方法：出席点を基本として評価。授業態度、技能の向上などを加味する。欠席時数（提出課題、試験等）７回以上の者については評価の対象としない。

交通機関及び体調などやむをえない理由以外の遅刻は認めない。

ソフトボール・ミニサッカー

担 当 者：田代　力也　　研究室：［７２２］

目　　標：バッティング、ベースランニング、打球の捕球、送球など攻守に必要な個人的な技能を高め、ゲームができるための組織をかく得する。
ミニサッカーの特性としての、パスゲームを徹底させる。ゲーム展開の分散集中を把握させる。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	キャッチボール、投げ方、捕り方、グローブの構え方
	2	トスバッティング 左右への打ち分け
	3	フライボールの捕り方 グラウンダーの捕り方
	4	投手の投球法
	5	フリーバッティング センター返し、左右への打ち分け
	6	内野手の捕球と送球
	7	外野手の捕球と送球
	8	バント打法
	9	各種連けいプレイ
	10	ゲーム
	11	ゲーム
	12	ゲーム
備考		

	週	内　　容
後期	1	ストレッチングによる身体づくり
	2	ミニサッカーボールの特性 各種キック　インサイドキック　インステップキック
	3	トラッピング ヘディング
	4	ワンツーシュート
	5	パスアンドゴー
	6	１：１の攻守 ２：１の攻守
	7	３：２の攻守
	8	４：１の攻守 ４：２の攻守
	9	審判法、実地練習
	10	ゲーム
	11	ゲーム
	12	ゲーム
備考		

卓　　球

担 当 者：奥野　忠枝

テキスト：

目　　標：　卓球という球技をとおして技術の向上はもとより、ゲームをたのしみながら　ルールや試合方法を学ぶ

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	授業内容の説明と諸注意
	2	競技場と用具について知る　ラケットの種類・持ちかた ミニ試合
	3	ボールの打ち方　フォアハンド　バックハンドの練習
	4	バックハンドの打ち方に力をいれる　ミニ試合
	5	サービスについて　ボールの回転とラケットの動きを練習　ミニ試合
	6	ダブルス競技のルールを学ぶ　ダブルス試合
	7	サービスの練習　ダブルス試合
	8	マナーについて　悪いマナー　良いマナー　ダブルス試合
	9	カットについて　フォアハンドカット・バックハンドカットの練習
	10	ダブルス試合
	11	ダブルス試合
	12	復習
備考		出欠点呼を毎回実施する　授業の進行状況により変更もある

	週	内　　容
後期	1	前期の復習　基本の動き
	2	卓球の歴史とルールを学ぶ　シングルスの練習
	3	シングルスの試合方法　サービスの練習　リターンの練習
	4	カットの復習　シングルス試合
	5	フットワークについて　シングルス試合
	6	基本プレーの練習法　試合
	7	レクリエーションとしての卓球　ラージボールを知る　試合
	8	ダブルス・シングルスにわけての試合
	9	基本プレーの練習と試合
	10	ボールの回転の練習と試合
	11	ダブルス　シングルスにわかれて試合
	12	総復習
備考		

評価方法：　出席・態度（服装）技術から評価する
（提出課題、試験等）

卓　　球

担 当 者：野口　和行

テキスト：

目　　標：ゲーム中心の授業内容を通して、ゲームの進め方、ルール、各種の技術について学ぶ。個人競技ではあるが、５人１組程度のチームを作り、チーム対抗戦を行う中で、チームで卓球を行う楽しさについても触れていく。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	授業登録の確認と授業内容の説明。個人の資料の作成。
	2	準備運動とその実施上の注意。用具の準備と片付けの方法。 サービス、レシーブの練習を中心にしてラリーの連続を行う。
	3	準備運動を毎回実施する。 シングルスの簡易ゲームを実施、能力別のグループ作成。
	4	上記に同じ
	5	能力別のグループ別に正式なシングルスゲーム、審判法を学ぶ。 グループ別に各種技術のワンポイント・アドバイス
	6	能力別のグループ内でリーグ戦を行う。
	7	上記に同じ
	8	上記に同じ
	9	上級者と初級者でペアを作り、ダブルスゲームの進め方について習得する。
	10	ダブルスゲームのリーグ戦を行う。
	11	上記に同じ
	12	上記に同じ
備考	出席点呼を毎回実施する。やむを得ない場合を除き遅刻を認めない。授業は体育館で実施する。	

	週	内　　容
後期	1	全員によるシングルスのトーナメントを行う。初級者にはハンデをつける。
	2	上記に同じ
	3	全員によるダブルスのトーナメントを行う。
	4	上記に同じ
	5	チームの力が平均するように、５人１組程度のチームを編成する。チームごとに練習し、今後の対策を練る。
	6	チーム対抗でシングルス、ダブルスの対抗戦を行う。
	7	上記に同じ
	8	上記に同じ
	9	ロングドライブ、カット、サービス等の技術クリニックを行う。
	10	チーム対抗でシングルス、ダブルスの対抗戦を行う。
	11	上記に同じ
	12	上記に同じ 授業のまとめ
備考	休講の場合は休講掲示板に、その他の変更などは３棟体育掲示板・体育準備室まで	

評価方法：評価は出席点を重視し、平素の授業態度、多少の技能の進歩なども加味して(提出課題、試験等)実施する。欠席時数が７回以上の場合、評価の対象としない。やむを得ない事由で欠席等の場合はできるだけ早く口頭で届け出て指示を受ける。

卓　　球

担 当 者：本田　稔祐　　研究室：［７２９］

テキスト：なし

目　　標：準備体操の仕方やゲームの進め方、ルールなどを勉強し、或る程度の技能の向上を計るとともに、ラリーを続けることにより集中力を養なう。更に楽しくからだを動かす習慣を身につけることにより、生涯健康であることを願う。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	授業登録の確認と授業内容の説明、個人の資料作成。
	2	準備運動各種とその実施上の注意点。用具の準備の仕方と片付け方。 サービス、レシーブの練習を中心にして、ラリーの連続を行う。
	3	準備運動（体操、ストレッチ、柔軟など毎回実施） シングルスの簡易ゲームを実施し、能力別のグループ作成。
	4	上記に同じ。
	5	能力別グループの中で、正式のシングルスゲーム、審判法についても習得する。 グループ内でリーグ戦形式、初心者については基本練習をしてから。
	6	上記に同じ。
	7	上記に同じ。
	8	上級者と初級者のペアーを作り、ダブルスゲームの練習。試合の進め方について習得する。ダブルスのゲームをリーグ戦形式で実施する。
	9	上記に同じ。
	10	上記に同じ。
	11	全員によるシングルストーナメント試合を実施。
	12	上記に同じ。 テストのこと夏休み中のことなどに関する注意など。
備考	出欠点呼を毎回実施する。交通機関の事故など、やむを得ない事由以外の遅刻は認めない。授業は体育館で実施する。	

	週	内　　容
後期	1	能力別シングルスゲームの実施、リーグ戦形式。 ロングドライブ、カット、ショート打ちなどの習得。
	2	上記に同じ。
	3	上記に同じ。
	4	上級、中級、初級それぞれのグループの中でダブルスゲームの実施。 ダブルスゲームの作戦とその動き方について習得する。
	5	上記に同じ。
	6	上記に同じ。
	7	グループを編成し、グループ対抗のゲームを実施する。 グループ対抗リーグ戦。
	8	上記に同じ。
	9	上記に同じ。
	10	上記に同じ。
	11	全員によるダブルストーナメント試合を実施。 パートナーは抽選で決定する。
	12	上記に同じ。 全授業の反省と、将来の運動の仕方などについて。
備考	休講はなるべくしないつもりだが、もしもの場合は休講掲示板に、その他の変更などは３棟体育掲示板に。尚なんでも相談ごとは体育準備室または研究室まで。	

評価方法：評価は出席点を中心として、平素の授業態度、多少の技能の進歩なども加味(提出課題、試験等)して実施する。欠席時数が７回以上の者については評価の対象としない。
やむを得ない事由で、欠席などの場合はできるだけ早く口頭で届け出て指示を受けること。

軟式野球

担 当 者：萩野　元祐

テキスト：ナシ

目　　標：基本的練習により、個人技能、集団技能を高め、高いゲーム展開ができることを目指す。またそのなかで、軟式野球を楽しむことを目標とする。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	オリエンテーション（体育館） 登録の確認と授業内容の説明、個人資料の作成など。
	2	軟式野球の歴史、特性、競技場、基本ルールなどの説明。 個人技能練習、ボールの握り方、キャッチボールの送球、捕球の基本練習。
	3	バッティング、バットの握り方、スタンス、位置、構え方、スイングなどの練習。ゲーム実施。
	4	前回までの復習、バンドのグリップ、スタンス、セフティバンドなどの練習。 ゲーム実施。
	5	守備における送球、捕球（ゴロ、フライ）練習。 ゲーム実施。
	6	投手のボールの握り方と投法練習。 ゲーム実施。
	7	集団技能（守備）、ベースカバーを練習。盗塁、盗塁阻止の練習。 ４チームによるリーグ戦、（Ａチーム対Ｂチーム、Ｃチーム対Ｄチーム）
	8	集団技能（守備）、バックアップを練習。 リーグ戦、（Ａチーム対Ｃチーム、Ｂチーム対Ｄチーム）
	9	集団技能（守備）、リレープレイを練習。 リーグ戦、（Ａチーム対Ｄチーム、Ｂチーム対Ｃチーム）
	10	前回までの集団技能を復習。 リーグ戦２巡目、（Ａチーム対Ｂチーム、Ｃチーム対Ｄチーム）
	11	集団技能を復習。 リーグ戦、（ＡチームＣ対チーム、Ｂチーム対Ｄチーム）
	12	ゲームの攻防を通してテスト。 リーグ戦、（Ａチーム対Ｄチーム、Ｂチーム対Ｃチーム）
備考	授業実施場所　　野球場　Ａ　Ｂ 雨天の場合は教室において野球関係のビデオを見て学習。	

	週	内　　容
後期	1	前期の復習。 ゲームを実施。
	2	上記と同じ。
	3	スクイズプレイの練習。投手、変化球の握り方、投げ方練習。 ゲームを実施。（リーグ戦）
	4	バンドエンドランの練習。 ゲームを実施。
	5	ヒットエンドランの練習。 ゲームを実施。
	6	ダブルプレイの練習。 ゲームを実施。
	7	後期の内容の復習練習。 ４チームによるリーグ戦、（Ａチーム対Ｂチーム、Ｃチーム対Ｄチーム）
	8	リーグ戦、（Ａチーム対Ｃチーム、Ｂチーム対Ｄチーム）
	9	リーグ戦、（Ａチーム対Ｄチーム、Ｂチーム対Ｃチーム）
	10	リーグ戦２巡目、（Ａチーム対Ｂチーム、Ｃチーム対Ｄチーム）
	11	リーグ戦、（ＡチームＣ対チーム、Ｂチーム対Ｄチーム）
	12	ゲームの攻防を通してテスト。 リーグ戦、（Ａチーム対Ｄチーム、Ｂチーム対Ｃチーム）
備考	出席点呼を毎回実施する。	

参考文献：ナシ

評価方法：出席点を基本として評価。授業態度、技能の向上などを加味する。欠席時数（提出課題、試験等）７回以上の者については評価の対象としない。

交通機関及び体調などやむをえない理由以外の遅刻は認めない。

軟式野球

担当者：檜山　康

テキスト：

目　　標：本授業では、軟式野球についての基本的な知識、技術等を学び、軟式野球の楽しさを知ることを目標にする。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	1年間の内容と授業上との注意点についてオリエンテーションを行う。
	2	簡略化したルールで試しのゲームを行う。安全上の注意も行う。
	3	ボールに慣れる。 キャッチボールとトスバッティング。
	4	守備の練習① ゴロの捕球とスローイング、フライの捕球とスローイング。
	5	守備の練習② 内野守備と外野守備における連系プレー。
	6	守備の練習③ バントとその守備。盗塁とその守備。
	7	攻撃の練習① フリーバッティング。バッティングの基礎を学ぶ。
	8	攻撃の練習② ヒットエンドランンの攻撃方法について。
	9	班別の練習ゲーム ルール、審判法について学ぶ。
	10	班別のリーグ戦①
	11	班別のリーグ戦②
	12	班別のリーグ戦③
備考		

	週	内　　容
後期	1	チーム編成を変え、試しのゲームを行う。
	2	守備の練習① ポジション別の具体的な役割を知る。実戦に応じた動き。
	3	守備の練習② ２週目の課題について様々な状況を設定して更に学ぶ。
	4	攻撃の練習① ベースランニングの方法。実践に応じたランニング、スライディング。
	5	攻撃の練習② ４週目の課題について、バッティングと組み合わせて学ぶ。
	6	班別のリーグ戦①
	7	班別のリーグ戦② 前回のリーグの反省を生かして班別に練習、ゲームができるようにする。
	8	班別のリーグ戦③
	9	班別のリーグ戦③
	10	班別のリーグ戦④
	11	班別のトーナメント戦① 授業のまとめとしてトーナメント戦を行う。
	12	班別のトーナメント戦② 決勝戦、３位決定戦を行う。
備考	上記の予定は、天候によって変化する。雨天の場合は、教室において講義もあり得る。	

評価方法：（提出課題、試験等）　評価は、出欠と授業態度、さらに授業内容についてのレポートによって評価する。スパイクシューズは、危険があるので着用してはいけない。

ハンドボール

担 当 者：野口　和行

テキスト：

目　　標：ゲーム中心の授業内容を通して、ゲームの進め方、戦術等について学び、日頃あまりなじみのないハンドボールの楽しさに触れる

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	授業登録の確認と授業内容の確認、個人の資料作成。
	2	準備運動とその実施上の注意。用具の準備と片付けの方法。 パス練習・シュート練習の後、ルールの説明を兼ねた簡易ゲームを行う。
	3	準備運動を毎回実施する。 シュート練習の後、ルールの説明を兼ねた簡易ゲームを行う
	4	シュート練習、１対１・２対２の練習 簡易ゲームを行う。
	5	シュート練習、速攻の練習。 戦術の説明を兼ねた簡易ゲームを行う。
	6	３対３で速攻中心のミニゲーム、戦術の説明を兼ねた簡易ゲームを行う。
	7	上記に同じ
	8	６対６のオフェンス及びディフェンス練習、簡易ゲームを行う。
	9	チームの力が平均するようにチーム編成をし、チーム対抗でゲームを行う。
	10	上記に同じ
	11	上記に同じ
	12	上記に同じ 前期の反省、まとめ
備考	出席点呼を毎回実施する。やむを得ない場合を除き遅刻を認めない。授業は陸上競技場で行う。	

	週	内　　容
後期	1	パス練習、シュート練習及び４対４のミニゲームを行う。
	2	上記に同じ
	3	チーム力が平均するようにチームを編成し、チーム対抗でリーグ戦を行う。 （前期リーグ戦）
	4	上記に同じ
	5	上記に同じ
	6	上記に同じ
	7	正規ルールの確認。６対６で速攻の練習、戦術の説明を兼ねた簡易ゲームを行う。
	8	チーム対抗でリーグ戦を行う。 （後期リーグ戦）
	9	上記に同じ
	10	上記に同じ
	11	上記に同じ
	12	リーグ戦の結果発表。ＭＶＰ、ベスト７の選出 授業のまとめ
備考	授業実施場所の変更等は３棟体育掲示板で指示する。	

評価方法：評価は出席点を重視し、平素の授業態度、多少の技能の進歩なども加味して(提出課題、試験等)実施する。欠席時数が７回以上の場合、評価の対象としない。やむを得ない事由で欠席の場合はできるだけ早く口頭で届け出て指示を受ける。

バスケットボール

担 当 者：太田　朝博

目　　標：バスケットボールの特性や練習方法を理解し、個人的技能や集団的技能を養い、各自の技能程度やチームの力量に応じて、作戦をたてて、ゲームが出来るようにする。練習やゲームを通してチームが相互に協力し合い、望ましい社会的態度の育成を目的とする。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	個人的技能 ［基本技能］①
	2	パス（ショート、ロング） ドリブル（遅攻、速攻）
	3	シュート（あらゆる角度、距離から。ジャンプ、ランニング等） ［基本技能］②
	4	カットインシュート フェイントプレー
	5	ノーマークの所への動き 集団技能
	6	パスワークプレー ワンパス速攻
	7	ディフェンス　マンツーマン ゾーン
	8	簡易ゲーム型式の中で技能を身に
	9	つけていく。
	10	ゲーム　個々の技能を
	11	考えチーム間の 力量の差が大きく ならないように
	12	チームを編成し リーグ戦を行なう
備考		

	週	内　　容
後期	1	個人的技能 集団的技能　　ゲーム　（リーグ戦）
	2	ゲーム前のチーム練習 → 前回の試合内容を各チームで反省し、技能面の欠点を補なうための練習をする。
	3	・簡単なスコアーをつけ個々の技能の成績を出す。
	4	
	5	
	6	チームの再編成　新チームでのリーグ戦を開始
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	
備考		男・女半々が望ましい。

評価方法：・個人的技能
（提出課題、試験等）・ゲーム結果（集団、個人技能）　等を総合的に見て評価する。

バスケットボール

担 当 者：小川　又八朗
テキスト：ナシ
目　　標：バスケットボールのルールを理解し、個人的及び集団的技能を習得するとともにそれらをもとにした戦術を習得し、ゲームの展開方法を学習する。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	オリエンテーション（体育館）。 登録の確認と授業内容の説明。個人資料の作成等。
	2	授業に関してのオリエンテーション。 個人技能（ﾎﾞﾃﾞｨｰｺﾝﾄﾛｰﾙ、ﾎﾞｰﾙﾊﾝﾄﾞﾘﾝｸﾞ 、ﾊﾟｽ、ﾄﾞﾘﾌﾞﾙ、ｼｭｰﾄ。
	3	個人技能（ﾎﾞﾃﾞｨｰｺﾝﾄﾛｰﾙ、ﾎﾞｰﾙﾊﾝﾄﾞﾘﾝｸﾞ 、ﾊﾟｽ、ﾄﾞﾘﾌﾞﾙ、ｼｭｰﾄ。 個人技能（ﾊﾟｽ、ﾄﾞﾘﾌﾞﾙ、ｼｭｰﾄ、ﾘﾊﾞｳﾃﾞｨﾝｸﾞ 。
	4	個人技能（ﾊﾟｽ、ﾄﾞﾘﾌﾞﾙ、ｼｭｰﾄ、ﾘﾊﾞｳﾃﾞｨﾝｸﾞ 。 １対１の攻防。ハーフコート於てゲーム。
	5	上記と同じ。
	6	２対２の攻防　ハーフコート於てゲーム。 ３対３の攻防　ハーフコート於てゲーム。
	7	対人防御と対人防御に対する攻撃法（１）　ゲーム。 対人防御と対人防御に対する攻撃法（２）　ゲーム。
	8	地域防御と地域防御に対する攻撃法（１）　ゲーム。 地域防御と地域防御に対する攻撃法（２）　ゲーム。
	9	リーグ戦形式によるゲーム。
	10	リーグ戦形式によるゲーム。
	11	リーグ戦形式によるゲーム。
	12	リーグ戦形式によるゲーム。 ゲームの攻防を通して攻撃貢献度をテストする。
備考	授業実施場所、体育館　ＡＢコート。 体育館シューズを用意すること。	

	週	内　　容
後期	1	前期の復習。 チーム再編成。個人技能（ﾎﾞﾃﾞｨｰｺﾝﾄﾛｰﾙ、ﾎﾞｰﾙﾊﾝﾄﾞﾘﾝｸﾞ 、ﾊﾟｽ。
	2	個人技能（ﾎﾞｰﾙﾊﾝﾄﾞﾘﾝｸﾞ 。ﾊﾟｽ。ﾄﾞﾘﾌﾞﾙ。ｼｭｰﾄ。
	3	速攻攻撃法（1）　ゲーム。 速攻攻撃法（2）　ゲーム。
	4	上記と同じ。
	5	対人防御と対人防御に対する攻撃法（1）。 リーグ戦形式によるゲーム。
	6	対人防御と対人防御に対する攻撃法（2）。 リーグ戦形式によるゲーム。
	7	対人防御と対人防御に対する攻撃法（3）。 リーグ戦形式によるゲーム。
	8	対人防御と対人防御に対する攻撃法（4）。
	9	地域防御と地域防御に対する攻撃法（1）。 リーグ戦形式によるゲーム。
	10	地域防御と地域防御に対する攻撃法（2）。 リーグ戦形式によるゲーム。
	11	地域防御と地域防御に対する攻撃法（3）。
	12	リーグ戦形式によるゲーム。 まとめのテスト。
備考	出席点呼を毎回実施する。	

評価方法：出席点を中心にして評価し授業態度技能の進歩など加味する。欠席時数７回(提出課題、試験等)以上の者については評価の対象としない。

交通機関及び体調等やむを得ない事由以外の遅刻は認めない。

バスケットボール

担 当 者：勝瀬　武

テキスト：

目　　標：　体育実技は実習であるから積極的に参加し、自ら活動する意欲をもって、体力の維持増進に努めてもらいたい。また、バスケットを通して、社会性、協調性、公正な判断やルールを遵守する態度を学んでほしい。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	オリエンテーション
	2	↓
	3	基本練習　（パス、ドリブル、ドリブルシュート、ランニングシュート、セットシュート）
	4	↓
	5	↓ セットオフェンス　（ハーフコートにおける　3対2　5対5）
	6	↓ セットディフェンス
	7	↓
	8	↓ オールコートにおける試合（班分けをする）
	9	↓
	10	↓ リーグ戦開始（前期）
	11	↓
	12	↓
備考		

	週	内　　容
後期	1	後期リーグ戦前の予備試合 （後期リーグのためにチームの再編成）
	2	↓
	3	後期リーグ戦開始 （試合に際して、各チームより審判、オフィシャルの勉強してもらう）
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	↓
	10	前期リーグ、後期リーグの成績により、順位決定戦を行う。
	11	
	12	↓
備考		

バドミントン

担 当 者：梶野　克之　　研究室：［７２１］

テキスト：

目　　標：バドミントンの各種のストロークを身につけるとともに、シングルス・ダブルスの進行を理解し、ゲームの中でいろいろな技術を発揮できるようにする。同時に審判法を理解し、すすんで審判をする。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	年間授業計画の説明と、受講上の注意、次回からの実技実施上の注意ならびに連絡事項の確認。
	2	コート・ラケット・シャトルの説明。グリップの解説と素振り。ネットをはさんで基本のストローク・クリヤーに近ずける。
	3	前回のクリヤーを発展させ相手コート深くにシャトルを送るハイクリヤーに発展させる。ハイクリヤーの構えからネット際に落とすドロップを学ぶ。
	4	前回までのストロークを復習する。ネット近くで小さくコントロールするヘヤピンの練習をする。同時に前方へのフットワークを学ぶ。
	5	前回までのストロークを復習する。アンダーハンドからシャトルを打ち基本のサーブを練習する。コート縦半分を使い自由に各種ストロークを打つ。
	6	前回までのストロークを課題をきめて練習する。半面シングルスをカウントをとって実施する。縦の動きを課題として試合形式で行う。
	7	前回までのストロークを課題をきめて練習する。前回に続いて半面シングルスを行い、審判法を身につけ、試合結果を記録する。
	8	前回までのストロークを復習する。ドライブの基本を学び、相手コートに素早くシャトルを送り込む。全面を使用したシングルスを実施する。
	9	前回までのストロークを復習する。スマッシュの基本を学び、これまでよりもスピードのあるプレーをする。シングルスを実施する。
	10	前回までのストロークを復習する。相手にハイクリヤーを打ってもらい、後方へのフットワークを学ぶ。ダブルスの基本を理解し、試合を行う。
	11	前回までのストロークを復習する。ダブルスのフォーメーションを考え、練習する。ダブルスのルールを理解し、審判と試合を行う。
	12	前回までのストロークを復習する。幾つかのグループに分け、リーグ戦を行う。進行係りを決め、円滑に試合を進める。
備考		

	週	内　　容
後期	1	前期に練習した基本的なストロークを復習する。ダブルスの試合方法と、審判法を確認し、ダブルスの試合を行う。
	2	クリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスのパートナーを決め、リーグ戦を再開する。セッティングについて理解する。
	3	クリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。ダブルスの基本的なフォーメーションをパートナーと確認し、ゲームの中で実行する。
	4	クリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲームの分析をし、問題点を整理する。引き続きダブルス・ゲームを進める。
	5	クリヤーから開始し、各種ストロークを練習する。前回のゲームの分析をし、問題点を整理する。ゲームの進行状態により、組み合わせを変える。
	6	クリヤーから、自分たちの課題とするストロークの練習をする。ゲームを進行し、練習した課題がゲームに生かせるように努力する。
	7	クリヤーから、自分たちの課題とするストロークの練習をする。引き続き、リーグ戦を進行させ、ゲームのおもしろさを理解する。
	8	クリヤーから、自分たちの課題とするストロークの練習をする。引き続き、ゲームを進行し、試合の中で課題の克服に努める。
	9	パートナーと相談し、ゲームの中での問題点を練習する。リーグ戦の進行状況により、パートナー・組み合わせを考える。
	10	パートナーと相談し、ゲームの中での問題点を練習する。引き続きゲームを進め、ゲームの中で相手の動きに合わせたプレーを練習する。
	11	パートナーと相談し、ゲームの中での問題点を練習する。ゲーム・審判ともに全員が進んで実行する。
	12	ゲームの進行を確認し、勝敗、順位などを整理する。この授業のまとめと、これ以後のバドミントン・体育との関わり方について考える。
備考		

評価方法：評価は、出席回数、授業への参加態度、実技の達成度等によって決定する。
（提出課題、試験等）

バレーボール

担 当 者：小俣　充　　研究室：［７３５］

テキスト：

目　　標：バレーボールの面白さの経験により運動欲求の充足と、自らをアピールし他をアピールさせることによって仲間意識（存在意識）を育む。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	基本技術と動きの反復練習。コミュニケーションタイムを設けて授業の目的を説明し、教師と受講生および受講生相互のコミュニケーションを図る。
	2	基本技術と動きの反復練習。運動量と脈搏・呼吸の関係の理解。プレーしながらの発声の徹底。仲間意識を目指したコミュニケーションタイム。
	3	チーム分け。ゲームでのポジション（個々の能力を生かす意味とプレーの機会均等の意味の理解）確定へのプロセスに導入。コミュニケーションタイム
	4	基本技術と動きの反復練習。個々の能力に対応したポジションでの連係プレーの反復練習。コミュニケーションタイム。
	5	基本技術と動きの反復練習。全員が全てのポジションに順に位置しながらの連係プレーの反復練習。コミュニケーションタイム。
	6	実際のゲームプレーの反復練習。リーダーの必要性の理解と選出。コミュニケーションタイム。
	7	基本技術と動きおよびゲームプレーの反復練習。ポジション確定。コミュニケーションタイム。
	8	ゲームの基本的なパターンの反復練習。個々が自他のアピール努力。その意味の理解を主とするコミュニケーションタイム。
	9	上に同じ。
	10	リーグ戦その１。バレーボールの面白さ・運動欲求・アピールの満足度の確認を主としたコミュニケーションタイム。
	11	リーグ戦その２。上に同じ。
	12	リーグ戦その３。上に同じ。
備考		

	週	内　　容
後期	1	基本技術と動きおよび連係プレーの反復練習。夏期休業中のスポーツ・レクリエーション活動実態調査。コミュニケーションタイム。
	2	基本技術と動きおよび連係プレーの反復練習。プレーしながらの発声の徹底授業の目的の確認。ポジション修正。コミュニケーションタイム。
	3	ゲームの基本的なパターンの反復練習。個々が自他のアピール努力。その意味の理解を主とするコミュニケーションタイム。
	4	リーグ戦その３。コミュニケーションタイム。
	5	リーグ戦その４。コミュニケーションタイム。
	6	リーグ戦その５。コミュニケーションタイム。
	7	リーグ戦その６。コミュニケーションタイム。
	8	リーグ戦その７。コミュニケーションタイム。
	9	より高度なゲームへの連係プレー。コミュニケーションタイム。
	10	決勝リーグ戦その１。満足度の確認を主とするコミュニケーションタイム。
	11	決勝リーグ戦その２。満足度の確認を主とするコミュニケーションタイム。
	12	レクリエーションゲーム。授業と担当教員への評価を主とするコミュニケーションタイム。
備考		

参考文献：守能信次：スポーツとルールの社会学，名古屋大学出版会

評価方法：出席回数をベースにし、自らをどれほどアピールしたか、他のアピールに（提出課題、試験等）どれほど協力したかにより評価。

フリスビー

担 当 者：小俣　充　　研究室：［７３５］

テキスト：

目　　標：フリスビーの面白さの経験による運動欲求の充足と、自らをアピールし他をアピールさせることによって仲間意識（存在意識）を育む。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	基本技術と動きの反復練習。コミュニケーションタイムを設けて授業の目的を説明し、教師と受講生および受講生相互のコミュニケーションを図る。
	2	基本技術と動きの反復練習。運動量と脈搏・呼吸の関係の理解。プレーしながらの発声の徹底。仲間意識を目指したコミュニケーションタイム。
	3	チーム分け。基本技術と動き、応用（三角パス）の反復練習。
	4	上に同じ。確実なパス。動きを伴う三角パス
	5	基本技術と動きの反復練習。２対２のオフェンスとディフェンスで確実なパスとパスカット。
	6	上に同じ。
	7	基本技術と動きの反復練習。３対３のオフェンスとディフェンスで確実なパスとパスカット。
	8	上に同じ。
	9	ゲームの動き（マンツーマンディフェンス）の反復練習。個々が自分をアピールする努力。その意味の理解を主とするコミュニケーションタイム。
	10	ゲームの動き（ＤＦからのパスによるオフェンス）の反復練習。個々が自分をアピールする努力。その意味の理解を主とするコミュニケーションタイム。
	11	４対４のオフェンスとディフェンスを意識したゲーム。
	12	５対５のゲーム。フリスビーの面白さ・運動欲求・アピールの満足度の確認を主としたコミュニケーションタイム。
備考		

	週	内　　容
後期	1	基本技術と動きおよび連係プレーの反復練習。夏期休業中のスポーツ・レクリエーション活動実態調査。コミュニケーションタイム。
	2	基本技術と動きの反復練習。3対3のオフェンスとディフェンスで確実なパスとパスカット。
	3	4対4のオフェンスとディフェンスを意識したゲーム。コミュニケーションタイム。
	4	5対5のゲーム。コミュニケーションタイム。
	5	リーグ戦その1。コミュニケーションタイム。
	6	リーグ戦その2。コミュニケーションタイム。
	7	リーグ戦その3。コミュニケーションタイム。
	8	リーグ戦その4。コミュニケーションタイム。
	9	リーグ戦その5。コミュニケーションタイム。
	10	リーグ戦その6。コミュニケーションタイム。
	11	リーグ戦その7。満足度の確認を主とするコミュニケーションタイム。
	12	リーグ戦その8。授業と担当教員への評価を主とするコミュニケーションタイム。
備考		

参考文献：日本ﾌﾗｲﾝｸﾞﾃﾞｨｽｸ 協会編：ﾌﾗｲﾝｸﾞﾃﾞｨｽｸ のすすめ．ﾍﾞｰｽﾎﾞｰﾙﾏｶﾞｼﾞﾝ社

評価方法：出席回数をベースにし、自らをどれほどアピールしたか、他のアピールに(提出課題、試験等)どれほど協力したかにより評価。

ローラーブレード

担 当 者：加藤　雅子
テキスト：なし
目　　標：技術の向上はもとより、ローラーブレードの楽しさを味わえるようになる。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	年間スケジュールおよび履修上の諸注意と、ローラーブレードの特質について説明
	2	ローラーブレードの履き方と、安全面の諸注意 足踏み、歩行の練習
	3	ハの字歩行、ひょうたん（フォア）、スケーティングの練習 ストップの練習
	4	スケーティング、ひょうたん（フォア）、片ひょうたん（フォア）の練習
	5	歩行（バック）、ひょうたん（バック）の練習
	6	ひょうたん（バック）、片ひょうたん（バック）の練習
	7	スラロームの練習
	8	スラロームの練習
	9	スラロームの練習
	10	クロスの導入
	11	クロスの導入
	12	スケーティング、フォアクロスの練習
備考		出席点呼を毎回実施する。授業の進行状況により変更もある。 授業実施場所の変更等は３棟体育掲示板で指示する。

	週	内　　容
後期	1	スケーティング、ひょうたん（フォア、バック）、ストップの練習
	2	片ひょうたん（フォア、バック）、スネークの練習
	3	スネーク、フォアクロスの練習
	4	スラロームの練習
	5	カーブ、ターンの練習
	6	ターン、パワーストップの練習
	7	バッククロスの練習
	8	バッククロス、方向転換の練習
	9	ステップの練習
	10	技術の向上を目的としたゲームを取り入れた練習
	11	上記と同じ
	12	上記と同じ
備考		

評価方法：（提出課題、試験等）　出席状況、平素の授業態度、レポート、技術の向上を加味して実施する。やむを得ない事由の欠席の場合は、できるだけ早く届け出て指示を受けること。

ローラーブレード

担 当 者：和田　智　　研究室：［７１６］
目　　標：インラインスケートの基本技術の修得

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	オリエンテーション イメージビデオの視聴とインラインスケートの理論
	2	靴、プロテクター合わせ 安全のための諸注意
	3	自然滑走，ヒールストップ，Ｔストップ
	4	フォアヒョウタンとバックヒョウタン フォア片ヒョウタンとバック片ヒョウタン
	5	フォアスネークとフォアストローク
	6	バックスネークとバックストローク
	7	パイロンを使った練習
	8	ターン
	9	カーブ
	10	１００ｍタイムトライアル
	11	前期予備日
	12	前期予備日
備考	学内の路上においてスケートエリアを区切ってその中で練習を行う。 最終的には基本技術のテストを行う。	

	週	内　　容
後期	1	フォアクロッシング1
	2	フォアクロッシング2
	3	フォアクロッシング3
	4	バッククロッシング1
	5	バッククロッシング2
	6	バッククロッシング3
	7	ターンのバリエーションとジャンプ
	8	パワーストップ
	9	テストコースの練習
	10	テスト
	11	後期予備日
	12	後期予備日
備考	雨天の場合は可能な限り体育館2階フロアなどを使いスケートを行なうが、場合によっては他の種目を行なうこともある。	

履修条件：インラインスケート初心者から受講可能
スケート靴，プロテクター類はすべて大学で用意している
動きやすい服装で受講すること
ソックスは必ず用意すること

成績評価：出席状況（60%）、受講態度（20%）、テストの結果（20%）で評価する。

アウトドアレクリエーション山岳型（集中授業）

担 当 者：和田　智　　研究室：［７１６］

目　　標：山岳型野外活動の基本的な知識と技術の修得を通じて、現在、また将来に向けてのレジャー享受能力を高めるとともに、グループワークによってすばらしい人間関係を育んでいくことを目標とする

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	（室内）　オリエンテーション
	2	（屋外）　グループ編成 グループゲーム
	3	（室内）　マップリーディング
	4	（屋外）　グループワーク 班別野外炊事打ち合わせ
	5	（屋外）　野外炊事
	6	（屋外）　レクリエーションスポーツ
	7	↓
	8	（屋内）　体力トレーニングの方法と実技
	9	（屋内）　係別ミーティング 班別野外炊事打ち合わせ
	10	（屋外）　野外炊事
	11	（屋内）　班別打ち合わせ
	12	（屋内）　班別打ち合わせ
備考		

主たる内容：賀高原で実施する夏期休業中の４泊５日の集中授業に向けて、必要な知識、技術を学内での半期の授業の中でのグループワークを通じて学ぶ。宿泊はホテル泊であり、ホテルをベースにして毎日異なったコースを歩き、様々な志賀高原の自然を楽しむ。

志賀高原での主な活動

第１日目　午後　足ならしハイキング　午後２時～５時
第２日目　池巡りコース　　午前８時出発午後４時帰着
第３日目　火山コース　　午前９時出発午後５時帰着
第４日目　パノラマコース　午前８時出発午後４時帰着
第５日目　午前　オリエンテーリング大会　午後１時解散

履修条件：登録時に、必要経費（宿泊費、保険料等、交通費は含まない）として35,000円払い込むこと。
歩くコースは小中学生も利用するハイキングコースであるが、日頃から歩き慣れないものにとってはつらく感じるかもしれない。そのため、４泊５日を乗り越える自信のある者、あるいは挑戦してみたい者の受講を望む。
ハイキングに必要な用具は各自用意すること
上下セパレート式の丈夫な雨具を必ず用意すること
現地集合現地解散とする

集中授業は平成６年９月５日（月）～９日（金）（４泊５日）の予定

評価方法：出席状況（60%）、受講態度（40%）で評価する。

スキートレーニング・スキー（集中授業）

担 当 者：松原　裕　　研究室：［７１４］

テキスト：ベーシック・スキー・テキスト　板垣和男／佐々木明男：共著　千早書房

目　　標：アルペンスキーの基本を理解し、身に付けることを目標とする。学内の授業では、ローラースキー・ローラーブレード等のバランス感覚とストックワーク・基本姿勢などを学ぶ。スキー実習は２月下旬秋田県田沢湖スキー場を予定

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	オリエンテーション ○個人票の作成（写真添付）　○授業実施上の諸注意
	2	第２週より前期は授業がありません。
	3	
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	
備考		

	週	内　　容
後期	1	ローラーブレード① ○サイズ合せ　○基本滑走
	2	ローラーブレード② ○デモビデオでのイメージトレーニング　○基本滑走
	3	ストックワーク① ○直滑降姿勢・曲げプルーク・伸しプルーク　○ストックワーク
	4	ストックワーク② ○ターンイメージの中でのストックワーク
	5	ローラーブレード・ローラースキー① ○滑走しながらのストックワーク
	6	ローラーブレード・ローラースキー② ○スラローム滑走しながらのストックワーク
	7	ローラーブレード・ローラースキー③ ○ペア滑走でのシンクロ・逆シンクロ
	8	ストックワーク③ ○正しい姿勢の反復練習
	9	総合練習
	10	スキー実習のオリエンテーション① ○テキスト配布　○スキー指導法　○スキーの基本理論
	11	スキー実習のオリエンテーション② ○スキーの基本理論・応用　○スキー実習実施上の注意
	12	スキー実習のオリエンテーション③ ○スキーの基本理論・応用　○スキー実習実施上の注意
備考		

参考文献：　特にはなし

評価方法：（提出課題、試験等）　学内授業の毎時間の出欠席、受講態度、スキー実習での技術の進歩、宿舎での学習態度などを総合して評価する。次の点には特に注意する事。スキー用具、スキーウェアは貸スキー・貸ウェアも含めて各自で用意する事。現地集合解散となるので、総費用は４泊５日で７～８万円程度となる。学内授業中の雨天時でも実技を体育館など場所を変更して実施する。最終的には、受講生の能力によって授業内容が決定されることになる。

ソフトボール・スキー（集中授業）

担 当 者：田代　力也　　研究室：［７２２］

目　　標：バッティング、ベースランニング、打球の捕球、送球など攻守に必要な個人的な技能を高め、ゲームができるための組織をかく得する。
生涯スポーツとして代表的なスキーの安全性確保をめざし、さまざまな技術を体得してゆく中で、それ等が、条件の変化に適応できることをめざす。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	キャッチボール、投げ方、捕り方、グローブの構え方
	2	トスバッティング 左右への打ち分け
	3	フライボールの捕り方 グラウンダーの捕り方
	4	投手の投球法
	5	フリーバッティング センター返し、左右への打ち分け
	6	内野手の捕球と送球
	7	外野手の捕球と送球
	8	バント打法
	9	各種連けいプレイ
	10	ゲーム
	11	ゲーム
	12	ゲーム
備考		

	週	内　　容
後期	1	スキートレーニング ストレッチングによる身体づくり
	2	安全なスキーについての実地指導
	3	平地歩行、平地滑走
	4	登り方
	5	プルーク姿勢からの止まり方
	6	直滑降→プルーク　くり返し
	7	プルークボーゲン
	8	プルークウェーデルン
	9	シュテムターン→回転前半のシュテム
	10	パラレルターン
	11	パラレルターン
	12	プルークウェーデルンの復習 ウェーデルン
備考	１２週分を４泊５日の集中講義として実施する。	

フリスビー・ウィンドサーフィン（集中授業）

担 当 者：和田　智　　研究室：［７１６］

目　　標：前期フリスビーではアルミテットというディスクを使って行うゲームを実施できるよう練習し、フリスビー競技の特性、楽しさについて追及する。
集中事業では、ウィンドサーフィンに関わる知識、技術の修得を通して、現在、また将来に向けてのレジャー享受能力を高めることを目標とする。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	オリエンテーション
	2	バックハンドスロウ，サイドアームスロウ，投げ方のバリエーション
	3	↓
	4	↓
	5	↓
	6	ルール説明とミニゲーム
	7	キャッチアンドスロウ，ディスタンス，アキュラシー，ガッツ， アルミテットリーグ戦
	8	↓
	9	↓
	10	↓
	11	↓
	12	↓
備考		

履修条件：フリスビー、ウィンドサーフィンの未経験者でも受講可能
特にウィンドサーフィンでは泳げなくとも受講可
ただし、心疾患、耳鼻科系疾患等があり、海に入れないものは受講できない。
フリスビー、ウィンドサーフィンに関わる用具（ウェットスーツ、マリンブーツなど）は全て大学で用意している
ウィンドサーフィンでは登録時に必要経費（宿泊費、食費、保険料等、交通費は含まない）として28,000円払い込むこと
セイリング技術の進歩の度合いは天候に大きく左右される
現地集合現地解散とする

集中授業は平成６年９月13日（火）～17（土）（４泊５日）の予定

評価方法：フリスビーでは出席状況（60%）、受講態度（20%）、チームへの貢献度（20%）で評価する。
ウィンドサーフィンでは出席状況（60%）、受講態度（40%）で前期と集中授業を合わせて評価する。

ローラーブレード・アウトドアレクリエーション海浜型（集中授業）

担 当 者：和田　智　　研究室：［７１６］

目　　標：前期にはインラインスケートの基本技術の修得
集中授業では様々な海浜野外活動を体験し、基本的な知識と技術の修得を通じて現在、また将来に向けてのレジャー享受能力を高めるとともに、団体生活によってすばらしい人間関係を育んでいくことを目標とする

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
前期	1	オリエンテーション イメージビデオの視聴とインラインスケートの理論
	2	靴、プロテクター合わせ 安全のための諸注意
	3	自然滑走 ヒールストップ，Ｔストップ
	4	フォアヒョウタンとバックヒョウタン フォア片ヒョウタンとバック片ヒョウタン
	5	フォアスネークとフォアストローク
	6	バックスネークとバックストローク
	7	パイロンを使った練習
	8	ターン　　スリーターン 　　モホークターン
	9	カーブ　　パワーストップ
	10	テストコースの練習
	11	テスト
	12	テスト
備考		

主な内容：インラインスケートでは学内の路上においてスケートエリアを区切り、その中で練習を行なう。前期の終わりにテストを実施する。
アウトドアレクリエーション・海浜型では夏期休業中の集中授業という形で、自然環境の豊かな新潟県佐渡島で４泊５日を過ごす。内容はカヤック、ウインドサーフィン、スキンダイビング、釣りを班ごとにローテーションで体験する。

履修条件：インラインスケート初心者から受講可能
スケート靴、プロテクター類は学校で用意している
動きやすい服装で受講すること　ソックスは必ず用意すること
アウトドアレクリエーション・海浜型は登録時に必要経費（宿泊代、保険料他、交通費は含まない）として30,000円払い込むこと
心疾患、耳鼻科系の疾患等があり、水に入れないものは受講できない。
現地集合現地解散

集中事業は平成６年７月26日（火）～30（土）（４泊５日）の予定

評価方法：インラインスケートでは出席状況（60%）、受講態度（20%）、テストの結果（20%）で評価する。
アウトドアレクリエーション・海浜型では出席状況（60%）、受講態度（40%）で前期と集中授業を合わせて評価する。

ローラーブレード・スケート（集中講義）

担 当 者：和田　智　　研究室：［７１６］

テキスト：特になし

目　　標：ローラーブレードによる基礎的なスケートのバランス感覚と動作を習得し、体をつかう楽しさと習慣を身に付け、健康であるために生涯行うことのできるスポーツの一つとしてほしい。

年間予定　　（　）曜日：（　）限：（　）棟（　　）

	週	内　　容
後期	1	ローラーブレードの初歩的動作・フォア滑走・ターン・ストップ
	2	片足滑走・ひょうたん
	3	フォアクロス・方向転回
	4	フォアスネイク
	5	バックひょうたん
	6	フォアからバック・方向転回
	7	フォアからバック
	8	バックひょうたん・バックスネイク
	9	バッククロス
	10	フォアクロス・セミサークルについて（アウト）
	11	バッククロス・フォアクロス
	12	スケート授業の説明・ＶＴＲ（カーリング・ホッケー）
備考	１２月１９日～２３日　軽井沢スケートセンターにて集中授業 ＊集中授業の講義概要を参照のこと。	